

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成27年5月1日現在)

静岡県立大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	11
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	14
基礎資料 4	カリキュラムマップ	108
基礎資料 5	語学教育の要素	109
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習のスケジュール	110
基礎資料 7	学生受入状況について	113
基礎資料 8	教員・事務職員数	114
基礎資料 9	専任教員年齢構成	115
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	116
基礎資料11	卒業研究の配属状況	128
基礎資料12	講義室等の数と面積	129
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	130
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	131
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	132

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	1 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	基礎英語 I	前期	30	4	122	コ	S		1
	基礎英語 II	前期	30	4	122	コ	S		1
	基礎英語 III	後期	30	4	113	コ	S		1
	基礎英語 IV	後期	30	4	113	コ	S		1
	物理学	前期	120	1	123	コ			2
	基礎化学	前期	120	1	123	コ			2
	生物学	前期	120	1	123	コ			2
	数学 I	前期	120	1	123	コ			2
	数学 II	後期	120	1	120	コ			2
	統計学	後期	120	1	120	コ			1
	身体運動科学	前期・後期	40	3	123	コ		■	2
	命と倫理	前期	120	1	123	コ	S		2
	(択) 基礎生物学	前期	60	1	65	コ			2
	(択) 情報科学	前期	60	1	57	コ			2
	科学演習 I	後期	60	2	120	コ	S		1
	科学演習 II	後期	60	2	120	コ	S		1
	(択) 海外研修英語	-	-	-	0		S		1
	(択) 静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	前期	200	1	30	コ			2
	(択) 静岡の防災と医療	前期	300	1	87	コ		■	2
	(択) TOEFL 留学英語 I	前期	60	1	1	コ			1
	(択) TOEIC ビジネス英語 I	前期	60	1	3	コ			1
	(択) グローバル政治経済事情	前期	60	1	2	コ			2
	(択) ドイツ語入門	前期	60	1	6	コ		■	2
	(択) バイオ—静岡から世界へA	前期	60	1	28	コ			1
	(択) バイオ—静岡から世界へB	前期	60	1	25	コ			1
	(択) ヒューマン・ケア	前期	200	1	59	コ			2
	(択) ムセイオン静岡Ⅲ舞台芸術A	前期	50	1	3	コ		■	1
	(択) ムセイオン静岡Ⅲ舞台芸術B	前期	50	1	3	コ		■	1
	(択) ライティング基礎	前期	50	1	9	コ	S		2
	(択) 環境科学入門	前期	100	1	36	コ			2
	(択) 基礎生命科学 I A	前期	100	1	21	コ			2
	(択) 基礎生命科学 I B	前期	100	1	18	コ			2
	(択) 経営分析入門A	前期	50	1	1	コ			1
	(択) 経営分析入門B	前期	50	1	1	コ			1
	(択) 国際関係学入門	前期	50	1	2	コ			2
	(択) 社会思想史入門	前期	100	1	16	コ			2
	(択) 宗教学入門	前期	100	1	6	コ			2
	(択) 情報検索実習	前期	100	1	27	コ		■	2
	(択) 情報検索実習	前期	100	1	25	コ		■	2
	(択) 総合科目 I (キャリア形成概論 I)	前期	100	1	7	コ			2
	(択) 男女共同参画社会とジェンダー	前期	100	1	13	コ			2
	(択) 中国語入門	前期	50	1	9	コ			2
	(択) 日本語作文 A	前期	100	1	35	コ			2
	(択) 物理学入門	前期	100	1	21	コ			2
	(択) TOEFL 留学英語 II	後期	50	1	2	コ			1
	(択) スペイン語入門	後期	50	1	2	コ			2
	(択) フランス語入門	後期	50	1	2	コ			2
	(択) 基礎生命科学 II A	後期	50	1	1	コ			1
	(択) 現代日本文化入門A	後期	50	1	1	コ			1
	(択) 自然科学概論	後期	50	1	7	コ			2
(択) 社会学入門	後期	50	1	2	コ			2	
(択) 生涯発達心理入門	後期	50	1	4	コ			2	
(択) 生命倫理入門	後期	50	1	3	コ			2	
(択) 静岡地域食文化A	後期	50	1	3	コ			1	
(択) 静岡地域食文化B	後期	50	1	3	コ			1	
(択) 地域づくりの理論	後期	100	1	10	コ			2	
(択) 茶学入門	後期	100	1	30	コ			2	
(択) 哲学入門	後期	100	1	7	コ			2	
(択) 富士山学	後期	30	1	3		S	■	2	
(択) 文化人類学入門	後期	50	1	2	コ			2	

薬学専門教育	薬学概論	前期	120	1	123	コ			2
	無機化学	前期	120	1	123	コ			2
	有機化学 I	後期	120	1	120	コ			2
	物理化学 I	前期	120	1	123	コ			2
	物理化学 II	後期	120	1	120	コ			2
	分析化学 I	前期	120	1	123	コ			2
	分析化学 II	後期	120	1	120	コ			2
	生物化学I	前期	120	1	123	コ			2
	生物化学II	後期	120	1	120	コ			2
	機能形態生理学I	後期	120	1	120	コ			2
実習	早期体験実習	前期・後期	4	1	123		S	■	1
演習									
単位数の合計							(必須科目)		42
							(選択科目)		13
							合計		55

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実技・体験学習=■

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	英語コミュニケーションⅠ	前期	30	4	117	コ	S		1
	英語コミュニケーションⅡ	後期	30	4	120	コ	S		1
	(択) 英語コミュニケーションⅢ	前期	60	2	109	コ	S		1
	(択) 英語コミュニケーションⅣ	後期	60	2	91	コ	S		1
	(択) 静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	前期	200	1	5	コ			2
	(択) 基礎生命科学ⅠA	前期	100	1	1	コ			2
	(択) 基礎生命科学ⅠB	前期	100	1	1	コ			2
	(択) 生物学入門	後期	100	1	1	コ			2
	(択) フランス語入門	後期	50	1	1	コ			2
	(択) 日本語作文B	後期	100	1	1	コ			2
	(択) 自然科学概論	後期	50	1	1	コ			2
	(択) 茶学入門	後期	100	1	1	コ			2
	(択) 哲学入門	後期	100	1	1	コ			2
	(択) 生涯発達心理入門	後期	50	1	1	コ			2
	(択) 言語の学習・習得A	後期	50	1	1	コ			1
(択) 言語の学習・習得B	後期	50	1	1	コ			1	
薬学専門教育	有機化学Ⅱ	前期	120	1	118	コ			2
	有機化学Ⅲ	前期	120	1	119	コ			2
	有機化学Ⅳ	後期	120	1	121	コ			2
	生薬学	後期	120	1	119	コ			2
	物理化学Ⅲ	前期	120	1	118	コ			2
	生物物理化学Ⅰ	後期	120	1	119	コ			1
	製剤学	後期	120	1	120	コ			2
	薬剤学	後期	120	1	121	コ			1
	生物化学Ⅲ	前期	120	1	120	コ			2
	生物化学Ⅳ	後期	120	1	121	コ			2
	微生物学	前期	120	1	118	コ			2
	ウイルス学	後期	120	1	122	コ			1
	免疫学	後期	120	1	121	コ			2
	衛生薬学Ⅰ	前期	120	1	119	コ			2
	衛生薬学Ⅱ	後期	120	1	119	コ			2
	(択) 環境毒性学	後期	120	1	120	コ			2
	公衆衛生学	前期	120	1	120	コ			2
機能形態生理学Ⅱ	前期	120	1	119	コ			2	
薬理学Ⅰ	前期	120	1	118	コ			2	
薬理学Ⅱ	後期	120	1	122	コ			2	
実習	基礎薬学・医用工学実習	前期	4	2	117	コ	S		2
	物理系薬学実習	前期	4	2	117	コ	S		2
	生物系薬学実習Ⅰ	後期	4	2	119	コ	S		2
	化学系薬学実習Ⅰ	後期	4	2	117	コ	S		2
演習									
単位数の合計								(必須科目)	45
								(選択科目)	12
								合計	57

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

	3 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	薬学英语	前期	60	2	109	コ	S		2	
薬学専門教育	有機化学V	前期	120	1	111	コ			1	
	創薬科学	前期	120	1	110	コ			2	
	(択) 生物物理化学II	前期	120	1	55	コ			1	
	微生物薬品学I	前期	120	1	110	コ			1	
	(択) 微生物薬品学II	前期	120	1	30	コ			1	
	漢方薬学	前期	120	1	108	コ			2	
	薬品分析化学	前期	120	1	109	コ			2	
	放射線と医療	前期	120	1	109	コ			2	
	臨床検査学	前期	120	1	110	コ			2	
	遺伝子診断学	後期	120	1	110	コ			1	
	(択) 創剤工学	前期	120	1	44	コ			1	
	(択) 抗体工学	前期	120	1	102	コ			1	
	遺伝子工学	後期	120	1	110	コ			1	
	薬理学III	前期	120	1	110	コ			2	
	薬物動態学I	前期	120	1	110	コ			2	
	薬物動態学II	後期	120	1	108	コ			2	
	薬物療法学I	後期	120	1	100	コ			2	
	薬物療法学II	後期	120	1	92	コ			2	
	分子毒性学	後期	120	1	109	コ			2	
	医薬品安全性学	前期	120	1	110	コ			1	
	疾患学I	後期	120	1	92	コ			2	
	疾患学II	後期	120	1	91	コ			2	
	薬学と社会	後期	120	1	86	コ			2	
医薬品情報学I	後期	120	1	91	コ			1		
医薬品情報学II	後期	120	1	90	コ			1		
実習	医療系薬学実習	後期	4	2	110	コ	S		3	
	生物系薬学実習II	前期	4	2	110	コ	S		2	
	化学系薬学実習II	前期	4	2	109	コ	S		2	
演習	有機化学演習	後期	4	1	110	コ	S		1	
単位数の合計							(必須科目)			45
							(選択科目)			4
							合計			49

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

	4 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) 薬品製造論	前期	80	1	21	コ			1
	(択) 有機合成論	前期	80	1	12	コ			1
	(択) 医薬品情報学Ⅲ	前期	80	1	33	コ			1
	医療とコミュニケーション学	前期	80	1	82	コ	S		1
	(択) ペプチド科学	前期	80	1	4	コ			1
	(択) 糖鎖生物学	前期	80	1	8	コ			1
	臨床薬物動態学	前期	80	1	82	コ			1
	薬物療法学Ⅲ	前期	80	1	82	コ			2
	疾患学Ⅲ	前期	80	1	82	コ			2
	調剤学	前期	80	1	82	コ			2
	(択) 臨床医学総論	前期	80	1	63	コ			1
	(択) 医用工学概論	前期	80	1	16	コ			2
	(択) 臨床検査総論	前期	80	1	14	コ	S		2
	(択) 臨床生理学	前期	80	1	16	コ			2
	(択) 生物学的試験法	前期	80	1	50	コ			1
	(択) 有機反応論	前期	80	1	14	コ			1
	(択) 医動物学	後期	80	1	12	コ			1
実習	実務事前実習	後期	4	1	82	コ	S		3
演習	総合薬学研究	4~6年	80	1	82		S	■	10
	総合薬学演習	4~5年	80	1	82		S	■	3
	臨床薬学演習	4~6年	80	1	82		S	■	3
単位数の合計							(必須科目)		11
							(選択科目)		15
							合計		26

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 研究・演習=■

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

	5 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育									
実習	病院実務実習	前期・後期	1~16		79		S	■	10
	薬局実務実習	前期・後期	1~2		79		S	■	10
演習	総合薬学研究	4~6年	80		79		S	■	10
	総合薬学演習	4~6年	80		79		S	■	3
	臨床薬学演習	4~6年	80		79		S	■	3
単位数の合計						(必須科目)			20
						(選択科目)			0
						合計			20

(凡例)
講義=○ PBL/SGD=S 研究・演習・実践実習=■

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=○、PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

	6 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育										
薬学専門教育										
実習										
演習	総合薬学研究	4~6年	80	1	82	S	■		10	
	総合薬学演習	4~6年	80		79	S	■		3	
	臨床薬学演習	4~6年	80	1	82	S	■		3	
	(択) 静岡救命連携演習	前期	20	1	3	S			2	
単位数の合計							(必須科目)			16
							(選択科目)			2
							合計			18

(凡例)
 講義=○ PBL/SGD=S 研究・演習=■

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=○、PBL/SGD=S
 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	8	32
教養教育科目	82	8単位以上
語学教育科目	9	10
医療安全教育科目	5	9
生涯学習の意欲醸成科目	5	27
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	5	10

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	42	13	55
2 年 次	45	12	57
3 年 次	45	4	49
4 年 次	12	14	26
5 年 次	22	0	22
6 年 次	16	0	16
合計	182	43	225

(基礎資料1-7) 学年別授業科目 (旧カリキュラム)

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	8	32
教養教育科目	82	8単位以上
語学教育科目	9	10
医療安全教育科目	5	9
生涯学習の意欲醸成科目	5	27
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	5	10

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	42	13	55
2 年 次	45	12	57
3 年 次	45	4	49
4 年 次	11	15	26
5 年 次	20	0	20
6 年 次	16	2	18
合計	179	46	225

※旧カリキュラムから新カリキュラムで、4年次の必修及び、5年次の必修単位数が変更

(基礎資料 2 - 1) 在籍学生数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	120	120	120	80	80	80	600	A	
	編入定員数							0	B	
	入学者数	122	129	123	133	123	127			
基準日 における	各学年の在籍学生数	124	126	112	82	79	82	605	C	
	編入学生数 (内) ※	0	0	0	0	0	0	0	D	
	留年者数 (内)	2	8	4	2	1	1			
	留年者の 入学年度	平成20年度 以前								
		平成21年度					1	1		
		平成22年度			1					
		平成23年度			1	2				
		平成24年度		3	2					
		平成25年度		5						
	平成26年度	2								
C / (A + B)		1.01	※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。							
D / B		0.00	(備考) 一括入学で3年次後期に進路希望や学業成績等を基に学科を決定するため、1~3年次の入学定員と在籍者数及び1~4年次の入学者数は薬学部の総数を記入。							

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数 (内)」および「留年者数 (内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

(基礎資料 2 - 2) 休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
総在籍 学生数	543				625				627				606				606				605			
	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数
1年次			4		1		3		4		10		2		9		6	1	10		1	2		
2年次	3	6	3		2	6	2		2	4	4		1	4	1		2	5			3	8		
3年次	2	9	1		1	5	1			4	2		2	5	1		1	6	2		1	4		
4年次			5							1				2				1	1			2		
5年次														1				1				1		
6年次					1				1	2			2	1				3				1		
合計	5	15	13	0	5	11	6	0	7	11	16	0	7	13	11	0	9	17	13	0	5	18	0	0

(備考)一括入学で3年次後期に進路希望や学業成績等を基に学科を決定するため、1～3年については薬学部の総数を記入。

[注] 平成27年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)
卒業生総数		79名	95名	82名	84名	82名	名
卒業生の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	79名	1名	名	1名	名	名
	平成19年度入学者	名	94名	1名	名	名	名
	平成20年度入学者	名	名	81名	2名	名	名
	平成21年度入学者	名	名	名	81名	1名	名
	平成22年度入学者	名	名	名	名	81名	名
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名

入学者総数		卒業率 (%)
平成18年度	81名	97.5%
平成19年度	95名	98.9%
平成20年度	83名	97.6%
平成21年度	82名	98.8%
平成22年度	81名	100.0%
平成23年度	名	

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)						
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。						
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。						
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。						
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)						
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。						
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。						
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)				実務事前実習		
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)						
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)						
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。						
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。						
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。						
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)				実務事前実習		
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。						
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)						
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)						
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)						
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【自己学習・生涯学習】						

1) 医療に関する諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。 (知識・技能・態度)					実務事前実習		
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)							
(3) 信頼関係の確立を目指して							
【コミュニケーション】							
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。					医療とコミュニケーション学		
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。							
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。							
【相手の気持ちに配慮する】							
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。					医療とコミュニケーション学		
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)							
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)							
【患者の気持ちに配慮する】							
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。					医療とコミュニケーション学		
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)							
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)							
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。 (態度)							
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)							
【チームワーク】							
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。					医療とコミュニケーション学		
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)							
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)							
【地域社会の人々との信頼関係】							
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	薬学概論						
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)							
B イントロダクション							
(1) 薬学への招待							
【薬学の歴史】							
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学概論						
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。							
【薬剤師の活動分野】							
1) 薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)について概説できる。	薬学概論						
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	薬学概論						
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	薬学概論				医療とコミュニケーション学		
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。							
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。							
【薬について】							
1) 「薬とは何か」を概説できる。							

2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	薬学概論					
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。						
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	薬学概論					
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。						
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。						
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。			薬品分析化学			
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学概論					
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)						
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)						
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)						
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)						
C 薬学専門教育						
【物理系薬学を学ぶ】						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【化学結合】						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	無機化学					
2) 軌道の混成について説明できる。						
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。	基礎化学					
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。						
【分子間相互作用】						
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学Ⅱ					
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。						
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。						
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【原子・分子】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。						
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						

3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。	物理化学 II					
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。						
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)		物理系薬学実習				
6) 偏光および旋光性について説明できる。						
7) 散乱および干渉について説明できる。						
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。						
【放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		放射線と医療 生物系薬学実習 II				
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線の測定原理について説明できる。						
(2) 物質の状態 I						
【総論】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 I					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。	物理化学 I					
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。						
3) 仕事および熱の概念を説明できる。						
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)		物理系薬学実習				
7) エンタルピーについて説明できる。						
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)		物理系薬学実習				
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。						
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 I					
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)		物理系薬学実習				
4) 熱力学第三法則について説明できる。						
5) 自由エネルギーについて説明できる。						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)		物理系薬学実習				
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(van' t Hoffの式)について説明できる。						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。						
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						

1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。	物理化学 I					
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 代表的な状態図 (一成分子、二成分系、三成分系相図) について説明できる。						
4) 物質の溶解平衡について説明できる。						
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。						
6) 界面における平衡について説明できる。						
7) 吸着平衡について説明できる。						
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)			物理系薬学実習			
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。	物理化学 I	物理化学 III				
2) 活量と活量係数について説明できる。	物理化学 I 分析化学 I	物理化学 III				
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物理化学 I	物理化学 III				
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。	物理化学 I 分析化学 I	物理化学 III				
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。	物理化学 I	物理化学 III				
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	物理化学 I					
2) 標準電極電位について説明できる。						
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4) Nernstの式が誘導できる。						
5) 濃淡電池について説明できる。						
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。		生物物理化学 I				
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学 III				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学 III 物理系薬学実習				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学 III				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学 III 物理系薬学実習	医療系薬学実習			
5) 代表的な複合反応 (可逆反応、平行反応、連続反応など) の特徴について説明できる。		物理化学 III				
6) 反応速度と温度との関係 (Arrheniusの式) を説明できる。						
7) 衝突理論について概説できる。						
8) 遷移状態理論について概説できる。						
9) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応など) について説明できる。						

10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		生物物理化学 I				
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		物理化学 III				
2) 沈降現象について説明できる。						
3) 流動現象および粘度について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	分析化学 I					
2) 溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。(技能)		物理系薬学実習				
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)	分析化学 I					
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。		物理化学 III				
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。						
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。						
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学 I					
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。						
3) 酸化還元電位について説明できる。						
4) 酸化還元平衡について説明できる。						
5) 分配平衡について説明できる。						
6) イオン交換について説明できる。						
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		基礎薬学・医用工学実習	薬品分析化学			
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)	分析化学 II	基礎薬学・医用工学実習 物理系薬学実習 生物系薬学実習 I				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。			薬品分析化学			
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。				薬品分析化学		
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 II	物理系薬学実習				
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						

5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		物理系薬学実習				
6) 電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。						
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）		物理系薬学実習				
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。			薬品分析化学			
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。						
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		物理系薬学実習	薬品分析化学			
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。（知識・技能）		物理系薬学実習 生物系薬学実習Ⅰ	薬品分析化学 化学系薬学実習Ⅱ			
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）		生物系薬学実習Ⅰ	薬品分析化学			
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			薬品分析化学			
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。			薬品分析化学 臨床検査学			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		生物系薬学実習Ⅰ	薬品分析化学			
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）			薬品分析化学 生物系薬学実習Ⅱ			
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			臨床検査学			
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
7) 代表的な画像診断技術（X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。			放射線と医療			
8) 画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。						
9) 薬学領域で繁用されるその他の分析技術（バイオイメージング、マイクロチップなど）について概説できる。						
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			分子毒性学			
2) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）			生物系薬学実習Ⅱ			
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	物理化学Ⅱ 分析化学Ⅱ		薬品分析化学			
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						

4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	物理化学Ⅱ					
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)		物理化学Ⅱ 物理系薬学実習 生物系薬学実習Ⅰ				
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。	物理化学Ⅱ					
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。		有機化学Ⅱ	薬品分析化学			
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅲ				
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。		物理化学Ⅲ				
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。		生物物理化学Ⅰ				
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。						
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。						
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。						
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。		生物物理化学Ⅰ				
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
3) 脂質の水における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。						
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						
G4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	基礎化学					
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。						
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。						
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	有機化学Ⅰ					
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。						
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	無機化学					

7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。	有機化学 I					
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。						
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	基礎化学					
2) キラリティーと光学活性を概説できる。						
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明できる。						
6) Fischer 投影式とNewman 投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	無機化学					
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	無機化学					
2) 配位結合を説明できる。						
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4) 錯体の安定度定数について説明できる。						
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。						
6) 錯体の反応性について説明できる。						
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	基礎化学					
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。						
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。						
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。						
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。						

4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。		有機化学Ⅱ				
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。		有機化学Ⅲ				
2) 芳香族性 (Hückel則) の概念を説明できる。						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。		有機化学Ⅳ				
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	基礎化学					
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。			創薬科学			
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)						
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		化学系薬学実習Ⅰ	化学系薬学実習Ⅱ			
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		有機化学Ⅳ				
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ					
2) 求核置換反応 (S_N1 および S_N2 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。		有機化学Ⅱ				
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ					
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ				
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ					
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ				
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ				
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ				
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。						

2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。	基礎化学					
3) 含窒素化合物の塩基性を説明できる。		有機化学Ⅳ				
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		生薬学				
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。			有機化学演習			
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピンの結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。			有機化学演習			
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機化学Ⅱ				
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)			有機化学演習			
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		有機化学Ⅱ				
【マスペクトル】						
1) マスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機化学Ⅳ				
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマスペクトルを解析できる。(技能)			化学系薬学実習Ⅱ 有機化学演習			
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。	基礎化学					
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)						
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		化学系薬学実習Ⅰ	有機化学演習			

05 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ				
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅰ					
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。						
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅳ				
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅰ					
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅲ				
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9) カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅳ				
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学Ⅲ	有機化学演習			
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		化学系薬学実習Ⅰ	化学系薬学実習Ⅱ 有機化学演習	有機合成論		
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		有機化学Ⅱ				
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。		有機化学Ⅳ				
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。	基礎化学					
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。		有機化学Ⅳ	有機化学演習	有機合成論		
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			有機化学演習	有機合成論		
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			有機化学演習	有機合成論		
【光学活性化化合物】						
1) 光学活性化化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。	基礎化学					
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)		生物系薬学実習Ⅰ	有機化学演習	有機合成論		
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)		化学系薬学実習Ⅰ	化学系薬学実習Ⅱ			
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)		化学系薬学実習Ⅰ	化学系薬学実習Ⅱ			
06 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合(アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など)および相互作用について説明できる。		生物物理化学Ⅰ				
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。		有機化学Ⅳ		糖鎖生物学		
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						

4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。		生物物理化学 I	有機化学 V		
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。		有機化学 IV		糖鎖生物学	
【生体内で機能する複素環】					
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。			有機化学 V		
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。					
3) 複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。					
【生体内で機能する錯体・無機化合物】					
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	無機化学				
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。					
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。					
【化学から観る生体ダイナミクス】					
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			創薬科学		
2) 代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。					
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。					
(2) 医薬品のコアとパーツ					
【医薬品のコンポーネント】					
1) 代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。			創薬科学		
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。					
【医薬品に含まれる複素環】					
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			有機化学 V		
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。					
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。					
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。					
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。					
【医薬品と生体高分子】					
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			創薬科学		
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。					
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)		有機化学 II 化学系実習 I			
【生体分子を模倣した医薬品】					
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬科学		
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					ペプチド科学
【生体内分子と反応する医薬品】					
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			創薬科学		
2) インターカレーター的作用機構を図示し、説明できる。					

3) β -ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。					
C7 自然が生み出す薬物					
(1) 薬になる動植物					
【生薬とは何か】					
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学			
2) 生薬の歴史について概説できる。					
3) 生薬の生産と流通について概説できる。					
【薬用植物】					
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)		生薬学	生物系薬学実習Ⅱ		
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。					
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。					
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)			生物系薬学実習Ⅱ		
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。					
【植物以外の医薬資源】					
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		生薬学			
【生薬成分の構造と生合成】					
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学			
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。					
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。					
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。					
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。					
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。					
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。					
【農業、化粧品としての利用】					
1) 天然物質の農業、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。		生薬学			
【生薬の同定と品質評価】					
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学	生物系薬学実習Ⅱ		
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)					
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)					
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)					
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。					
(2) 薬の宝庫としての天然物					
【シーズの探索】					
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		漢方薬学			
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。					
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。					
【天然物質の取扱い】					

1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)		生物系薬学実習 I	化学系薬学実習 II			
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。		生薬学				
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。			微生物薬品学			
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。			微生物薬品学			
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			微生物薬品学			
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。			漢方薬学			
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。						
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。			漢方薬学			
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						
【生物系薬学を学ぶ】						
C8 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	機能形態生理学 I					
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態生理学 I					
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態生理学 I					
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態生理学 I					
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態生理学 II					
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						

【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
【生殖器系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列举し、形態的および機能的特徴を説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)		基礎薬学・医用工学 実習				
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	生物化学Ⅰ 機能形態生理学Ⅰ					
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列举し、その機能を説明できる。						
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	生物化学Ⅰ 機能形態生理学Ⅰ					
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	生物学 基礎生物学					
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	生物学					
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	機能形態生理学Ⅰ					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	機能形態生理学Ⅰ					
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。						

3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。					
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。					
【ホルモンによる調節機構】					
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		機能形態生理学Ⅱ			
2) 血糖の調節機構を説明できる。					
【循環・呼吸系の調節機構】					
1) 血圧の調節機構を説明できる。		機能形態生理学Ⅱ			
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。					
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。					
【体液の調節機構】					
1) 体液の調節機構を説明できる。		機能形態生理学Ⅱ			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。					
【消化・吸収の調節機構】					
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。		機能形態生理学Ⅱ			
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。					
【体温の調節機構】					
1) 体温の調節機構を説明できる。		機能形態生理学Ⅱ			
(4) 小さな生き物たち					
【総論】					
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学			
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。					
【細菌】					
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学			
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。					
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。					
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。					
5) 腸内細菌の役割について説明できる。					
6) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。					
【細菌毒素】					
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学			
【ウイルス】					
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学 ウイルス学			
2) ウイルスの分類法について概説できる。		ウイルス学			
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。					
【真菌・原虫・その他の微生物】					
1) 主な真菌の性状について説明できる。		微生物学			
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。					
【消毒と滅菌】					

1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学				
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)			生物系薬学実習Ⅱ			
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)			生物系薬学実習Ⅱ			
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。						
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生物化学Ⅱ					
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生物化学Ⅲ	糖鎖生物学				
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生物系薬学実習Ⅰ			
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物化学Ⅰ					
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。		生物化学Ⅲ				
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		生物系薬学実習Ⅰ				
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。		生物化学Ⅲ				
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。		衛生薬学Ⅰ				
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。	生物化学Ⅱ	生物化学Ⅳ				
2) DNAの構造について説明できる。						
3) RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	生物化学Ⅱ					
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。						

4) 染色体の構造を説明できる。		生物化学Ⅳ				
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。						
6) RNAの種類と働きについて説明できる。	生物化学Ⅱ					
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。		生物化学Ⅳ				
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。						
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。						
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
5) リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。		生物化学Ⅳ				
2) 遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。						
3) DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について概説できる。			医療系薬学実習			
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生物化学Ⅰ					
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。						
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生物化学Ⅰ					
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。（技能）		生物系薬学実習Ⅰ	生物系薬学実習Ⅱ			
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。	生物化学Ⅱ	生物化学Ⅲ				
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。						
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。						
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	生物化学Ⅱ					
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	生物化学Ⅰ					
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。（技能）		基礎薬学・医用工学実習				
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。（知識・技能）	生物化学Ⅰ	生物系薬学実習Ⅰ				
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。						
(4) 生体エネルギー						

【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		生物化学Ⅲ				
【ATPの産生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。		生物化学Ⅲ				
2) 解糖系について説明できる。						
3) クエン酸回路について説明できる。						
4) 電子伝達系（酸化リン酸化）について説明できる。						
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。		生物化学Ⅲ				
2) 糖新生について説明できる。						
3) 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。						
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。						
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オータコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		機能形態生理学Ⅱ				
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。						
4) 主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。		機能形態生理学Ⅰ				
5) 主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		機能形態生理学Ⅰ				
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						

3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。							
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。							
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】							
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		免疫学					
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。							
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。							
【細胞内情報伝達】							
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	生物化学Ⅱ 機能形態生理学Ⅰ						
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。							
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。							
4) 代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。	機能形態生理学Ⅰ						
(6) 遺伝子进行操作する							
【遺伝子操作の基本】							
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。	生物化学Ⅱ	生物化学Ⅳ	生物系薬学実習Ⅱ 遺伝子工学				
2) 細胞からDNAを抽出できる。（技能）			生物系薬学実習Ⅱ				
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。（技能）			生物系薬学実習Ⅱ 医療系薬学実習				
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。（態度）			生物系薬学実習Ⅱ				
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。（態度）			生物系薬学実習Ⅱ 医療系薬学実習				
【遺伝子のクローニング技術】							
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。	生物化学Ⅱ	生物化学Ⅳ	遺伝子工学				
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。							
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。							
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）			生物系薬学実習Ⅱ				
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。	生物化学Ⅱ		遺伝子工学				
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。							
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。（技能）			生物系薬学実習Ⅱ				
【遺伝子機能の解析技術】							
1) 細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。	生物化学Ⅱ		遺伝子工学				
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。							
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。							
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。							
G10 生体防御							
(1) 身体をまもる							
【生体防御反応】							
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		免疫学					
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。		微生物学					
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。							

4) 免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。		免疫学				
5) クローン選択説を説明できる。						
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		免疫学				
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		免疫学	抗体工学			
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。						
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。			抗体工学			
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。		免疫学				
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			医療系薬学実習			
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。		免疫学				
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		免疫学				
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。		免疫学				
2) 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。						
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。		免疫学	抗体工学			
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）			医療系薬学実習			
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）		生物系薬学実習 I				
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						

2) 主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。		ウイルス学				
3) レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。						
4) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
6) グラム陽性桿菌（破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
7) グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8) グラム陰性スピリillum属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学				
9) 抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。		微生物学				
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。						
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）			生物系薬学実習 II			
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		衛生薬学 II				

7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。					
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)					
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。					
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)					
【食中毒】					
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		衛生薬学Ⅱ			
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。					
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。					
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。					
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。					
(2) 社会・集団と健康					
【保健統計】					
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			環境毒性学		
2) 人口静態と人口動態について説明できる。					
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。					
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。					
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。					
【健康と疾病をめぐる日本の現状】					
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。			環境毒性学		
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。					
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)					
【疫学】					
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			環境毒性学		
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。					
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。					
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)					
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)					
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。					
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。					
(3) 疾病の予防					
【健康とは】					
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			環境毒性学		
2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。					
【疾病の予防とは】					
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			環境毒性学		
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。					
3) 新生児マスキリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。					

4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)					
【感染症の現状とその予防】					
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴について説明できる。		微生物学 ウイルス学	環境毒性学		
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。					
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。					
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		微生物学			
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。					
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。					
【生活習慣病とその予防】					
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			環境毒性学		
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。					
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。					
【職業病とその予防】					
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			環境毒性学		
C12 環境					
(1) 化学物質の生体への影響					
【化学物質の代謝・代謝的活性化】					
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			分子毒性学		
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。					
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。					
【化学物質による発がん】					
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			分子毒性学		
2) 変異原性試験(Ames試験など)の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			分子毒性学 生物系薬学実習Ⅱ		
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。			分子毒性学		
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。					
【化学物質の毒性】					
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			分子毒性学		
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。					
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。					
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。					
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。					
6) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。					
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法など)を説明できる。					
8) 環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)					
【化学物質による中毒と処置】					
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			分子毒性学		

2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)			生物系薬学実習Ⅱ			
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。			環境毒性学			
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。			放射線と医療 生物系薬学実習Ⅱ			
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。			環境毒性学			
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。		公衆衛生学				
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			環境毒性学			
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		公衆衛生学				
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)				生物系薬学実習Ⅱ		
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。		公衆衛生学				
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)				生物系薬学実習Ⅱ		
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		公衆衛生学	生物系薬学実習Ⅱ			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						

4) シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。		公衆衛生学				
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)						
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		公衆衛生学				
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 I 薬剤学				
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。		薬理学 I				
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		薬理学 I 薬剤学				
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		薬理学 I				
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬剤学				
2) 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。		薬物動態学 I				
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。		薬理学 I 薬剤学	医薬品安全性学			
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬理学 I				
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)		基礎薬学・医用工学 実習	生物系薬学実習 II 医療系薬学実習			
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方 I						

【中枢神経系に作用する薬】					
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅲ		
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
4) 代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
5) 代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			生物系薬学実習Ⅱ		
【自律神経系に作用する薬】					
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ			
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）△技能であるからCBTには馴染まない				生物系薬学実習Ⅱ	
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】					
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅲ		
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ			
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）			生物系薬学実習Ⅱ		
【循環器系に作用する薬】					
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅱ			
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
【呼吸器系に作用する薬】					
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ			
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
【化学構造】					
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ		
(3) 薬の働き方II					
【ホルモンと薬】					
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学Ⅲ		
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。					
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。					
【消化器系に作用する薬】					
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					

2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III			
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬理学 II				
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬理学 II				
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学 III			
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学 III			
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III			
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。			薬物動態学 I			
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。						
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
到達目標：			薬物動態学 I			
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。						
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5) 薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						

7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)			医療系薬学実習			
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			薬物動態学 I			
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。			薬物動態学 I 医療系薬学実習			
8) 初回通過効果について説明できる。			薬物動態学 I			
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			薬物動態学 I			
2) 腎クリアランスについて説明できる。						
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。						
4) 胆汁中排泄について説明できる。						
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学 I	臨床薬物動態学		
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学 II			
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。			薬物動態学 II 医療系薬学実習			
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学 II			
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)						
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)						
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)						
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)						
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)					臨床薬物動態学	
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング(TDM)の意義を説明できる。		薬剤学	薬物動態学 II	臨床薬物動態学 調剤学		
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						

3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)			医療系薬学実習	臨床薬物動態学 実務事前実習		
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。						
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)						
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄痘、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ	疾患学Ⅲ		
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			臨床検査学	調剤学		
				臨床薬学演習		
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				調剤学		
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				臨床薬学演習		
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べるることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ 薬物療法Ⅰ	疾患学Ⅲ 医療系薬学実習		
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)				臨床薬学演習		
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅰ 薬物療法Ⅰ			
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック			疾患学Ⅰ			

【血液・造血器の疾患】					
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅰ 薬物療法学Ⅰ		
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓			疾患学Ⅰ		
【消化器系疾患】					
1) 消化器系の部位別(食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓)に代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅱ 薬物療法学Ⅱ		
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病			疾患学Ⅱ		
【総合演習】					
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)			医療系薬学実習	臨床薬学演習	
(3) 疾患と薬物治療(腎臓疾患等)					
【腎臓・尿路の疾患】					
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅱ		
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患学Ⅱ 薬物療法学Ⅱ		
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石			疾患学Ⅱ		
【生殖器疾患】					
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅱ	疾患学Ⅲ	
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物療法学Ⅱ		
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症			疾患学Ⅱ	疾患学Ⅲ	
【呼吸器・胸部の疾患】					
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅰ		
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患学Ⅰ 薬物療法学Ⅰ		
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌			疾患学Ⅰ		
【内分泌系疾患】					
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅱ		
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患学Ⅱ 薬物療法学Ⅱ		
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病			疾患学Ⅱ		
【代謝性疾患】					

1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患学Ⅱ 薬物療法学Ⅱ				
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
【神経・筋の疾患】							
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅱ				
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患学Ⅱ 薬物療法学Ⅱ				
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患学Ⅱ 薬物療法学Ⅱ 抗体工学				
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆			疾患学Ⅱ				
【総合演習】							
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			医療系薬学実習				
(4) 疾患と薬物治療（精神疾患等）							
【精神疾患】							
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。				疾患学Ⅲ			
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ			
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			抗体工学	疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ			
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症				疾患学Ⅲ			
【耳鼻咽喉の疾患】							
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患学Ⅲ			
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ			
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎				疾患学Ⅲ			
【皮膚疾患】							
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患学Ⅲ			
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ			
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症				疾患学Ⅲ			
【眼疾患】							
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患学Ⅲ			
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ			
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症				疾患学Ⅲ			
【骨・関節の疾患】							
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患学Ⅰ				
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					薬物療法学Ⅰ		
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							

4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症				疾患学 I		
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。			疾患学 I	薬物療法学 I		
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物療法学 I		
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				臨床薬物動態学 薬物療法学Ⅲ 疾患学Ⅲ		
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ		
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。				疾患学Ⅲ		
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)			医療系薬学実習			
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		微生物学			臨床薬学演習	
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			微生物薬品学 I			
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7) ビリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。				薬物療法学 I		
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				薬物療法学Ⅲ		
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品学 I			
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品学 I			
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。			薬物療法学 I			

【抗菌薬の耐性と副作用】					
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。			微生物薬品学 I		
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。					
【悪性腫瘍の病態と治療】					
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				疾患学Ⅲ	
				臨床薬学演習	
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。				疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ	
				臨床薬学演習	
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。				疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ	
				臨床薬学演習	
【抗悪性腫瘍薬】					
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。				薬物療法学Ⅲ	
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。					
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。					
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。					
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。					
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。					
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。					
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。					
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】					
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				薬物療法学Ⅲ	
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			医薬品安全性学	臨床薬学演習	
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。					
C15 薬物治療に役立つ情報					
(1) 医薬品情報					
【情報】					
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。		薬剤学	医薬品情報学 I		
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。					
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。					
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。					
5) 医薬品情報に関する代表的な法律と制度について概説できる。					
【情報源】					
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医薬品情報学 I		
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。					
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。					
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。					

7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。(技能)					
【収集・評価・加工・提供・管理】					
1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医薬品情報学 I		
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。					
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)					
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)					
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
【データベース】					
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報学 I		
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)					
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)					
【EBM (Evidence-Based Medicine)】					
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医薬品情報学 I		
2) EBM実践のプロセスを概説できる。					
3) 臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)の長所と短所を概説できる。					
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)					
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。					
6) 臨床適用上の効果指標(オッズ比、必要治療数、相対危険度など)について説明できる。					
【総合演習】					
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。				臨床薬学演習	
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)					
(2) 患者情報					
【情報と情報源】					
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報学 I		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。					
【収集・評価・管理】					
1) 問題志向型システム(POS)を説明できる。			医薬品情報学 I		
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)					
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)					
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)					
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)					
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)					
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)					
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して					
【遺伝的素因】					
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。					

2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			遺伝子診断学			
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学 薬物療法学Ⅲ		
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学		
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学		
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物療法学Ⅰ	臨床薬物動態学		
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）				臨床薬物動態学		
				臨床薬学演習		
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				臨床薬物動態学		
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）				臨床薬学演習		
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。				臨床薬物動態学		
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。		物理化学Ⅲ				
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。		製剤学				
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。		物理化学Ⅲ				
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。		製剤学				
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3) 乳剤の型と性質について説明できる。						
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		製剤学				
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。		創剤工学				

4) 粉体の性質について説明できる。		製剤学				
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末×線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)		医療系薬学実習				
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。		製剤学				
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。		創剤工学				
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。		製剤学				
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。		製剤学				
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)			医療系薬学実習			
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。		創剤工学				
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。		創剤工学				
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。		創剤工学				
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。		創剤工学				
【その他のDDS】						

1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。		創剤工学			
C17 医薬品の開発と生産					
(1) 医薬品開発と生産のながれ					
【医薬品開発のコンセプト】					
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。		創剤工学			
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。					
【医薬品市場と開発すべき医薬品】					
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。		創剤工学			
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。					
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。					
4) 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。					
【非臨床試験】					
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医薬品情報学Ⅱ		
【医薬品の承認】					
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医薬品情報学Ⅱ		
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。					
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。					
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。					
【医薬品の製造と品質管理】					
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。		創剤工学			
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。					
3) 医薬品製造において環境安全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。					
【規範】					
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMS (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。			医薬品情報学Ⅱ		
【特許】					
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。		創薬科学			
【薬害】					
1) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			医薬品安全性学		
(2) リード化合物の創製と最適化					
【医薬品創製の歴史】					
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。			創薬科学		
【標的生体分子との相互作用】					
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。		創薬科学			
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。					
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。					
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。					
【スクリーニング】					

1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。			創薬科学			
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。			創薬科学			
2) 生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。						
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			創薬科学 ゲノム情報と創薬			
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			創薬科学 ゲノム情報と創薬			
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			創薬科学 ゲノム情報と創薬			
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			創薬科学 ゲノム情報と創薬			
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサブプロット法など）について概説できる。						
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。			創薬科学 遺伝子診断学			
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。			医薬品情報学Ⅱ			
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
3) 治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。						
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）						
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。		調剤学				
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。			医薬品情報学Ⅱ			
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）						

(5) バイオスタティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。	統計学					
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。			医薬品情報学 II			
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。						
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			医療系薬学実習			
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。			医薬品情報学 II			
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)			薬学と社会			
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。			薬学と社会			
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			薬学と社会 調剤学			
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			薬学と社会			
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。			放射線と医療			
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						

【社会保障制度】					
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。			薬学と社会		
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。					
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。					
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。					
【医療保険】					
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。			薬学と社会		
2) 医療保険のしくみを説明できる。					
3) 医療保険の種類を列挙できる。					
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。					
【薬剤経済】					
1) 国民医療費の動向を概説できる。			薬学と社会		
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。					
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。					
4) 医療費の内訳を概説できる。					
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。					
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)					
(3) コミュニティファーマシー					
【地域薬局の役割】					
1) 地域薬局の役割を列挙できる。			薬学と社会		
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。					
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。					
【医薬分業】					
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。			薬学と社会		
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)					
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。					
【薬局の業務運営】					
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。			調剤学		
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。					
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。					
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。					
【OTC薬・セルフメディケーション】					
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)			調剤学		
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。					
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。					

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該当科目			
	2年	3年	4年	5年
D 実務実習教育				
(I) 実務実習事前学習				
(1) 事前学習を始めるにあたって				
《薬剤師業務に注目する》				
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。			・医療とコミュニケーション学	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			・調剤学	
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)			・実務事前実習	
《チーム医療に注目する》				
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。			医療とコミュニケーション学 調剤学	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			医療とコミュニケーション学 調剤学 薬理学	
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)			医療とコミュニケーション学 実務事前実習	
《医薬分業に注目する》				
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		薬学と社会		
(2) 処方せんと調剤				
《処方せんの基礎》				
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	薬剤学		調剤学	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。			・調剤学	
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	薬剤学		・実務事前実習	
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			調剤学	
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)			実務事前実習	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			調剤学	
《医薬品の用法・用量》				
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。				
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)	薬剤学		調剤学	
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。				
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)			実務事前実習	
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。			調剤学	
《服薬指導の基礎》				
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。			実務事前実習	
《調剤室業務入門》				
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)			・調剤学	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)			・実務事前実習	
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)			実務事前実習	
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)			・調剤学	
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)			・実務事前実習	
(3) 疑義照会				
《疑義照会の意義と根拠》				
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。				
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。			・調剤学	
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)			・実務事前実習	
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。				
《疑義照会入門》				
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)				
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。			調剤学	
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。				
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。				

9.	疑義照会の流れを説明できる。				実務事前実習	
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)				実務事前実習	
(4) 医薬品の管理と供給						
《医薬品の安定性に注目する》						
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				調剤学	
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。					
《特別な配慮を要する医薬品》						
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。				調剤学	
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。					
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。				調剤学	
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。					
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)				調剤学	
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。					
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。				実務事前実習	
《製剤化の基礎》						
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。					
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)					
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				実務事前実習	
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)					
《注射剤と輸液》						
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。				調剤学	
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)				実務事前実習	
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。				調剤学	
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)				実務事前実習	
《消毒薬》						
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。				調剤学	
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。					
(5) リスクマネージメント						
《安全管理に注目する》						
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。					
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。				・調剤学 ・実務事前実習	
3.	院内感染の回避方法について説明できる。				調剤学	
《副作用に注目する》						
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習 臨床薬学演習
《リスクマネージメント入門》						
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。					
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)				実務事前実習	
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)					
(6) 服薬指導と患者情報						
《服薬指導に必要な技能と態度》						
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。				実務事前実習	
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。				調剤学	
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。					
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)					・病院実務実習 ・薬局実務実習
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)					
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)				実務事前実習	
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。					
《患者情報の重要性に注目する》						
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。				調剤学	
9.	患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能)				実務事前実習	
10.	医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。				調剤学	
《服薬指導入門》						
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能)				調剤学	
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度)				実務事前実習	
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)				調剤学	

14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)			実務事前実習	
(7) 事前学習のまとめ				

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)				・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習	臨床薬学演習	
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)				・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)				・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	科学演習 I				・病院実務実習 ・薬局実務実習	
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)					・病院実務実習 ・薬局実務実習	
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	・命と倫理 ・科学演習 I					
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)						
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)				・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。				・医療とコミュニケーション学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。				・医療とコミュニケーション学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	統計学			・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習	臨床薬学演習	
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。				調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。				調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。					・病院実務実習 ・薬局実務実習	

8) 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）	・薬学概論 ・科学演習 I	公衆衛生学				
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）				・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。				実務事前実習		臨床薬学演習
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。			医薬品情報学 I	・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。		公衆衛生学	医薬品安全性学			
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）	科学演習 I		毒性学			
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	・薬学概論 ・科学演習 I					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。						
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。			医薬品安全性学			
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	・薬学概論 ・科学演習 I					
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	・命と倫理 ・科学演習 I					
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。			医薬品情報学 II			
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）	・命と倫理 ・科学演習 I					
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。						
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。						
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。			薬学と社会			
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。						
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）			遺伝子診断学			
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。			・遺伝子診断学 ・薬学と社会			
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。			・遺伝子診断学 ・薬学と社会 ・医薬品情報学 II			

4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・技能・態度)			・遺伝子診断学 ・医薬品情報学 I	・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。			・遺伝子診断学 ・薬学と社会 ・医薬品情報学 II			
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。			・遺伝子診断学 ・薬学と社会 ・医薬品情報学 II			
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)			・遺伝子診断学 ・医薬品情報学 II			
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。						
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。				医療とコミュニケーション学		
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。						
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)						
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)						
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)				・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習		
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	科学演習 I					
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)						
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。				医療とコミュニケーション学	・病院実務実習	
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)				・医療とコミュニケーション学 ・実務事前実習	・薬局実務実習	
(4) 多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。						
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。				調剤学		
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。					・病院実務実習 ・薬局実務実習	
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)						
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)						
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	科学演習 I			実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)				実務事前実習		臨床薬学演習
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)			医薬品情報学 I	実務事前実習		臨床薬学演習
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	・情報科学 ・科学演習 I、II			実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	臨床薬学演習

5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習		
臨床薬学演習							
【②薬学教育の概要】							
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。					・病院実務実習 ・薬局実務実習		
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)					・病院実務実習 ・薬局実務実習		
【③生涯学習】							
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。					・病院実務実習 ・薬局実務実習		
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)			・情報科学 ・科学演習Ⅱ				
【④次世代を担う人材の育成】							
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習		
臨床薬学演習							
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)				実務事前実習			
臨床薬学演習							
B 薬学と社会							
(1) 人と社会に関わる薬剤師							
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	命と倫理		薬学と社会				
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	科学演習Ⅰ		・薬学と社会 ・医療系薬学実習				
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)							
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)					・病院実務実習 ・薬局実務実習		
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)							
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範							
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】							
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。			薬学と社会		・病院実務実習 ・薬局実務実習		
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。							
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。							
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。							
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。							
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。							
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。							
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。							
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】							
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。			・薬学と社会 ・医薬品情報学Ⅰ, Ⅱ	調剤学			
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。						病院実務実習	
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。							
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。							
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			・薬学と社会 ・医薬品情報学Ⅱ	調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。						・病院実務実習 ・薬局実務実習	
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。					薬学と社会	・病院実務実習 ・薬局実務実習	

8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。						・病院実務実習 ・薬局実務実習
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規について説明できる。			医薬品情報学 I	調剤学		・病院実務実習 ・薬局実務実習
10) 健康被害救済制度について説明できる。			薬学と社会			
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。			・薬学と社会 ・医薬品情報学 II			
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。			薬学と社会	調剤学		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。						・病院実務実習 ・薬局実務実習
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。				調剤学		
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。			薬学と社会	調剤学		・病院実務実習 ・薬局実務実習
2) 医療保険制度について説明できる。						
3) 療養担当規則について説明できる。						
4) 公費負担医療制度について概説できる。						
5) 介護保険制度について概説できる。						
6) 薬価基準制度について概説できる。						
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。						
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。			薬学と社会			・病院実務実習 ・薬局実務実習
2) 国民医療費の動向について概説できる。			薬学と社会			
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。			・薬学と社会 ・医薬品情報学 II	調剤学		・病院実務実習 ・薬局実務実習
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。			薬学と社会			
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。			薬学と社会			薬局実務実習
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。						
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。						
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。						
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。						
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。						
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。			薬学と社会			薬局実務実習
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。						
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。						
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)						
C 薬学基礎						

C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。	・基礎化学 ・無機化学 ・物理化学Ⅱ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅴ			
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	・基礎化学 ・無機化学 ・物理化学Ⅱ ・有機化学Ⅰ					
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	・基礎化学 ・物理化学Ⅱ ・有機化学Ⅰ					
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	・基礎化学 ・物理化学Ⅱ ・生物化学Ⅰ	生物物理化学Ⅰ				
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	・基礎化学 ・物理化学Ⅱ					
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	・基礎化学 ・物理化学Ⅱ ・有機化学Ⅰ					
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	・基礎化学 ・無機化学 ・有機化学Ⅰ ・物理化学Ⅱ ・生物化学Ⅰ	・物理化学Ⅲ ・生物物理化学Ⅰ				
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	・基礎化学 ・無機化学 ・有機化学Ⅰ ・物理化学Ⅱ ・生物化学Ⅰ					
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	・無機化学 ・物理化学Ⅱ	物理化学Ⅲ				
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	・基礎化学 ・物理化学Ⅱ ・有機化学Ⅰ	・物理化学Ⅲ ・生物物理化学Ⅰ				
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理化学Ⅱ	生物系薬学実習Ⅰ	・放射線と医療 ・生物系薬学実習Ⅱ			
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。						
5) 光の散乱および干渉について説明できる。						
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。			物理化学Ⅲ ・物理化学Ⅲ ・生物物理化学Ⅰ			
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。	生物系薬学実習Ⅰ	・放射線と医療 ・生物系薬学実習Ⅱ				
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線測定の原理と利用について概説できる。						
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学Ⅰ					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						

3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学 I					
2) 熱力学第一法則を説明できる。						
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6) エンタルピーについて説明できる。	・基礎化学 ・物理化学 II					
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	・基礎化学 ・物理化学 II					
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学 I					
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	・基礎化学 ・物理化学 I ・有機化学 I					
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		物理化学 I				
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物理化学 I	物理化学 III				
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	・基礎化学 ・物理化学 I ・有機化学 I					
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理化学 I	物理化学 III			
4) 共役反応の原理について説明できる。		生物化学 III				
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。	物理化学 I	物理化学 III				
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 状態図について説明できる。						
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。	分析化学 I	物理化学 III				
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。						
4) イオン強度について説明できる。						
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	・物理化学 I ・分析化学 I	基礎薬学・医用工学 実習				
2) 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。						
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	・基礎化学 ・有機化学 I	物理化学 III				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）				・物理化学 III ・物理系薬学実習		

3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学Ⅲ				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	・基礎化学 ・有機化学Ⅰ	・物理化学Ⅲ ・物理系薬学実習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学Ⅲ				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。	基礎化学	・物理化学Ⅲ ・物理系薬学実習				
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。	・基礎化学 ・有機化学Ⅰ	物理化学Ⅲ		有機反応論		
G2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		物理系薬学実習				
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	分析化学Ⅰ	・基礎薬学・医用工学実習 ・物理系薬学実習	化学系薬学実習Ⅱ			
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学Ⅱ	物理系薬学実習				
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	・基礎化学 ・無機化学 ・有機化学Ⅰ ・分析化学Ⅰ	・物理化学Ⅲ ・物理系薬学実習	化学系薬学実習Ⅱ			
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	分析化学Ⅰ	・物理化学Ⅲ ・物理系薬学実習				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	分析化学Ⅰ	・基礎薬学・医用工学実習 ・物理系薬学実習				
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	・分析化学Ⅰ ・生物化学Ⅰ	物理系薬学実習	化学系薬学実習Ⅱ			
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ	物理化学Ⅲ				
2) 沈殿平衡について説明できる。		物理系薬学実習				
3) 酸化還元平衡について説明できる。		物理化学Ⅲ				
4) 分配平衡について説明できる。						
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	無機化学		薬品分析化学			
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【②定量分析(容量分析・重量分析)】						
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅱ	物理系薬学実習				
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		物理系薬学実習				
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。				薬品分析化学		
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		分析化学Ⅱ				
(4) 機器を用いる分析法						

【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	・物理化学Ⅱ ・分析化学Ⅱ					
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。			化学系薬学実習Ⅱ			
3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	物理化学Ⅱ	有機化学Ⅱ				
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			薬品分析化学			
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。	・物理化学Ⅱ ・分析化学Ⅱ					
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)	分析化学Ⅱ					
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	物理化学Ⅱ		化学系薬学実習Ⅱ			
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			薬品分析化学	ペプチド科学		
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。	物理化学Ⅱ	・物理化学Ⅲ ・生物物理化学Ⅰ				
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		物理化学Ⅲ				
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		物理化学Ⅲ				
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		物理系薬学実習				
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		・生物系薬学実習Ⅰ ・化学系薬学実習Ⅰ	・薬品分析化学 ・化学系薬学実習Ⅱ			
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		物理系薬学実習		ペプチド科学		
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			薬品分析化学			
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		物理系薬学実習	・薬品分析化学 ・化学系薬学実習Ⅱ			
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。			・薬品分析化学 ・抗体工学			
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。			薬品分析化学	ペプチド科学		
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			・薬品分析化学 ・臨床検査学 ・抗体工学			
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。			・医療系薬学実習 ・臨床検査学	ペプチド科学		
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		・化学系薬学実習Ⅰ	・抗体工学			
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			・臨床検査学 ・抗体工学			

5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		・生物系薬学実習 I	・薬品分析化学 ・放射線と医療 ・生物系薬学実習 II			
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	・基礎化学 ・無機化学 ・有機化学 I	有機化学 II	有機化学 V			
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	・基礎化学 ・有機化学 I					
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	・基礎化学 ・無機化学 ・有機化学 I					
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	・基礎化学 ・有機化学 I	有機化学 II	有機化学 V			
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	・基礎化学 ・無機化学 ・有機化学 I					
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機化学 I	・有機化学 II ・有機化学 IV	・有機化学 V ・化学系薬学実習 II	有機合成論		
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。						
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	・基礎化学 ・有機化学 I	有機化学 II				
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)		有機化学 III	・有機化学 V ・化学系薬学実習 II ・有機化学演習	有機合成論		
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。				有機合成論		
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	・基礎化学 ・有機化学 I			・有機合成論 ・有機反応論		
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。				有機反応論		
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	基礎化学					
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	・基礎化学 ・有機化学 I		有機化学演習	有機合成論		
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II				
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	・基礎化学 ・有機化学 I		有機化学演習			
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	・基礎化学 ・科学演習 II					
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。						
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	基礎化学		有機化学演習			
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。						
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	・基礎化学 ・有機化学 I ・科学演習 II		有機化学演習			
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。						

2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学Ⅱ		有機合成論		
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学Ⅲ	有機化学Ⅴ	有機合成論		
2) 芳香族性の概念を説明できる。				有機合成論		
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。				有機合成論		
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。				有機合成論		
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。				有機合成論		
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	・基礎化学 ・有機化学Ⅰ	有機化学Ⅳ	・有機化学Ⅴ ・化学系薬学実習Ⅱ ・有機化学演習	有機合成論		
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		化学系薬学実習Ⅰ				
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ			有機合成論		
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。						
3) 脱離反応の特徴について説明できる。		有機化学Ⅱ				
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ		化学系薬学実習Ⅱ	有機合成論		
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒドおよびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ	化学系薬学実習Ⅱ	有機合成論		
2) カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ、Ⅳ				
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。						
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ	・有機化学Ⅴ ・化学系薬学実習Ⅱ	有機合成論		
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	・基礎化学 ・有機化学Ⅰ		・有機化学Ⅴ ・有機化学演習	有機合成論		
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	・基礎化学 ・有機化学Ⅰ	有機化学Ⅳ	有機化学演習	有機合成論		
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。			有機化学Ⅴ			
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴(NMR)】						
1) ^1H および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機化学Ⅲ	・化学系薬学実習Ⅱ ・有機化学演習			
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
3) ^1H NMR の積分値の意味を説明できる。						
4) ^1H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。						

5) 代表的な化合物の部分構造を $^1\text{H NMR}$ から決定できる。(技能)						
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機化学Ⅲ	・化学系薬学実習Ⅱ ・有機化学演習			
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。						
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		有機化学Ⅳ	有機化学演習			
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。						
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		化学系薬学実習Ⅰ	・化学系薬学実習Ⅱ ・有機化学演習			
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。		無機化学				
2) 代表的な無機酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。				有機反応論		
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	生物化学Ⅰ	・生物物理化学Ⅰ ・生物化学Ⅲ、Ⅳ	・有機化学Ⅴ ・創薬科学	ペプチド科学		
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	生物化学Ⅱ		創薬科学	ペプチド科学		
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。						
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。						
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	無機化学					
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。			有機化学Ⅴ			
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。		生物化学Ⅲ				
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。		・生物物理化学Ⅰ ・生物系薬学実習Ⅰ	・創薬科学 ・化学系薬学実習Ⅱ			
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						

3) 遷移状態アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。		生物物理化学 I			
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】					
1) 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。	生物化学 II		創薬科学	ペプチド科学	
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。					
【④生体内で起こる有機反応】					
1) 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。		生物化学 IV	創薬科学		
2) 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝の活性化など）を有機化学の観点から説明できる。		衛生薬学 I	毒性学		
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用					
【①医薬品と生体分子の相互作用】					
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。		生物物理化学 I	・創薬科学 ・化学系薬学実習 II		
【②医薬品の化学構造に基づく性質】					
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。			・創薬科学 ・化学系薬学実習 II ・創剤工学		
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			創薬科学		
【③医薬品のコンポーネント】					
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			・創薬科学 ・化学系薬学実習 II		
2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。			創薬科学		
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			・有機化学 V ・創薬科学		
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】					
1) スクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		・生物化学 IV ・ウイルス学	創薬科学		
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
5) β -ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					ペプチド科学
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】					
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	生物化学 II		創薬科学		
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	生物化学 II				
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】					
1) DNA と結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			創薬科学		
2) DNA にインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。					
3) DNA 鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。					

【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。			・創薬科学 ・生物系薬学実習Ⅱ			
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。		生薬学	・漢方薬学 ・化学系薬学実習Ⅱ			
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）			化学系薬学実習Ⅱ			
3) 植物の主な内部形態について説明できる。						
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。						
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学	・漢方薬学 ・化学系薬学実習Ⅱ			
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学	・漢方薬学 ・化学系薬学実習Ⅱ			
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学	化学系薬学実習Ⅱ			
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。						
3) 代表的な生薬を鑑別できる。（技能）						
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。						
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。						
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学	微生物薬品学Ⅱ			
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			微生物薬品学Ⅰ、Ⅱ	薬品製造論		
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識、技能）			・化学系薬学実習Ⅱ ・微生物薬品学Ⅱ	薬品製造論		
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			・創薬科学 ・微生物薬品学Ⅱ	薬品製造論		
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。						

3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		生薬学	微生物薬品学Ⅱ			
C6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	・生物化学Ⅱ ・機能形態生理学Ⅰ	・生物物理化学Ⅰ ・生物系薬学実習Ⅰ		ペプチド科学		
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。						
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。	・生物学 ・基礎生物学	生物物理化学Ⅰ		ペプチド科学		
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	・生物学 ・機能形態生理学Ⅰ					
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	・生物化学Ⅱ ・機能形態生理学Ⅰ	・生物物理化学Ⅰ ・生物化学Ⅳ ・生物系薬学実習Ⅰ				
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。		・有機化学Ⅳ ・生物化学Ⅲ		糖鎖生物学		
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。		・有機化学Ⅳ ・生物化学Ⅲ ・生物系薬学実習Ⅰ				
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物化学Ⅰ	生物物理化学Ⅰ		ペプチド科学		
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	・基礎生物学 ・生物化学Ⅰ	・物理化学Ⅲ ・生物物理化学Ⅰ		ペプチド科学		
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。	生物化学Ⅱ	・生物物理化学Ⅰ ・生物化学Ⅳ				
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。		衛生薬学Ⅰ				
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。		衛生薬学Ⅰ				
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。（技能）		・基礎薬学・医用工学実習 ・生物系薬学実習Ⅰ	医療系薬学実習			
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	生物化学Ⅰ	・生物物理化学Ⅰ ・生物化学Ⅲ、Ⅳ				

【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。		生物化学Ⅳ		ペプチド科学		
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生物化学Ⅰ	・生物物理化学Ⅰ ・生物系薬学実習Ⅰ				
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。			・生物化学Ⅲ、Ⅳ ・生物系薬学実習Ⅰ			
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生物系薬学実習Ⅰ				
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	・生物化学Ⅱ ・機能形態生理学Ⅰ	生物物理化学Ⅰ				
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。	機能形態生理学Ⅰ					
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生物化学Ⅱ	生物化学Ⅳ	・遺伝子診断学 ・遺伝子工学			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。	生物化学Ⅱ	・生物物理化学Ⅰ ・生物化学Ⅳ	遺伝子診断学			
2) 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エクソン、イントロンなど）を説明できる。				生物化学Ⅳ		
3) RNAの種類（hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど）と機能について説明できる。						
【③遺伝子の複製】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。		生物化学Ⅳ				
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。	基礎生物学	生物化学Ⅳ				
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
3) 転写因子による転写制御について説明できる。						
4) RNAのプロセッシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など）について説明できる。						
5) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNAの変異と修復について説明できる。	生物化学Ⅱ	生物化学Ⅳ				
【⑥組換えDNA】						
1) 遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。	生物化学Ⅱ	生物化学Ⅳ	・遺伝子診断学 ・遺伝子工学	ペプチド科学		
2) 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。			遺伝子工学			
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【①概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	・生物学 ・基礎生物学	生物化学Ⅲ				
【②ATPの産生と補償代謝】						

1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		生物化学Ⅲ					
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。							
3) 電子伝達系(酸化的リン酸化)と ATP 合成酵素について説明できる。							
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。							
5) 糖新生について説明できる。							
【③脂質代謝】							
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		生物化学Ⅲ、Ⅳ					
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生物化学Ⅲ					
【④飢餓状態と飽食状態】							
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		生物化学Ⅲ	臨床検査学				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生物学						
【⑤その他の代謝系】							
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。	生物学	生物化学Ⅲ					
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生物化学Ⅳ					
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生物化学Ⅲ					
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達							
【① 概論】							
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	・生物化学Ⅱ ・機能形態生理学Ⅰ	薬理学Ⅰ		ペプチド科学			
【②細胞内情報伝達】							
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	・生物化学Ⅱ ・機能形態生理学Ⅰ	薬理学Ⅰ		ペプチド科学			
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。							
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。			創薬科学				
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。					ペプチド科学		
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。							
【③細胞間コミュニケーション】							
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	・生物化学Ⅱ ・機能形態生理学Ⅰ						
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。							
(7) 細胞の分裂と死							
【①細胞分裂】							
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	・生物学 ・生物化学Ⅱ	生物化学Ⅳ	創薬科学				
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	・基礎生物学 ・生物化学Ⅱ						
【②細胞死】							
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	・生物学 ・生物化学Ⅱ						
【③がん細胞】							
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	生物化学Ⅱ		創薬科学				
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。			・創薬科学 ・遺伝子診断学				
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節							

(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	・生物学 ・基礎生物学		・遺伝子診断学 ・遺伝子工学			
2) 遺伝子多型について概説できる。	・生物学 ・生物化学Ⅱ					
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。	生物化学Ⅱ		遺伝子診断学			
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。	・生物学 ・基礎生物学					
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	基礎生物学					
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	・生物学 ・機能形態生理学Ⅰ					
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態生理学Ⅰ					
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）		基礎薬学・医用工学 実習				
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）						
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。	・生物学 ・機能形態生理学Ⅰ					
2) 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。	機能形態生理学Ⅰ					
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態生理学Ⅰ					
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。		機能形態生理学Ⅱ				
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。	生物学	・基礎薬学・医用工学実習 ・機能形態生理学Ⅱ				
2) 血管系について概説できる。		機能形態生理学Ⅱ				
3) リンパ管系について概説できる。		・免疫学 ・機能形態生理学Ⅱ				
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。		機能形態生理学Ⅱ	薬物療法学Ⅰ			
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	生物学	機能形態生理学Ⅱ	・薬物療法学Ⅱ ・生物系薬学実習Ⅱ			
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。			薬物療法学Ⅱ			
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。		機能形態生理学Ⅱ				
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。		機能形態生理学Ⅱ				

【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。	・生物学 ・機能形態生理学 I	機能形態生理学 II		ペプチド科学		
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	・基礎生物学 ・機能形態生理学 I			薬物療法学 III		
【⑭血液・造血管系】						
1) 血液・造血管系について概説できる。	生物学	機能形態生理学 II	薬物療法学 I			
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	・基礎生物学 ・生物化学 II ・機能形態生理学 I		生物系薬学実習 II			
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	・生物化学 II ・機能形態生理学 I					
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態生理学 I					
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。			生物系薬学実習 II			
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	・基礎生物学 ・生物化学 II ・機能形態生理学 I		臨床検査学	ペプチド科学		
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態生理学 I					
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生物化学 II	免疫学				
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態生理学 II	臨床検査学			
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	基礎生物学	機能形態生理学 II	臨床検査学			
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。		機能形態生理学 II	臨床検査学			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	・基礎生物学 ・機能形態生理学 I					
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	生物学	機能形態生理学 II	臨床検査学			
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。		機能形態生理学 II				
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	・基礎生物学 ・機能形態生理学 I					

2) 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。		免疫学				
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	基礎生物学					
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	基礎生物学	免疫学				
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。			抗体工学			
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		免疫学				
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性(遺伝子再構成)と活性化について説明できる。			抗体工学			
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学				
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。			薬物療法学 I			
4) 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。						
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類(生ワクチン、不活化ワクチン、トキシイド、混合ワクチンなど)について説明できる。		・ウイルス学 ・免疫学				
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。		免疫学	抗体工学			
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。						
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法(ELISA 法、ウエスタンブロット法など)を実施できる。(技能)		生物系薬学実習 I	・医療系薬学実習 ・生物系薬学実習 II			
(3) 微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	基礎生物学	・微生物学 ・ウイルス学				
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。		微生物学				
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。						
3) 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。						
4) 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。						
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。						
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。				糖鎖生物学		
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		ウイルス学				

【④ 真菌・原虫・蠕虫】					
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学			
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。					
【⑤ 消毒と滅菌】					
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学	生物系薬学実習Ⅱ		
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。					
【⑥ 検出方法】					
1) グラム染色を実施できる。(技能)					
2) 無菌操作を実施できる。(技能)			生物系薬学実習Ⅱ		
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)					
(4) 病原体としての微生物					
【①感染の成立と共生】					
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		微生物学			
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。					
【②代表的な病原体】					
1) DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		ウイルス学			
2) RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。					
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など)について概説できる。		微生物学			
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。					
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。					
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。					
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。					
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。					
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。					
D 衛生薬学					
D1 健康					
(1) 社会・集団と健康					
【①健康と疾病の概念】					
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。		公衆衛生学			
【②保健統計】					
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。		公衆衛生学			
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。					
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。					
【③疫学】					

1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		公衆衛生学					
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。							
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。							
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）							
(2) 疾病の予防							
【①疾病の予防とは】							
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。		衛生薬学 I					
2) 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。							
【②感染症とその予防】							
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		微生物学	・微生物学 ・ウイルス学				
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。							
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。		微生物学	・ウイルス学 ・免疫学				
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。							
【③生活習慣病とその予防】							
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。		衛生薬学 I					
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。							
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）							
【④母子保健】							
1) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。		公衆衛生学	遺伝子診断学				
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		微生物学					
【⑤労働衛生】							
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			毒性学				
2) 労働衛生管理について説明できる。							
(3) 栄養と健康							
【①栄養】							
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		生物学	衛生薬学 I				
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。							
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。							
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。							
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。							
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。							
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。							
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。							
【②食品機能と食品衛生】							
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		衛生薬学 II	生物系薬学実習 II				
2) 油脂が変質する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）							
3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。							
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。							

5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。					
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。					
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。					
【③食中毒と食品汚染】					
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		・微生物学 ・ウイルス学 ・衛生薬学Ⅱ			
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。					
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		衛生薬学Ⅱ			
D2 環境					
(1) 化学物質・放射線の生体への影響					
【①化学物質の毒性】					
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。					
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。					
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。					
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			毒性学		
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）					
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。					
7) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。					
【②化学物質の安全性評価と適正使用】					
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）					
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。					
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。			毒性学		
4) 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。					
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。				薬品製造論	
【③化学物質による発がん】					
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			・遺伝子診断学 ・毒性学 ・生物系薬学実習Ⅱ		
2) 遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。			・毒性学 ・生物系薬学実習Ⅱ		
3) 発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。			・遺伝子診断学 ・毒性学 ・生物系薬学実習Ⅱ		
【④放射線の生体への影響】					
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。					
2) 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。		生物系薬学実習Ⅰ	・放射線と医療 ・生物系薬学実習Ⅱ		
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。					
4) 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。					
(2) 生活環境と健康					

【①地球環境と生態系】					
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		公衆衛生学			
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。					
3) 化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。					
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。					
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）					
【②環境保全と法的規制】					
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		公衆衛生学			
2) 環境基本法の理念を説明できる。				薬品製造論	
3) 環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。					
【③水環境】					
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		公衆衛生学			
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。			生物系薬学実習Ⅱ		
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）					
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。					
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生物系薬学実習Ⅱ		
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。					
【④大気環境】					
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。		公衆衛生学			
2) 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）			生物系薬学実習Ⅱ		
3) 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。					
【⑤室内環境】					
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）		公衆衛生学	生物系薬学実習Ⅱ		
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。					
【⑥廃棄物】					
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。		公衆衛生学		薬品製造論	
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。					
3) マニフェスト制度について説明できる。					
E 医療薬学					
E1 薬の作用と体の変化					
(1) 薬の作用					
【①薬の作用】					
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		・薬剤学 ・薬理学Ⅰ	・創薬科学 ・医薬品安全性学 ・生物系薬学実習Ⅱ		
2) アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。	生物化学Ⅱ		・創薬科学 ・生物系薬学実習Ⅱ		
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。			創薬科学		
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		・生物化学Ⅱ ・機能形態生理学Ⅰ	医薬品安全性学		

5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)	生物化学Ⅱ					
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)		薬剤学	・創薬科学 ・薬物動態学Ⅰ、Ⅱ ・医薬品安全性学	臨床薬物動態学		
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。						
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)		薬理学Ⅰ	医薬品安全性学			
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。						
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)						
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)		生物系薬学実習Ⅰ	・医療系薬学実習 ・生物系薬学実習Ⅱ	医療とコミュニケーション学		
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)						
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		生物系薬学実習Ⅰ	生物系薬学実習Ⅱ			
(2) 身体の病的変化を知る						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸痛、胸膈、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害			・臨床検査学 ・薬物療法Ⅰ、Ⅱ ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	・薬物療法Ⅲ ・疾患学Ⅲ ・実務事前実習		臨床薬学演習
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			・臨床検査学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			・臨床検査学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ ・抗体工学	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			・臨床検査学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			・臨床検査学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ ・抗体工学	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			・臨床検査学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ ・医療系薬学実習	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			・臨床検査学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			疾患学Ⅰ、Ⅱ	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			疾患学Ⅰ、Ⅱ	・疾患学Ⅲ ・実務事前実習		

					臨床薬学演習
(3) 薬物治療の位置づけ					
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。			・薬物療法学Ⅰ、Ⅱ ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	・薬物療法学Ⅲ ・疾患学Ⅲ ・実務事前実習	臨床薬学演習
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）			・薬物療法学Ⅰ、Ⅱ ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	・薬物療法学Ⅲ ・疾患学Ⅲ ・実務事前実習	臨床薬学演習
(4) 医薬品の安全性					
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		・薬剤学 ・薬理学Ⅰ	・薬物療法学Ⅰ、Ⅱ ・医薬品安全性学	・薬物療法学Ⅲ ・実務事前実習	臨床薬学演習
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		・薬剤学 ・薬理学Ⅰ	・薬物療法学Ⅰ、Ⅱ ・医薬品安全性学	・薬物療法学Ⅲ ・実務事前実習	臨床薬学演習
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害		薬剤学	・薬物療法学Ⅰ、Ⅱ ・医薬品安全性学	・薬物療法学Ⅲ ・実務事前実習	臨床薬学演習
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）		薬剤学	医薬品安全性学	・薬物療法学Ⅲ ・実務事前実習	臨床薬学演習
E2 薬理・病態・薬物治療					
(1) 神経系の疾患と薬					
【①自律神経系に作用する薬】					
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ	疾患学Ⅰ、Ⅱ	・薬物療法学Ⅲ ・疾患学Ⅲ	
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			生物系薬学実習Ⅱ	薬物療法学Ⅲ	
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】					
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			・薬理学Ⅲ ・疾患学Ⅱ	薬物療法学Ⅲ	
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			・薬理学Ⅲ ・疾患学Ⅱ ・生物系薬学実習Ⅱ		
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			・疾患学Ⅱ ・生物系薬学実習Ⅱ		
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）			疾患学Ⅱ		
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】					
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			・薬理学Ⅲ ・生物系薬学実習Ⅱ		
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。					
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。					

4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅲ				
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				・薬理学Ⅲ ・薬物療法学Ⅱ ・生物系薬学実習Ⅱ	・薬物療法学Ⅲ ・調剤学		
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				・薬理学Ⅲ ・薬物療法学Ⅱ			
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				・薬理学Ⅲ ・薬物療法学Ⅱ ・生物系薬学実習Ⅱ			
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				・薬理学Ⅲ ・薬物療法学Ⅱ			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。							
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)				生物系薬学実習Ⅱ			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)							
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症							
【④化学構造と薬効】							
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。				疾患学Ⅱ	調剤学		
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬							
【①抗炎症薬】							
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。				・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ ・生物系薬学実習Ⅱ			
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			薬理学Ⅰ	・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ、Ⅱ ・生物系薬学実習Ⅱ	調剤学		
3) 創傷治癒の過程について説明できる。				・薬物療法学Ⅰ ・生物系薬学実習Ⅱ			
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】							
1) アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。				・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ ・生物系薬学実習Ⅱ			
2) 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅰ	・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ			
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)				・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ ・医薬品安全性学	薬物療法学Ⅲ		
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson(スティーブンス-ジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹				医薬品安全性学			

5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			・薬物療法学Ⅰ ・医薬品安全性学		
6) 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病				薬物療法学Ⅲ	
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 バセドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シェーグレン症候群			・薬物療法学Ⅰ、Ⅱ ・疾患学Ⅰ		
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)	薬理学Ⅰ		・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ		
9) 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物療法学Ⅰ		
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】					
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学Ⅰ		・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ		
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			・薬理学Ⅲ ・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ		
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ		
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学Ⅰ		・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅱ		
【④化学構造と薬効】					
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			疾患学Ⅰ		
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬					
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】					
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(Af)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(Vf)、房室ブロック、QT延長症候群					
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学Ⅱ		・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ		
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)					
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			疾患学Ⅰ		
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			医療系薬学実習		
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】					
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。					
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。					
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血	薬理学Ⅱ		・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ		

4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
5) 以下の疾患について治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)、白血球減少症、血栓性血小板減少症、白血病 (重複)、悪性リンパ腫 (重複) (E2 (7) 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)						
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬理学 II				
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学 I		・薬物療法学 II ・疾患学 II		
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 慢性腎臓病 (CKD)、糸球体腎炎 (重複)、糖尿病性腎症 (重複)、薬剤性腎症 (重複)、腎盂腎炎 (重複)、膀胱炎 (重複)、尿路感染症 (重複)、尿路結石						
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫		薬理学 I				
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				・薬物療法学 III ・疾患学 III		
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症						
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			疾患学 I			
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学 I		・薬物療法学 I ・疾患学 I		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患 (ニコチン依存症を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬理学 I				
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃食道逆流症 (逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎						
2) 炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学 I				
3) 肝疾患 (肝炎、肝硬変 (ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						

4) 肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅰ	薬物療法学Ⅱ 疾患学Ⅱ				
5) 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								
6) 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								
9) 痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患学Ⅱ				
【③化学構造と薬効】								
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				疾患学Ⅰ、Ⅱ				
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬								
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】								
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物療法学Ⅱ 疾患学Ⅱ 生物系薬学実習Ⅱ					
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬物療法学Ⅱ 疾患学Ⅱ			
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】								
1) 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾患学Ⅱ					
2) Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物療法学Ⅱ 疾患学Ⅱ					
3) 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								
4) 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）			疾患学Ⅱ					
【③化学構造と薬効】								
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				疾患学Ⅱ				
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬								
【①眼疾患の薬、病態、治療】								
1) 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物療法学Ⅲ				
2) 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								

4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症						
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					薬物療法学Ⅲ	
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎						
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(2))【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照					薬物療法学Ⅲ	
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(7))【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照						
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)						
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。				疾患学Ⅰ		
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬				・微生物薬品学Ⅰ ・疾患学Ⅰ、Ⅱ		
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。				疾患学Ⅰ、Ⅱ		
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。				・微生物薬品学Ⅰ ・疾患学Ⅰ、Ⅱ		
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症)を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎				・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ		
2) 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎				・薬物療法学Ⅱ ・疾患学Ⅱ		
3) 以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎					薬物療法学Ⅲ	
4) 以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎				・薬物療法学Ⅱ ・疾患学Ⅱ		

5) 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等			疾患学Ⅱ			
6) 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病				・薬物療法学Ⅲ ・疾患学Ⅲ		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学Ⅰ			
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			疾患学Ⅰ、Ⅱ			
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症						
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学Ⅰ、Ⅱ			
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ			
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）		ウイルス学	・薬物療法学Ⅱ ・疾患学Ⅱ			
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			・薬物療法学Ⅰ ・疾患学Ⅰ			
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病			疾患学Ⅰ			
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			・微生物薬品学Ⅰ ・疾患学Ⅰ			
2) 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症			疾患学Ⅰ	薬物療法学Ⅲ		
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			疾患学Ⅱ	薬物療法学Ⅲ		
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟻虫症、アニサキス症						
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。			疾患学Ⅰ			

2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			・臨床検査学 ・疾患学 I	薬物療法学 III		
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			・創薬科学 ・薬物療法学 I、II ・化学系薬学実習 II			
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			・創薬科学 ・疾患学 I	薬物療法学 III		
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。			疾患学 I	・薬物療法学 III ・調剤学		
4) 代表的ながん化学療法レジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。						
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）			・薬物療法学 I ・疾患学 I			
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌			・薬物療法学 II ・疾患学 II			
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			・薬物療法学 I ・疾患学 I	薬物療法学 III		
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍			薬物療法学 II			
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			・薬物療法学 II ・疾患学 II			
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学 II			
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物療法学 I			
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。			疾患学 I、II	薬物療法学 III		
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物療法学 I			
【⑩化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物に関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			・微生物薬品学 I ・疾患学 I、II			
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。	生物化学 II		・創薬科学 ・疾患学 I、II ・抗体工学			
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						

3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			・疾患学Ⅰ、Ⅱ ・抗体工学			
【②遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			・創薬科学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ			
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				・薬物療法学Ⅲ ・疾患学Ⅲ		
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			薬物療法学Ⅰ	疾患学Ⅲ		
4) 胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。			遺伝子工学			
【⑨要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション】						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。			疾患学Ⅰ、Ⅱ	調剤学		
2) 要指導医薬品および一般用医薬品(リスクの程度に応じた区分(第一類、第二類、第三類)も含む)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				調剤学		
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等						
6) 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)			医療系薬学実習	実務事前実習	臨床薬学演習	
【10) 医療の中の漢方薬】						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。			漢方薬学			
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。				・漢方薬学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	調剤学	
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。			・漢方薬学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	調剤学		
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。			漢方薬学			
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			・漢方薬学 ・疾患学Ⅰ、Ⅱ	調剤学		
【11) 薬物治療の最適化】						

【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)			疾患学Ⅰ、Ⅱ	・調剤学 ・実務事前実習		
					臨床薬学演習	
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)			疾患学Ⅰ、Ⅱ	・調剤学 ・実務事前実習		
					臨床薬学演習	
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)			疾患学Ⅰ、Ⅱ	・調剤学 ・実務事前実習		
					臨床薬学演習	
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。		薬理学Ⅰ				
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。						
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。		薬剤学	医薬品情報学Ⅰ			
5) 医薬品情報に関する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。						
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。						
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						
4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。						
5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。		薬剤学	医薬品情報学Ⅰ			
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。						
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)				実務事前実習		
					臨床薬学演習	
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)	科学演習Ⅱ			実務事前実習		
					・総合薬学研究 ・臨床薬学演習	
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬品情報学Ⅰ			
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)				実務事前実習		
					臨床薬学演習	
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法及び注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。			医薬品情報学Ⅰ			
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。						
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。						

3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。 (E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)			医薬品情報学 I	医薬品情報学 III		
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味の違いを説明できる。			・化学演習 II ・統計学	生物学的試験法		
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。						
3) 代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。	統計学			医薬品情報学 III		
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。						
5) 二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）			・科学演習 II ・統計学	・医薬品情報学 III ・生物学的試験法		
6) 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。						
7) 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。				医薬品情報学 III		
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。			医薬品情報学 I			
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。			医薬品情報学 I			
4) 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。						
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。				医薬品情報学 III		
6) 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。						
7) 統計解析時の注意点について概説できる。						
8) 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。						
9) 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。 (知識・技能)			医薬品情報学 I			
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医薬品情報学 I	調剤学		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 (技能)					・病院実務実習 ・薬局実務実習	
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）						
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報学 I	調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム（POS）を説明できる。						
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。				・調剤学	・病院実務実習	

3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。				・実務事前実習	・薬局実務実習	
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)						
(3) 個別化医療						
【①遺伝的素因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。		薬剤学	・遺伝子診断学 ・薬物動態学 I	・臨床薬物動態学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。		薬剤学	・遺伝子診断学 ・薬物動態学 I	・臨床薬物動態学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			遺伝子診断学	・臨床薬物動態学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				・臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。		薬剤学		・臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物動態学 I	・臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物動態学 I	・臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物動態学 I	・臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。		薬剤学	薬物動態学 I	・臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。		薬剤学	・薬物動態学 I ・医薬品安全性学	・臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。		薬剤学	薬物動態学 I	・臨床薬物動態学 ・実務事前実習		
				臨床薬学演習		

【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）				・臨床薬物動態学 ・実務事前実習		
				臨床薬学演習		
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。			・創薬科学 ・抗体工学	・臨床薬物動態学 ・実務事前実習		
				臨床薬学演習		
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		・生物物理化学 I ・薬剤学	・薬物動態学 I ・抗体工学	臨床薬物動態学		
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。			薬物動態学 I			
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		薬剤学	・薬物動態学 I ・抗体工学	臨床薬物動態学		
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。			・薬物動態学 I、II ・医療系薬学実習 ・抗体工学			
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。			・薬物動態学 I、II ・抗体工学			
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
5) 初回通過効果について説明できる。						
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		薬剤学	薬物動態学 I	臨床薬物動態学		
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			薬物動態学 I、II			
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			・薬物動態学 I、II ・医療系薬学実習			
4) 血液－組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。		薬剤学	薬物動態学 I			
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			薬物動態学 I、II			
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬剤学	薬物動態学 I	臨床薬物動態学		
2) 薬物代謝の第 I 相反応（酸化・還元・加水分解）、第 II 相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。			・遺伝子診断学 ・薬物動態学 I			
3) 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。			薬物動態学 I			
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。		薬剤学	・創薬科学 ・遺伝子診断学 ・薬物動態学 I ・創剤工学			
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			・遺伝子診断学 ・薬物動態学 I、II			
【⑤排泄】						

1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。		薬剤学	薬物動態学 I	臨床薬物動態学		
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			薬物動態学 I、II			
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。						
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。		薬剤学	薬物動態学 I			
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態学 I、II			
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。			・薬物動態学 I、II ・医療系薬学実習	臨床薬物動態学 ・実務事前実習		
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注）。（知識、技能）			・薬物動態学 II ・医療系薬学実習			
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）			薬物動態学 II			
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			・薬物動態学 II ・医療系薬学実習			
5) 組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態学 I、II			
6) 薬物動態学-薬力学解析（PK-PD解析）について概説できる。			薬物動態学 II			
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。		薬剤学	薬物動態学 I、II	臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			・薬物動態学 II ・医療系薬学実習			
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）			薬物動態学 II	臨床薬物動態学 ・実務事前実習		
4) ポピュレーションファーマコキネティクス の概念と応用について概説できる。				臨床薬物動態学 ・調剤学 ・実務事前実習		
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。			医療系薬学実習			
2) 結晶（安定形および準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		製剤学				
3) 固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡など）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2 (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照)		物理化学Ⅲ				
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pHや温度など）について説明できる。						
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		製剤学				
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形（レオロジー）について説明できる。		物理化学Ⅲ				
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。		・物理化学Ⅲ ・製剤学				
【③分散系材料】						

1) 界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着など）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2 (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照)							
2) 代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など）を列挙し、その性質について説明できる。		製剤学					
3) 分散した粒子の安定性と分離現象（沈降など）について説明できる。							
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。							
【④薬物及び製剤材料の物性】							
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。		製剤学	創剤工学				
2) 薬物の安定性（反応速度、複合反応など）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度など）について説明できる。 (C1 (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照)			医療系薬学実習				
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		製剤学					
(2) 製剤設計							
【①代表的な製剤】							
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。		・製剤学 ・薬剤学					
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。							
3) 粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。							
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。							
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。							
6) その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。		製剤学	創剤工学				
【②製剤化と製剤試験法】							
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。		製剤学	医薬品情報学 I				
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。							
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。							
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。				・医薬品情報学 I ・医療系薬学実習			
【③生物学的同等性】							
1) 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。		・製剤学 ・薬剤学	・薬物動態学 I ・医薬品情報学 I				
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)							
【①DDS の必要性】							
1) DDSの概念と有用性について説明できる。		・製剤学 ・薬剤学	創剤工学				
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1) 【④代謝】4. も参照)				医療系薬学実習			
【②コントロールドリリース（放出制御）】							
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。		製剤学	創剤工学				
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。							
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。							
【③ターゲティング（標的指向化）】							
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。							

2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。		製剤学	創剤工学			
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。		薬剤学	創剤工学			
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
F 薬学臨床						
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)					薬局実務実習	
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)						
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)				実務事前実習		
【②臨床における心構え】 【A(1)、(2)参照】						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)						
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				実務事前実習		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)						
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)						
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					・病院実務実習 ・薬局実務実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)						
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)						
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。						
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。						
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。					・調剤学 ・実務事前実習	
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。						
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 【B(3)①参照】			薬学と社会			
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。				調剤学		
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)						
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。				薬物療法Ⅲ		
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。						
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						

14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。						薬局実務実習	
15) 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)							
(2) 処方せんに基づく調剤							
【①法令・規則等の理解と遵守】 [B(2)、(3)参照]							
1) 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。						・調剤学 ・実務事前実習	
2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)						調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)							
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						調剤学	薬局実務実習
【②処方せんと疑義照会】							
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。						実務事前実習	
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。							
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。						・調剤学 ・実務事前実習	
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。							
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。						実務事前実習	
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)						・調剤学 ・実務事前実習	
7) 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)							・病院実務実習 ・薬局実務実習
8) 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)						調剤学	病院実務実習
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)							
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる。(知識・技能)							・病院実務実習 ・薬局実務実習
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)							
【③処方せんに基づく医薬品の調製】							
1) 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)						・調剤学 ・実務事前実習	
2) 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。							
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)						実務事前実習	
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。							
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。						・調剤学 ・実務事前実習	
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)							
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。(技能)						実務事前実習	
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)						・調剤学 ・実務事前実習	
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)							
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)							
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)							
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)							・病院実務実習 ・薬局実務実習
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)						調剤学	
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)							

15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。						
16) 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）						
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）					病院実務実習	
18) 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）				調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）						
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（態度）				実務事前実習		
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。						
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）				・調剤学 ・実務事前実習		
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）						
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				実務事前実習		
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）				・調剤学 ・実務事前実習		
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				実務事前実習		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）						
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）						
10) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）						
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）						
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）				調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）						
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）						
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）			医薬品情報学 I			
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。						
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				・調剤学 ・実務事前実習		
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。						
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。						
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。				実務事前実習		
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。						
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				・調剤学 ・実務事前実習		
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。						
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）						
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）						
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。				調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）						
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）					病院実務実習	

【⑥安全管理】					
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				・調剤学 ・実務事前実習	
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。					
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）					
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。					
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）					
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。					
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。					
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）				調剤学 ・病院実務実習 ・薬局実務実習	
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。					
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）					
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）					
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）					病院実務実習
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）					・病院実務実習 ・薬局実務実習
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）					病院実務実習
（3）薬物療法の実践					
【①患者情報の把握】					
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 【E3（2）①参照】		医薬品情報学 I			
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				実務事前実習	
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）					
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）			医薬品情報学 I	調剤学	
6) 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）				・病院実務実習 ・薬局実務実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）					
【②医薬品情報の収集と活用】 【E3（1）参照】					
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）				実務事前実習	
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）					
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）				・病院実務実習 ・薬局実務実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）			医薬品情報学 I		
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）					
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不用品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）				調剤学	
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】					
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				実務事前実習	

					臨床薬学演習
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				・調剤学 ・実務事前実習	臨床薬学演習
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	臨床薬学演習
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	臨床薬学演習
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	臨床薬学演習
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				・調剤学 ・実務事前実習	臨床薬学演習
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習 臨床薬学演習
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習 臨床薬学演習
9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方立案できる。(知識・態度)				・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習 臨床薬学演習
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)				実務事前実習	病院実務実習 臨床薬学演習
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)				実務事前実習	病院実務実習 臨床薬学演習
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)				・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習 臨床薬学演習
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。				・調剤学 ・実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習 臨床薬学演習
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)				調剤学	・病院実務実習 ・薬局実務実習
【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】					
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習	臨床薬学演習
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				実務事前実習	臨床薬学演習
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				・調剤学 ・実務事前実習	臨床薬学演習

4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。 (知識・態度)				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定 の提案ができる。(知識・態度)				実務事前実習	病院実務実習	
				臨床薬学演習		
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)				実務事前実習	病院実務実習	
				臨床薬学演習		
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				実務事前実習	病院実務実習	
				臨床薬学演習		
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、 投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
11) 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等 で適切に記録する。(知識・技能)				実務事前実習	・病院実務実習 ・薬局実務実習	
				臨床薬学演習		
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)			医薬品情報学 I		・病院実務実習 ・薬局実務実習	
(4) チーム医療への参画 [A(4)参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。						
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				・調剤学 ・実務事前実習		
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・ 薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。						
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフ と連携できる。(態度)						
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、 治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)						
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針に ついて討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)					・病院実務実習 ・薬局実務実習	
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。 (知識・態度)						
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)						
9) 院内の多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場 で参加できる。(知識・態度)					病院実務実習	
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義に ついて説明できる。			薬学と社会	実務事前実習		

2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)					
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B(4)参照]					
【①在宅(訪問)医療・介護への参画】					
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。					
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。			薬学と社会		
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。					
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					
6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)					
【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】					
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。	薬学概論	公衆衛生学	薬学と社会		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。					
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)					
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)					薬局実務実習
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2(9)参照]					
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)					実務事前実習
2) 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)					
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)					
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)					
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)		基礎薬学・医用工学実習			
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)					薬局実務実習
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)					
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)		基礎薬学・医用工学実習			
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)					
【④災害時医療と薬剤師】					
1) 前) 災害時医療について概説できる。			薬学と社会		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					薬局実務実習
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					
G 薬学研究					
(1) 薬学における研究の位置づけ					
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。					総合薬学研究

2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。				総合薬学研究
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	科学演習Ⅰ、Ⅱ	基礎薬学・医用工学 実習		総合薬学研究
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				総合薬学研究
(2) 研究に必要な法規範と倫理				
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				総合薬学研究
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。				総合薬学研究
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲				総合薬学研究
(3) 研究の実践				
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	科学演習Ⅱ			総合薬学研究
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)				総合薬学研究
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)				総合薬学研究
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)				総合薬学研究
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	科学演習Ⅰ		薬学英語	総合薬学研究
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	科学演習Ⅱ			総合薬学研究

(基礎資料4) カリキュラムマップ

薬学教育モデル・コアカリキュラム				
A 基本事項	1年次	2年次	3年次	4～6年次
	薬学概論 科学演習I 科学演習II (情報科学) 命と倫理 情報科学 統計学	公衆衛生学	医薬品安全性学 薬学と社会 医薬品情報学I, II 毒性学 遺伝子診断学	臨床薬学演習 実務事前実習 医療とコミュニケーション学 調剤学 病院実務実習 薬局実務実習
B 薬学と社会	1年次	2年次	3年次	4～6年次
	科学演習I 命と倫理		薬学と社会 医薬品情報学I, II 医療系薬学実習	調剤学 病院実務実習 薬局実務実習
C 薬学基礎	1年次	2年次	3年次	4～6年次
C1 物質の物理的性質	基礎化学 無機化学 有機化学I 物理化学I 物理化学II 生物化学I 分析化学I	有機化学II 生物化学III 物理化学III 生物物理化学I 基礎薬学・医用工学実習 物理系薬学実習 生物系薬学実習I	有機化学V 放射線と医療 生物系薬学実習II	(有機反応論)
C2 化学物質の分析	基礎化学 無機化学 有機化学I 物理化学II 分析化学I 分析化学II	物理化学III 有機化学II 生物物理化学I 物理系薬学実習 基礎薬学・医用工学実習 化学系薬学実習I 生物系薬学実習I	薬品分析化学 放射線と医療 臨床検査学 化学系薬学実習II 医療系薬学実習 (生物系薬学実習II) (抗体工学)	(ペプチド科学)
C3 化学物質の性質と反応	無機化学 基礎化学 有機化学I 科学演習II	有機化学II 化学系薬学実習I 有機化学III 有機化学IV	有機化学V 有機化学演習 化学系薬学実習II	(有機反応論) (有機合成論)
C4 生体分子・医薬品の化学による理解	無機化学 生物化学I 生物化学II	生物物理化学I 生物化学III 生物化学IV ウイルス学 生物系薬学実習I 衛生薬学I	有機化学V 創薬科学 毒性学 化学系薬学実習II (創剤工学)	(ペプチド科学)
C5 自然が生み出す薬物		生薬学	漢方薬学 創薬科学 微生物薬品学I, II 化学系薬学実習II	(薬品製造論)
C6 生命現象の基礎	生物学 生物化学I 生物化学II 機能形態生理学I (基礎生物学)	生物物理化学I 有機化学IV 生物化学III 生物化学IV 衛生薬学I 基礎薬学・医用工学実習 薬理学I 生物系薬学実習I	創薬科学 臨床検査学 遺伝子診断学 遺伝子工学 医療系薬学実習	(糖鎖生物学) (ペプチド科学)
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節	生物学 生物化学II 機能形態生理学I (基礎生物学)	機能形態生理学II 免疫学 基礎薬学・医用工学実習	臨床検査学 遺伝子診断学 薬物療法学I 薬物療法学II 遺伝子工学 生物系薬学実習II	薬物療法学III (ペプチド科学)

C8 生体防御と微生物	機能形態生理学I 基礎生物学	ウイルス学 微生物学 免疫学 生物系薬学実習 I	薬物療法学I 医療系薬学実習 生物系薬学実習II (抗体工学)	(糖鎖生物学)
D 衛生薬学	1年次	2年次	3年次	4～6年次
D1 健康	生物学	ウイルス学 微生物学 免疫学 衛生薬学I 衛生薬学II 公衆衛生学	遺伝子診断学 毒性学	
D2 環境		公衆衛生学 生物系薬学実習 I	放射線と医療 遺伝子診断学 毒性学 生物系薬学実習II	(薬品製造論)
E 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4～6年次
E1 薬の作用と体の変化	生物化学II 機能形態生理学I	薬剤学 薬理学 I 生物系薬学実習 I	薬物動態学I 薬物動態学II 創薬科学 臨床検査学 薬物療法学I 薬物療法学II 疾患学I 疾患学II 医薬品安全性学 医療系薬学実習 生物系薬学実習II (抗体工学)	疾患学III 臨床薬学演習 実務事前実習 医療とコミュニケーション学 臨床薬物動態学
E2 薬理・病態・薬物治療	生物化学II	薬理学 I 薬理学II ウイルス学	漢方薬学 薬理学III 創薬科学 臨床検査学 薬物療法学I 薬物療法学II 疾患学I 疾患学II 微生物薬品学I 医薬品安全性学 医療系薬学実習 生物系薬学実習II 化学系薬学実習II (抗体工学)	疾患学III 薬物療法学III 調剤学 臨床薬学演習 実務事前実習
E3 薬物治療に役立つ情報	統計学 科学演習II	薬剤学 薬理学 I	薬物動態学 I 創薬科学 遺伝子診断学 医薬品安全性学 医薬品情報学I 医療系薬学実習 抗体工学 医療系薬学実習	医薬品情報学III 臨床薬物動態学 調剤学 臨床薬学演習 実務事前実習 病院実務実習 薬局実務実習
E4 薬の生命内運命	薬学概論	生物物理化学I 薬剤学	薬物動態学I 薬物動態学II 創薬科学 遺伝子診断学 医療系薬学実習 抗体工学 (創剤工学)	臨床薬物動態学 調剤学 実務事前実習 病院実務実習 薬局実務実習
E5 製剤化のサイエンス	薬学概論	物理化学III 製剤学 薬剤学	薬物動態学I 医療系薬学実習 医薬品情報学 I (創剤工学)	病院実務実習 薬局実務実習
F 薬学臨床	1年次	2年次	3年次	4～6年次
	薬学概論	公衆衛生学 基礎薬学・医用工学実習	漢方薬学 医薬品情報学I 薬学と社会	調剤学 臨床薬学演習 実務事前実習 病院実務実習 薬物療法学III 薬局実務実習

G 薬学研究	1年次	2年次	3年次	4～6年次
	薬学概論 科学演習 I, II	基礎薬学・医用工学実習	薬学英語	総合薬学研究
薬学準備教育	1年次	2年次	3年次	4～6年次
	基礎化学 生物学 科学演習I 物理化学II 機能形態生理学I (情報科学)	生物化学III 生物化学IV ウイルス学 機能形態生理学II 公衆衛生学 物理系薬学実習 化学系薬学実習I 基礎薬学・医用工学実習	遺伝子診断学 化学系薬学実習II 生物系薬学実習II 医療系薬学実習	総合薬学研究
薬学アドバンスト教育	1年次	2年次	3年次	4～6年次
A 基本事項				臨床薬学演習 実務事前実習
B 薬学と社会			医薬品安全性学 毒性学	
C 薬学基礎	1年次	2年次	3年次	4～6年次
C1 物質の物理的性質	物理化学I 基礎化学 機能形態生理学I	物理化学III 生物物理化学I 物理系薬学実習		
C2 化学物質の分析	有機化学I 物理化学II 分析化学I 分析化学II	生薬学 物理化学III 生物物理化学I 化学系薬学実習I	薬品分析化学 臨床検査学 有機化学演習 医療系薬学実習	
C3 化学物質の性質と反応	基礎化学 有機化学I 科学演習 II	有機化学II 有機化学III 物理系薬学実習 化学系薬学実習 I 化学系薬学実習II	化学系薬学実習II 有機化学演習	(有機合成論) (有機反応論)
C4 生体分子・医薬品の化学による理解	有機化学I	生薬学	毒性学 創薬科学 化学系薬学実習II (微生物薬品学II) (創製工学)	
C5 自然が生み出す薬物	有機化学I	生薬学 衛生薬学I	漢方薬学 化学系薬学実習II	総合薬学研究
C6 生命現象の基礎	生物学 生物化学I	生物物理化学I 生物化学III 生物化学IV ウイルス学 衛生薬学I 生物系薬学実習 I	遺伝子診断学 遺伝子工学 医療系薬学実習 生物系薬学実習II	
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節	機能形態生理学I	基礎薬学・医用工学実習 機能形態生理学II	疾患学I 疾患学II	
C8 生体防御と微生物		生物物理化学I ウイルス学 微生物学 免疫学 衛生薬学II	生物系薬学実習II (微生物薬品学II)	
D 衛生薬学	1年次	2年次	3年次	4～6年次
D1 健康		衛生薬学I 衛生薬学II 公衆衛生学	医薬品安全性学 毒性学	
D2 環境		公衆衛生学	毒性学	
E 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4～6年次
E1 薬の作用と体の変化				
E2 薬理・病態・薬物治療		薬理学 I 薬理学 II	漢方薬学 薬理学 III 疾患学 I 疾患学 II	疾患学 III 薬物療法学 III

E3 薬物治療に役立つ情報	統計学		医薬品情報学II 疾患学I 疾患学II	臨床薬学演習 実務事前実習 医薬品情報学III 疾患学III 薬物療法学III 臨床薬物動態学
E4 薬の生命内運命			薬物動態学I 薬物動態学II (創剤工学)	実務事前実習 臨床薬物動態学
E5 製剤化のサイエンス		物理化学III 製剤学	薬物動態学I 薬物動態学II (創剤工学)	
F 薬学臨床	1年次	2年次	3年次	4～6年次
		公衆衛生学	医療系薬学実習	臨床薬学演習 実務事前実習 病院実務実習 薬局実務実習

(基礎資料4) カリキュラムマップ

薬学教育モデル・コアカリキュラム				
A ヒューマニズムについて学ぶ	1年次	2年次	3年次	4～6年次
	薬学概論 命と倫理	基礎薬学・医用工学 実習	薬学と社会	実務事前実習 医療とコミュニケーション学
B インテグレーション	1年次	2年次	3年次	4～6年次
	薬学概論 医療とコミュニケーション 早期体験学習		薬品分析学	
C 薬学基礎	1年次	2年次	3年次	4～6年次
C1 物質の物理的性質	基礎化学 無機化学 物理化学I 物理化学II	物理化学III 物理系薬学実習 生物物理化学I	医療系薬学実習	
C2 化学物質の分析	分析化学II	物理系薬学実習 物理系薬学実習 物理化学III	化学系薬学実習II 臨床検査学 生物系薬学実習II 放射線と医療 分子毒性学 薬品分析化学	
C3 物質の物理的性質	物理化学II	物理系薬学実習 生物系薬学実習I 有機化学II 物理化学III 生物物理化学I	薬品分析化学	
C4 化学物質の性質と反応	基礎化学 有機化学I 無機化学	有機化学II 有機化学III 有機化学IV 化学系薬学実習I 生薬学	化学系薬学実習II 創薬科学 有機化学演習	
C5 ターゲット分子の合成	有機化学I	有機化学II 有機化学III 有機化学IV 化学系薬学実習I 生物系薬学実習I	有機化学演習 化学系薬学実習II	有機合成論(4年)
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する	無機化学	有機化学IV 有機化学II 化学系薬学実習I	有機化学V 創薬科学	ペプチド科学(4年)
C7 自然が生み出す薬物		生薬学 化学系薬学実習I	生物系薬学実習II 漢方薬学 微生物薬品学	

C8 生命体の成り立ち	機能形態生理学 I 生物化学 I 生物学 基礎生物学	機能形態生理学 II 基礎薬学・医用工学 実習 微生物学 ウイルス学	生物系薬学実習 II	
C9 生命をミクロに理解する	生物化学 II 生物化学 I 機能形態生理学 I	生物化学 III 生物系薬学実習 I 衛生薬学 I 生物化学 IV 基礎薬学・医用工学 実習 機能形態生理学 II 免疫学	医療系薬学実習 生物系薬学実習 II 遺伝子工学	糖鎖生物学 (4年)
C10 生体防御		免疫学 微生物学 生物系薬学実習 I ウイルス学	抗体工学 医療系薬学実習	
C11 健康		衛生薬学 I 衛生薬学 II 微生物学 ウイルス学	生物系薬学実習 II 環境毒性学	
C12 環境		公衆衛生学	分子毒性学 生物系薬学実習 II 放射線と医療 環境毒性学	
C13 薬の効くプロセス		薬理学 I 薬剤学 基礎薬学・医用工学 実習 薬理学 II	薬物動態学 I 医薬品安全性学 生物系薬学実習 II 医療系薬学実習 薬理学 III 薬物動態学 II	臨床薬物動態学 (4年) 調剤学 (4年) 実務事前学習 (4年)
C14 薬物治療		微生物学	疾患学 I 疾患学 II 臨床検査学 薬物療法学 I 医療系薬学実習 薬物療法学 II 微生物薬品学 I 医薬品安全性学 抗体工学	疾患学 III (4年) 調剤学 (4年) 臨床薬学演習 薬物療法学 III (4年) 臨床薬物動態学 (4年)
C15 薬物医療に役立つ情報		薬剤学	医薬品情報学 I 遺伝子診断学 薬物療法学 I	臨床薬学演習 臨床薬物動態学 (4年) 薬物療法学 III (4年)
C16 製剤化のサイエンス		物理化学 III 製剤学 創剤工学	医療系薬学実習	

C17 医薬品の開発と生産	統計学	創剤工学 創薬科学	医薬品情報学Ⅱ 医薬品安全性学 創薬科学 ゲノム情報と創薬 遺伝子診断学 調剤学	
C18 薬学と社会			薬学と社会 調剤学 放射線と医療 調剤学	

(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
基礎英語Ⅰ	1	○	○	○	
基礎英語Ⅱ	1	○	○	○	
基礎英語Ⅲ	1	○	○	○	
基礎英語Ⅳ	1	○	○	○	
英語コミュニケーションⅠ	2	○		○	○
英語コミュニケーションⅡ	2	○		○	○
英語コミュニケーションⅢ	2	○		○	○
英語コミュニケーションⅣ	2	○		○	○
薬学英语	3	○	○	○	○
ドイツ語入門	1,2	○		○	○
フランス語入門	1,2	○	○	○	○
スペイン語入門	1,2	○	○	○	○
中国語入門	1,2			○	○
TOEFL留学英語Ⅰ	1,2	○	○	○	
TOEFL留学英語Ⅱ	1,2	○	○	○	
TOEICビジネス英語基礎	1,2	○	○	○	
TOEICビジネス英語Ⅰ	1,2	○	○	○	
TOEICビジネス英語Ⅱ	1,2	○	○	○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料5) 語学教育の要素 (旧カリキュラム)

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
基礎英語Ⅰ	1	○	○	○	
基礎英語Ⅱ	1	○	○	○	
基礎英語Ⅲ	1	○	○	○	
基礎英語Ⅳ	1	○	○	○	
英語コミュニケーションⅠ	2	○		○	○
英語コミュニケーションⅡ	2	○		○	○
英語コミュニケーションⅢ	2	○		○	○
英語コミュニケーションⅣ	2	○		○	○
薬学英语	3	○	○	○	○
ドイツ語入門	1,2	○		○	○
フランス語入門	1,2	○	○	○	○
スペイン語入門	1,2	○	○	○	○
中国語入門	1,2			○	○
TOEFL留学英語Ⅰ	1,2	○	○	○	
TOEFL留学英語Ⅱ	1,2	○	○	○	
TOEICビジネス英語基礎	1,2	○	○	○	
TOEICビジネス英語Ⅰ	1,2	○	○	○	
TOEICビジネス英語Ⅱ	1,2	○	○	○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年5月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第2週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第3週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第4週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第5週	月	25日					
	火	26日			臨床薬学演習・症例1 (S501, S502講義, S506, S507演習)		
	水	27日			臨床薬学演習・症例1 (S501, S502講義, S506, S507演習)		
	木	28日					
	金	29日					

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 **上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジ. 講義は90名、演習・実習は10名/班で実施、本表はA1班の例

平成26年9月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火	1日					
	水	2日					
	木	3日					
	金	4日					
第2週	月	7日	事前実習ガイダンス	事前実習ガイダンス (S101 講義)			
	火	8日	患者ケアプロセスと服薬指導 (S209, S601, S602講義、S603ロールプレイ)	院内製剤概論 (S407, S408, S409, S414講義)			
	水	9日	医療コミュニケーションの実践 (S601, S602, S604講義)	処方せんと調剤の基礎 (S201, S202, S203, S204講義)			
	木	10日	CBT体験受験				
	金	11日	情報の記録と共有化 (S104, S105, S106, S605講義)				
第3週	月	14日	注射剤の調製と電解質・エネルギー計算 (S401, S402, S403, S404, S405講義)	医療コミュニケーションの基礎 (S603ロールプレイ、S603実習)			
	火	15日	処方解析・疑義照会 (S301, S303, S305講義)	TDM処方設計 (S205, S206, S207, S208講義)			
	水	16日			調剤の基礎1 (S202, S203, S204演習、S210実習)		
	木	17日					
	金	18日					
第4週	月	21日	休日				
	火	22日					
	水	23日					
	木	24日	調剤の基礎1 (S202, S203, S204演習、S210実習)				
	金	25日	チーム医療とコミュニケーション、リスクマネジメント・最新医療とコミュニケーション (S101, S103, S104, S105, S501, S502講義)				
第5週	月	28日					
	火	29日			認定・専門薬剤師の役割と活動 (S104, S105講義)	薬局での調剤とコミュニケーション (S101, S102, S104, S105, S106, S107, S301, S304講義)	
	水	30日					
	木						
	金						

- [注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで
- 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
- 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジ. 演習・実習は10名/班で実施、本表は前半グループ(A班、10/1~10/26)と後半グループ(F班、10/27~)の例

平成26年10月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月							
	火							
	水							
	木	1日	手洗い・ガウン・注射 (S302実習、S406実習、S411, S412, S413実習)					
	金	2日	計数・調剤鑑査 (S210実習、S403, S404, S405講義、S406演習)	計量調剤・指導 (S201, S202, S203, S204講義・演習、S205, S206, S207講義・演習、S210実習、S211演習)				
第2週	月	5日	計量調剤・指導 (S201, S202, S203, S204講義・演習、S205, S206, S207講義・演習、S210実習、S211演習)	院内製剤 (S408, S409講義、S410実習)				
	火	6日	薬局面接・実習 (S209講義、S601, S602, S604講義、S603演習、S606実習)	薬局面接・作成 (S605演習、S606実習)				
	水	7日	手洗い・ガウン・注射 (S302実習、S406実習、S411, S412, S413実習)			フィジカルアセスメント		
	木	8日	疑義照会・調査 (S106演習、S211演習、S301, S303講義、S304演習、S305講義、S306演習)	薬局面接・評価 (S605, S606実習)				
	金	9日	予備日					
第3週	月	12日	休日					
	火	13日	TDM (S205, S206, S207, S208講義・演習)					
	水	14日	病棟・SGD (S205, S206, S207, S208講義・演習、S504, S505講義・演習)	病棟・初回面談 (S604講義、S605, S606実習)				
	木	15日	計量調剤・自主練 (S210実習)	処方解析カンファ (S104, S105, S107講義、S106演習、S211演習、S301, S303, S305講義、S304, S306演習)				
	金	16日	D1	D1				
第4週	月	19日	疑義照会練習 (S304, S306演習・実習)	病棟・調査 (S205, S206, S203, S306演習・自習)				
	火	20日	計量調剤・評価 (S210実習)	病棟・調査 (S205, S206, S203, S306演習・自習)				
	水	21日	病棟カンファ (S103演習、S106演習、S206, S207, S208演習、S504, S505講義、S601, S602, S604講義、S603演習、S605演習)	病棟服薬指導 (S506実習)				
	木	22日	予備日					
	金	23日	TDM/D1					
第5週	月	26日	注射・評価 (S411実習)	点滴ライン・抗がん剤調製 (S403, S404, S405, S407講義、S406, S411実習)				
	火	27日						
	水	28日						
	木	29日						
	金	30日						

- [注]
- 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで
 - 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジ. 演習・実習は10名/班で実施、本表は前半グループ(A班、10/1~10/26)と後半グループ(F班、10/27~)の例

平成27年11月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	26日					
	火	27日	手洗い・ガウン・注射 (S302実習、S406実習、S411, S412, S413実習)				
	水	28日	計数・調剤鑑査 (S210実習、S403, S404, S405講義、S406演習)				
	木	29日	薬局面接・実習 (S209講義、S601, S602, S604講義、S603演習、S606実習)		薬局面接・作成 (S605演習、S606実習)		
	金	30日	薬局面接・評価 (S605, S606実習)				
第2週	月	2日	TDM (S205, S206, S207, S208講義・演習)				
	火	3日	祝日				
	水	4日	計量調剤・指導 (S201, S202, S203, S204講義・演習、S205, S206, S207講義・演習、S210実習、S211演習)		疑義照会・調査 (S106演習、S211演習、S301, S303講義、S304演習、S305講義、S306演習)		
	木	5日	処方解析カンファ (S104, S105, S107講義、S106演習、S211演習)		計量調剤・指導 (S201, S202, S203, S204講義・演習、S205, S206, S207講義・演習、S210実習、S211演習)		
	金	6日	予備日				
第3週	月	9日	DI		DI		
	火	10日	病棟・SGD (S205, S206, S207, S208講義・演習、S504, S505講義・演習)		病棟・初回面談 (S604講義、S605, S606実習)		
	水	11日	手洗い・ガウン・注射 (S302実習、S406実習、S411, S412, S413実習)			フィジカルアセスメント	
	木	12日	病棟・調査 (S203, S205, S206, S306演習・自習)		計量調剤・自主練 (S210実習)		
	金	13日	注射・評価 (S411実習)		点滴ライン・抗がん剤調製 (S403, S404, S405, S407講義、S406, S411実習)		
第4週	月	16日	院内製剤 (S408, S409講義、S410実習)		計量調剤・評価 (S210実習)		
	火	17日	疑義照会練習 (S304, S306演習・実習)		病棟・調査 (S203, S205, S206, S306演習・自習)		
	水	18日	病棟カンファ (S103演習、S106演習、S206, S207, S208演習、S504, S505講義、S601, S602, S604講義、S603演習、S605演習)		病棟服薬指導 (S506実習)		
	木	19日	TDM/DI				
	金	20日	事前実習まとめ (事前実習まとめ、説明)		事前実習まとめ (S701実習)		
第5週	月	23日					
	火	24日	事前実習まとめ (OSCE説明)		事前実習まとめ (S701実習)		
	水	25日	事前実習まとめ (S701実習)				
	木	26日	事前実習まとめ (S701実習)				
	金	27日	事前実習まとめ (S701実習)				

- [注]
- 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで
 - 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料7) 学生受入状況について

学部	学科名	入試の種類		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	入試(26年度実施)	入試(27年度実施)	
薬学部	薬科	一般入試	受験者数	575	727	732	738	630	679	104.6
			合格者数	134	148	148	139	149	149	
			入学者数(A)	81	95	87	85	85	84	
			募集定員数(B)	80	80	80	80	80	80	
			A/B*100(%)	101.3	118.8	108.8	106.3	106.3	105.0	
	薬科	大学入試センター試験を免除する推薦入試	受験者数	59	54	72	52	61	55	
			合格者数	25	15	19	18	20	22	
			入学者数(A)	25	15	19	18	20	22	
			募集定員数(B)	20	20	20	20	20	20	
			A/B*100(%)	125.0	75.0	95.0	90.0	100.0	110.0	
	薬科	大学入試センター試験を課す推薦入試	受験者数	45	40	44	49	33	31	
			合格者数	17	21	17	25	17	17	
			入学者数(A)	17	21	17	25	17	17	
			募集定員数(B)	20	20	20	20	20	20	
			A/B*100(%)	85.0	105.0	85.0	125.0	85.0	85.0	
	薬科	帰国子女入試	受験者数	1	1	1	2	1	0	
			合格者数	0	0	1	0	0	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
薬科	私費外国人留学生入試	受験者数	1	2	2	3	0	2		
		合格者数	1	2	0	1	0	0		
		入学者数(A)	0	2	0	1	0	0		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
		A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—		
学科計			受験者数	681	824	851	844	725	767	104.6
	合格者数	177	186	185	183	186	188			
	入学者数(A)	123	133	123	129	122	123			
	募集定員数(B)	120	120	120	120	120	120			
	A/B*100(%)	102.5	110.8	102.5	107.5	101.7	102.5			

(備考) 3年次後期に進路希望や学業成績などを基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は80名である。

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	24名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	4名

* 1 大学設置基準 第二条別表第一、イ備考4

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	0	1	0	0	0	
語学教育	0	0	1	0	0	
薬学基礎教育	0	0	0	0	0	
専門薬学教育	18	9	16	22	0	TA 23名
実務実習教育	3(3)	2(2)	3(3)	2(2)	0	実務家教員10名
小計	21(3)	12(2)	20(3)	24(2)	0	
専任教員数	77(10)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	1	2	9	139(71)	0	
法人業務関連	1	0	2	4(2)	0	
小計	2	2	11	143(73)	0	
事務職員数	158(73)					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2) = 6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1) = 3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	6(1)	10	5	0	0	21(1)
	0.0%	28.6%	47.6%	23.8%	0.0%	0.0%	100%
准教授	0	1(1)	1	10	0	0	12(1)
	0.0%	8.3%	8.3%	83.3%	0.0%	0.0%	100%
専任講師	0	2(1)	3	8	7	0	20(1)
	0.0%	10.0%	15.0%	40.0%	35.0%	0.0%	100%
助教	0	0	1	1	20(3)	2(1)	24(4)
	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	83.3%	8.4%	100%
合計	0	9(3)	15	24	27(3)	2(1)	77(7)
	0.0%	11.7%	19.5%	31.2%	35.1%	2.6%	100%
定年年齢	65	歳					

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1)=2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年月日	現職就任 年月日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴 及び学位 称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科 (兼薬科学科)	薬理学	教授	いしかわ ともひさ 石川 智久	男	55	1998.4	2006.4.1	薬理学Ⅱ		1.500						0.000	1.500	筑波大学 大学院 医学 研究科 博士課程 修了 医博
								薬理学Ⅲ	1.500					1.500	0.000			
								生物系薬学実習Ⅰ						4.500	0.000			
								総合薬学演習			1.500	3.000		1.500	3.000			
								計	1.500	1.500	1.500	3.000	0.000	4.500	3.000	9.000	6.000	
薬学科 (兼薬科学科)	創薬科学	教授	いたい しげる 板井 茂	男	63	2007.4.1	2007.4.1	製剤学		0.500						0.000	0.500	東京大学 製薬化学科 卒業 薬博
								創剤工学	0.250							0.250	0.000	
								物理化学Ⅲ	0.500							0.500	0.000	
								医療系薬学実習						4.500	0.000	4.500	0.000	
								実務事前実習						0.800	0.000	0.800	0.000	
								基礎薬学・医用工学実習					4.500	0.000	4.500	0.000		
								総合薬学演習			1.500	1.500		1.500	1.500			
								計	0.750	0.500	1.500	1.500	4.500	5.300	6.750	7.300	7.025	
薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬効 解析学	教授	いとう くにしこ 伊藤 邦彦	男	55	2005.4.1	2005.4.1	遺伝子診断学		0.300					0.000	0.300	東北大学 大学院 薬学研究科 博士課程 修了 薬博	
								調剤学	0.750						0.750	0.000		
								薬物療法Ⅲ	0.750						0.750	0.000		
								臨床薬物動態学	0.250						0.250	0.000		
								病院実務実習					1.000	1.000	1.000	1.000		
								総合薬学演習			1.500	1.500		1.500	1.500			
								計	1.750	0.300	1.500	1.500	1.000	1.000	4.250	2.800		3.525
薬科学科 (兼薬学科)	免疫微生物 学	教授	いまい やすゆき 今井 康之	男	60	1983.2.1	1998.4.1	遺伝子工学	0.000	0.750					0.000	0.750	東京大学 大学院 薬学系研究 科生命薬学 専攻 博士課程 修了 薬博	
								微生物学	0.750						0.750	0.000		
								微生物薬品学Ⅰ	0.750						0.750	0.000		
								免疫学		1.500					0.000	1.500		
								生物系薬学実習Ⅱ					4.500	0.000	4.500	0.000		
								総合薬学演習			1.500	1.500		1.500	1.500			
								計	1.500	2.250	1.500	1.500	4.500	0.000	7.500	3.750		5.625
薬学科 (兼薬科学科)	医薬生命 化学	教授	おく なおと 奥 直人	男	63	1991.6.1	1998.4.1	放射線と医療	0.750						0.750	0.000	東京大学 大学院 薬学研究科 博士課程 修了 薬博	
								生物化学Ⅱ		0.500					0.000	0.500		
								生物化学Ⅰ	0.500						0.500	0.000		
								生物系薬学実習Ⅰ					4.500	0.000	4.500	0.000		
								総合薬学演習			1.500	1.500		1.500	1.500			
計	1.250	0.500	1.500	1.500	0.000	4.500	2.750	6.500	4.625									
薬学科 (兼薬科学科)	薬物動態 学	教授	おのうえ さとみ 尾上 誠良	男	42	2007.7.1	2014.4.1	薬剤学		0.250					0.000	0.250	岡山大学 大学院薬学 研究科博士 課程修了 博(薬)	
								薬物動態学Ⅰ	0.750						0.750	0.000		
								薬物動態学Ⅱ		0.500					0.000	0.500		
								臨床薬物動態学	0.250						0.250	0.000		
								医療系薬学実習					4.500	0.000	4.500	0.000		
								実務事前実習					1.000	0.000	1.000	1.000		
								総合薬学演習			1.500	1.500		1.500	1.500			
								計	1.000	0.750	1.500	1.500	0.000	5.500	2.500	7.750		5.125
薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬剤 学	教授	かがわ よしゆき 賀川 義之	男	55	1985.4.1	2005.4.1	医薬品情報学Ⅰ		0.750					0.000	0.750	静岡薬科 大学大学院 薬学研究科 博士課程 修了 博(医)	
								調剤学	0.750						0.750	0.000		
								薬学と社会		0.750					0.000	0.750		
								臨床医学総論	0.250						0.250	0.000		
								薬学概論	1.500						1.500	0.000		
								病院実務実習					1.000	1.000	1.000	1.000		
								総合薬学演習			1.500	1.500		1.500	1.500			
								計	2.500	1.500	1.500	1.500	1.000	1.000	5.000	4.000		4.500

薬学科 (兼薬科学科)	医薬品製造化学	教授	かん としゆき 菅 敏幸	男	51	1996. 4. 1	2005. 4. 1	薬品製造論	0. 375	0. 500	1. 500	1. 500	4. 500	0. 375	0. 000	4. 438	北海道大学 大学院理学 研究科博士 課程修了 理博
								有機化学Ⅲ	0. 500					0. 000			
								有機化学Ⅳ						0. 500			
								化学系薬学実習Ⅰ						4. 500			
								総合薬学演習						1. 500			
計	0. 875	0. 500	1. 500	1. 500	0. 000	4. 500	2. 375	6. 500									
薬学科 (兼薬科学科)	生体情報分子解析学	教授	すがたに じゆんこ 菅谷 純子	女	65	1996. 9. 1	2008. 4. 1	遺伝子診断学	0. 150	0. 250	1. 500	1. 500	4. 500	0. 000	0. 150	4. 700	大阪大学薬 学部製薬化 学科卒業 薬博
								薬物療法学Ⅰ	0. 500					0. 000			
								薬物療法学Ⅱ						0. 000			
								薬物療法学Ⅲ						0. 250			
								臨床検査学						0. 500			
								医療系薬学実習						0. 000			
								総合薬学演習						1. 500			
								計	0. 750					1. 150	1. 500		
薬学科 (兼薬科学科)	生化学	教授	すずき たかし 鈴木 隆	男	59	1991. 10. 1	2006. 4. 1	ウイルス学	0. 750	0. 375	1. 500	1. 500	4. 500	0. 000	0. 750	7. 313	静岡薬科大 学大学院 薬学研究科 博士課程修 了 薬博
								生物化学Ⅲ	0. 750					0. 750			
								生物化学Ⅳ						0. 000			
								糖鎖生物学	0. 375					0. 750			
								基礎薬学・医用工学実習						4. 500			
								生物系薬学実習Ⅰ						4. 500			
								総合薬学演習						1. 500			
								計	1. 125					1. 500	1. 500		
薬科学科 (兼薬科学科)	統合生理学	教授	たけだ あつし 武田 厚司	男	60	1981. 4. 1	2012. 4. 1	ペプチド科学	0. 375	0. 500	1. 500	1. 500	4. 500	0. 000	0. 000	6. 250	静岡薬科大 学大学院 薬学研究科 博士課程修 了 薬博
								機能形態生理学Ⅰ	0. 750					0. 750			
								機能形態生理学Ⅱ	0. 375					0. 000			
								抗体工学						0. 375			
								生物化学Ⅱ						0. 000			
								生物学	1. 500					1. 500			
								生物系薬学実習Ⅰ						4. 500			
								総合薬学演習						1. 500			
計	3. 000	2. 000	1. 500	1. 500	0. 000	4. 500	4. 500	8. 000									
薬学科 (兼薬科学科)	生体機能分子分析	教授	とよおか とりまさ 豊岡 利正	男	63	1985. 10. 1	1994. 5. 1	分析化学Ⅰ	0. 750	0. 750	1. 500	1. 500	4. 500	0. 750	0. 000	4. 750	東京大学大 学院薬学系 研究科修士 課程修了 薬博
								分析化学Ⅱ						0. 000			
								薬品分析化学	0. 500					0. 500			
								物理系薬学実習						4. 500			
								総合薬学演習						1. 500			
計	1. 250	0. 750	1. 500	1. 500	4. 500	0. 000	7. 250	2. 250									
薬学科 (兼薬科学科)	実践薬学	教授	なみき のりゆき 並木 徳之	男	60	2008. 4. 1	2008. 4. 1	医療とコミュニケーション学	0. 175	0. 175	15. 000	12. 500	25. 000	0. 175	0. 000	27. 838	東京薬科大 学薬学卒業 薬博(薬)
								臨床薬学演習						15. 000			
								実務事前実習						0. 000			
								総合薬学演習						1. 500			
計	0. 175	0. 000	16. 500	14. 000	0. 000	25. 000	16. 675	39. 000									
薬学科 (兼薬科学科)	生薬学	教授	のぐち ひろし 野口 博司	男	65	1979. 11. 1	1995. 9. 1	漢方薬学	1. 300	1. 500	1. 500	1. 500	4. 500	1. 300	0. 000	5. 338	東京大学大 学院薬学系 研究科修士 課程修了 薬博
								生薬学	0. 375					0. 000			
								微生物薬品学Ⅱ						0. 375			
								化学系薬学実習Ⅰ						0. 000			
								総合薬学演習						1. 500			
計	1. 675	1. 500	1. 500	1. 500	0. 000	4. 500	3. 175	7. 500									
薬科学科 (兼薬科学科)	生命物理化学	教授	はしもと ひろし 橋本 博	男	43	2013. 4. 1	2013. 4. 1	生物物理化学Ⅰ	0. 375	0. 375	1. 500	1. 500	4. 500	0. 000	0. 375	4. 125	大阪大学大 学院工学研 究科博士後 期課程修了 博(工)
								生物物理化学Ⅱ						0. 000			
								物理系薬学実習						4. 500			
								総合薬学演習						1. 500			
計	0. 375	0. 375	1. 500	1. 500	4. 500	0. 000	6. 375	1. 875									

薬科学科 (兼薬学科)	医薬品創製化学	教授	はましま よしたか	男	41	2010.5	2013.4.1	有機化学Ⅰ	0.750	0.500				4.500	4.500	0.000	0.500		東京大学大学院薬学系研究科分子薬学専攻博士後期課程中退博(薬)	
			有機合成論					0.750												
			基礎化学					0.750												
			化学系薬学実習Ⅰ																	
			科学演習Ⅱ																	
総合薬学演習	1.500	1.500																		
計	1.500	0.500	1.500	6.000	0.000	4.500	3.000	11.000	7.000											
薬科学科 (兼薬学科)	医薬品化学	教授	まなべ けい	男	50	2009.4.1	2010.4.1	有機化学Ⅱ	1.500					4.500	4.500	0.000	0.000		東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了博(薬)	
			有機化学Ⅴ					0.375												
			化学系薬学実習Ⅰ																	
			有機化学演習																	
			総合薬学演習					1.500												1.500
計	1.875	0.000	1.500	3.000	0.000	4.500	3.375	7.500	5.438											
薬学科 (兼薬科学科)	分子病態学	教授	もりもと たつや	男	49	2009.4.1	2001.4.1	疾患学Ⅰ	0.500	0.500				4.500	4.500	0.000	0.500		京都大学大学院医学研究科修了医博	
			疾患学Ⅱ					0.500												
			疾患学Ⅲ					0.250												
			臨床医学総論																	
			医療系薬学実習																	
			静岡救命連携演習					3.000												
			総合薬学演習					1.500												1.500
			計					0.750												1.000
薬学科 (兼薬科学科)	医薬品情報分析学	教授	やまだ ひろし	男	59	2001.9.1	2005.4.1	疾患学Ⅰ	0.500	0.500				1.000	1.000	0.000	0.500		自治医科大学大学院医学研究科博士課程修了医博	
			疾患学Ⅱ					0.500												
			疾患学Ⅲ					0.375												
			医薬品情報学Ⅱ					0.375												
			医薬品情報学Ⅲ					0.375												
			統計学					0.375												
			病院実務実習																	
			総合薬学演習					1.500												1.500
計	0.875	1.750	1.500	1.500	1.000	1.000	3.375	4.250	3.813											
薬学科 (兼薬科学科)	衛生分子毒性学	教授	よしなり こういち	男	45	2014.4.1	2014.4.1	衛生薬学Ⅰ	0.750	1.500				1.500	1.500	0.000	0.000	3.750	4.500	4.125
			衛生薬学Ⅱ					1.500												
			毒性学					1.500												
			公衆衛生学																	
			総合薬学演習					1.500												
計	2.250	3.000	1.500	1.500	0.000	0.000	3.750	4.500	4.125											
薬学科 (兼薬科学科)	医薬品生命科学	准教授	あさい ともひろ	男	41	2004.2.1	2013.4.1	生物化学Ⅰ	0.500	0.500			4.500	4.500	0.000	0.000	10.250	5.000	7.625	
			生物化学Ⅱ					0.500												
			放射線と医療					0.750												
			基礎薬学・医用工学実習																	
			科学演習Ⅱ																	
			生物系薬学実習Ⅰ																	
計	1.250	0.500	0.000	4.500	9.000	0.000	10.250	5.000	7.625											
薬科学科 (兼薬学科)	生命物理化学	准教授	いしかわ よしのぶ	男	48	2008.4.1	2008.4.1	創薬科学	0.500				4.500	4.500	0.000	0.000	6.500	1.500	4.000	
			物理化学Ⅰ					1.500												
			物理系薬学実習																	
			総合薬学演習																	
計	2.000	0.000	0.000	1.500	4.500	0.000	6.500	1.500	4.000											
薬学科 (兼薬科学科)	実践薬学	准教授	うちだ しんや	男	47	1998.4.1	2011.10.1	医療とコミュニケーション学	0.175					25.000	0.000	15.175	37.500	26.338		
			臨床薬学演習																	
			実務事前実習																	
			計					0.175											0.000	15.000

薬科学科 (兼薬学科)	統合生理学	准教授	うんの けいこ	女	62	1976.4.1	2007.4.1	基礎生物学	0.750	0.000	0.000	4.500	4.500	0.200	0.750	0.000	7.600	静岡薬科大学薬学部薬学科卒業博(薬)	
			機能形態生理学Ⅱ					0.750	0.000										
			科学演習Ⅱ																
			基礎薬学・医用工学実習																
			生物系薬学実習Ⅰ																
			実務事前実習																
計	1.500	0.000	9.000	10.500	4.700														
薬学科 (兼薬科学科)	医薬品製造化学	准教授	えぎ まさひろ	男	44	2003.4.1	2013.10.1	有機化学Ⅲ	0.500	0.500	0.000	4.500	4.500	4.500	0.500	0.000	8.200	大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程修了博(薬)	
			有機化学Ⅳ																
			化学系薬学実習Ⅰ																
			科学演習Ⅱ																
			基礎薬学・医用工学実習																
			実務事前実習																
有機化学演習																			
計	0.500	0.500	6.000	4.900	5.000	11.400													
薬学科 (兼薬科学科)	薬理学	准教授	さいとう しんや	男	49	2007.1.1	2007.1.1	薬理学Ⅰ	1.500	0.000	0.000	4.500	4.500	4.500	1.500	0.000	5.250	東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了博(獣医)	
			科学演習Ⅰ																
			生物系薬学実習Ⅰ																
計	1.500	0.000	4.500	0.000	4.500	1.500	9.000												
薬学科 (兼薬科学科)	生体機能分子分析	准教授	とどろきけんいちろう	男	42	2011.4.1	2011.4.1	分析化学Ⅰ	0.750	0.750	0.000	4.500	4.500	0.000	0.750	0.000	5.500	九州大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(後期)満期退学博(医)	
			分析化学Ⅱ																
			薬品分析化学																
			科学演習Ⅱ																
			物理系薬学実習																
計	1.250	0.750	4.500	4.500	0.000	5.750	5.250												
薬学科 (兼薬科学科)	創剤科学	准教授	のぐち しゅうじ	男	49	2011.4.1	2011.4.1	製剤学		0.500	0.000	4.500	4.500	4.500	0.000	0.000	5.325	東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了博(薬)	
			創剤工学					0.250											
			物理化学Ⅲ					0.500											
			医療系薬学実習																
			基礎薬学・医用工学実習																
			実務事前実習																
計	0.750	0.500	0.000	0.000	4.500	4.900	5.250												
薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬剤学	准教授	みやざき やすのり	男	52	2009.4.1	2001.4.1	病院実務実習		0.000	0.000	3.000	25.000	25.000	25.000	25.000	26.500	東京理科大学薬学部薬学科卒業博薬	
			静岡救命連携演習																
			計					0.000	0.000						3.000	0.000			25.000
薬学科 (兼薬科学科)	生薬学	准教授	わたなべ けんじ	男	46	2009.9.1	2009.9.1	漢方薬学	0.200	0.000	0.000	4.500	4.500	4.500	0.200	0.000	7.788	北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了博(農)	
			微生物薬品学Ⅱ					0.375											
			化学系薬学実習Ⅰ																
			科学演習Ⅰ																
			科学演習Ⅱ																
			有機化学演習																
計	0.575	0.000	10.500	0.000	4.500	0.575	15.000												
薬学科 (兼薬科学科)	身体運動科学	准教授	くぼた たつまさ	男	44	2015.4.1	2015.4.1	身体運動科学	1.500	1.500	0.000	0.000	0.000	0.000	1.500	1.500	1.500	筑波大学大学院健康福祉学研究科修士課程修了	
			計					1.500	1.500	0.000					0.000	0.000			1.500
薬科学科 (兼薬学科)	統合生理学	講師	いぐち かずあき	男	58	1985.4.1	1991.4.1	抗体工学	0.375	0.000	0.000	9.000	4.500	4.500	0.200	0.375	0.000	7.600	静岡薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了薬博
			情報科学					0.750											
			ペプチド科学					0.375											
			科学演習Ⅰ																
			科学演習Ⅱ																
			実務事前実習																
			生物系薬学実習Ⅰ																
			計					1.500	0.000							0.000	0.000		

薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬剤学	講師	いしい やすこ	女	61	1976.4.1	2002.4.1	医薬品安全性学	0.750	0.750							0.750	0.000	0.875	静岡薬科大学薬学部製薬学科卒業博(薬)							
			薬学と社会						0.000								0.750										
			臨床医学総論					0.250	0.250								0.000										
計									1.000	0.750	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.000	0.750										
薬学科 (兼薬科学科)	薬物動態学	講師	いとう よしひこ	男	39	2007.4.1	2014.8.1	薬剤学	0.250	0.500										3.125	静岡県立大学大学院薬学研究所医療薬学専攻博士課程後期修了博(医療薬学)						
			薬物動態学Ⅰ					0.750	0.750													0.000					
			薬物動態学Ⅱ					0.250	0.250													0.000					
			臨床薬物動態学																								
			医療系薬学実習																			4.500					
計									1.000	0.750	0.000	0.000	0.000	4.500	1.000	5.250											
薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬効解析学	講師	いのうえ かずゆき	男	43	2008.4.1	2008.4.1	病院実務実習		0.000	0.000	0.000	0.000	25.000	25.000	25.000	25.000	25.000	25.000	25.000	東北大学大学院薬学研究所博士課程前期修了博(薬)						
			計																			0.000	0.000	0.000	0.000	25.000	25.000
薬学科 (兼薬科学科)	創剤科学	講師	いわお やすのり	男	37	2008.4.1	2014.4.1	製剤学	0.500	0.500											5.325	熊本大学大学院薬学教育部博士課程後期修了博(薬)					
			創剤工学					0.250	0.250														0.000				
			物理化学Ⅲ					0.500	0.500														0.000				
			医療系薬学実習																				4.500				
			基礎薬学・医用工学実習																				4.500				
計									0.750	0.500	0.000	0.000	4.500	4.900	5.250	5.400											
薬科学科 (兼薬科学科)	医薬品化学	講師	いわもと けんいち	男	53	1993.4.1	1997.4.1	無機化学	1.500	0.000			4.500									7.850	静岡県立大学大学院薬学研究所博士課程修了博(薬)				
			化学系薬学実習Ⅰ																					4.500	0.000	4.500	
			科学演習Ⅱ																						0.000	4.500	
			実務事前実習																					0.700	0.000	0.700	
			基礎薬学・医用工学実習																					4.500	4.500	0.000	
計									1.500	0.000	0.000	4.500	4.500	5.200	6.000	9.700											
薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬剤学	講師	うちの とものぶ	男	42	2009.4.1	2009.10.1	薬学英語	0.600	0.600				25.000	25.000	25.000	25.000	25.000	25.000	25.000	25.300	千葉大学大学院薬学研究所総合薬品化学専攻博士課程(後期)修了博(薬)					
			病院実務実習																								
			計																				0.600	0.000	0.000	0.000	25.000
薬学科 (兼薬科学科)	生薬学	講師	うめはら かおる	男	54	1986.4.1	2008.7.1	化学系薬学実習Ⅰ		0.000	0.000	0.000	4.500	1.500	0.000	4.500	0.000	10.500	5.250	5.250	静岡薬科大学大学院薬学研究所修了博(薬)						
			科学演習Ⅱ																								
			総合薬学演習																								
			計																			0.000	0.000	0.000	6.000	0.000	4.500
薬学科 (兼薬科学科)	薬理学	講師	おはら かずお	男	65	1994.12.1	1994.4.1	科学演習Ⅰ	1.500	0.000			4.500								5.450	東京理科大学理学研究科博士課程修了医博					
			総合薬学演習																								
			生物系薬学実習Ⅰ																						4.500		
			実務事前実習																					0.400	0.400		
			計																				0.000	0.000	0.000	6.000	0.000
薬学科 (兼薬科学科)	実践薬学	講師	かしわぐら やすはる	男	38	2014.9.1	2014.9.1	医療とコミュニケーション学	0.175	0.175		15.000	12.500								26.338	静岡県立大学大学院薬学研究所博士課程修了博(薬)					
			臨床薬学演習																								
			実務事前実習																					25.000	0.000		
			計																				0.175	0.000	15.000	12.500	0.000

薬学科 (兼薬科学科)	分子病態学	講師	かたなさか やすふみ	男	35	2010.4.1	2014.6.1	疾患学Ⅰ	0.500	0.500				4.500	1.000	0.000	0.500	0.000	0.500	0.000	0.000	4.500	1.000	0.000	4.500	0.000	4.500	1.500	0.000	3.000	0.000	3.500	17.000	10.250	静岡県立大学大学院薬学研究所後期博士課程修了博(薬)	
			疾患学Ⅱ																																	
			疾患学Ⅲ																																	
			医療系薬学実習																																	
			実務事前実習																																	
			科学演習Ⅰ																																	
			科学演習Ⅱ																																	
			総合薬学演習																																	
			静岡救命連携演習																																	
			計																																	
薬科学科 (兼薬学科)	免疫微生物学	講師	くろはね こうた	男	41	2001.4.1	2014.9.1	生物系薬学実習Ⅱ					4.500	0.300	4.500	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	4.500			4.500	0.000	0.300	4.500	0.000	0.000	4.500	9.000	0.300	9.000	4.800	6.900	静岡県立大学大学院薬学研究所博士課程修了博(薬)
			基礎薬学・医用工学実習																																	
			実務事前実習																																	
			科学演習Ⅰ																																	
薬科学科 (兼薬科学科)	医薬品生命化学	講師	清水 こうすけ	男	36	2005.9.1	2014.4.1	生物化学Ⅰ	0.500			4.500		4.500	0.200	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	4.500			4.500	0.000	0.200	4.500	0.000	0.000	9.200	4.850	静岡県立大学大学院薬学研究所前期課程修了博(薬)				
			科学演習Ⅱ																																	
			生物系薬学実習Ⅰ																																	
			実務事前実習																																	
薬科学科 (兼薬科学科)	生化学	講師	たかはし ただのぶ	男	39	2006.4.1	2013.4.1	薬学英語	0.600	0.750		4.500	4.500	0.200	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	4.500	4.500	0.000	4.500	0.000	0.200	4.500	0.000	0.000	4.500	6.225	9.950	8.088	静岡県立大学大学院薬学研究所博士後期課程薬学専攻修了博(薬)		
			糖鎖生物学																																	
			生物化学Ⅲ																																	
			生物化学Ⅳ																																	
			基礎薬学・医用工学実習																																	
			生物系薬学実習Ⅰ																																	
			実務事前実習																																	
			科学演習Ⅱ																																	
			計																																	
			薬科学科 (兼薬科学科)					科学英語																											講師	フィリップ・J・ホーク
科学演習Ⅰ																																				
計																																				
薬科学科 (兼薬科学科)	免疫微生物学	講師	みやけ まさき	男	49	1997.5.1	2000.5.1	微生物学	0.750			4.500	4.500	0.200	0.000	0.000	0.000	0.750	0.000	0.000	4.500	4.500	0.000	4.500	0.000	0.200	4.500	0.000	0.200	9.750	4.700	7.225	岐阜大学大学院医学研究科形態系専攻修了博(医)			
			科学演習Ⅰ																																	
			生物系薬学実習Ⅱ																																	
			基礎薬学・医用工学実習																																	
			実務事前実習																																	
計																																				
薬科学科 (兼薬科学科)	生物情報分子解析学	講師	やまざき やすひろ	男	42	2007.5.1	2014.4.1	臨床検査学	0.500	0.150			4.500	4.500	0.300	0.000	0.000	0.500	0.000	0.150	0.000	0.500	0.000	0.500	0.000	0.250	4.500	0.000	4.500	0.000	0.300	5.250	5.950	5.600	静岡県立大学大学院薬学研究所博士課程修了博(医)	
			遺伝子診断学																																	
			薬物療法Ⅰ																																	
			薬物療法Ⅱ																																	
			薬物療法Ⅲ																																	
			医療系薬学実習																																	
			基礎薬学・医用工学実習																																	
			実務事前実習																																	
			計																																	
			薬科学科 (兼薬科学科)					生命物理化学																												講師
生物物理化学Ⅱ																																				
物理化学Ⅱ																																				
科学演習Ⅱ																																				
基礎薬学・医用工学実習																																				
物理系薬学実習																																				
計																																				

薬学科 (兼薬科学科)	医薬品情報解析学	講師	かわさき ようへい	男	36	2015. 4. 1	2015. 4. 1	医薬品情報学Ⅱ	0. 375	0. 375				5. 000	5. 000	0. 000	0. 375		東京理科大学大学院理学研究科博士課程修了博(理学)
			川崎 洋平					医薬品情報学Ⅲ											
								統計学											
								病院実務実習											
								医療系薬学実習											
	計	0. 375	0. 750	0. 000	0. 000	5. 000	9. 500	5. 375	10. 250	7. 813									
薬学科 (兼薬科学科)	医薬品製造化学	助教	あさかわ ともひろ	男	36	2010. 4. 1	2010. 1. 1	薬学英语	0. 600	0. 375				4. 500	4. 500	0. 600	0. 000		静岡県立大学大学院薬学研究科修了博(薬)
			浅川 倫宏					薬品製造論											
								化学系薬学実習Ⅰ											
								基礎薬学・医用工学実習											
								科学演習Ⅰ											
	科学演習Ⅱ	0. 975	0. 000	0. 000	9. 000	4. 500	4. 500	5. 475	13. 500	9. 488									
薬学科 (兼薬科学科)	医薬品製造化学	助教	いない まこと	男	34	2011. 9. 1	9. 1	有機化学Ⅲ	0. 500	0. 500				4. 500	4. 500	0. 500	0. 000		静岡県立大学大学院薬学研究科修了博(薬)
			稲井 誠					有機化学Ⅳ											
								化学系薬学実習Ⅰ											
								科学演習Ⅱ											
								基礎薬学・医用工学実習											
	計	0. 500	0. 500	0. 000	4. 500	4. 500	4. 500	5. 000	9. 500	7. 250									
薬科学科 (兼薬学科)	医薬品創製化学	助教	えがみ ひろみち	男	34	2013. 10. 1	2013. 10. 1	基礎化学	0. 750	0. 500				4. 500	4. 500	0. 750	0. 000		九州大学大学院理学府分子化学専攻博士課程修了博(理)
			江上 寛道					有機化学Ⅰ											
								化学系薬学実習Ⅰ											
	計	0. 750	0. 500	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	0. 750	5. 000	2. 875									
薬学科 (兼薬科学科)	薬理学	助教	かねこ ゆきこ	女	38	2007. 7. 1	2007. 7. 1	科学演習Ⅰ					4. 500	4. 500	0. 600	0. 000	0. 000		静岡県立大学大学院薬学研究科修了博(薬)
			金子 雪子					生物系薬学実習Ⅰ											
								実務事前実習											
	計	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	0. 000	5. 100	0. 000	9. 600	4. 800									
薬科学科 (兼薬学科)	医薬品創製化学	助教	かわと ゆうじ	男	30	2014. 4. 1	2014. 4. 1	有機化学Ⅰ	0. 000	0. 500				4. 500	4. 500	0. 000	0. 500		東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了博(薬)
			川戸 勇二					化学系薬学実習Ⅰ											
								計											
薬学科 (兼薬科学科)	医薬生命化学	助教	こいで ひろゆき	男	32	2014. 1. 1	2014. 1. 1	基礎薬学・医用工学実習					4. 500	4. 500	0. 000	0. 000			静岡県立大学大学院薬学研究科修了博(薬)
			小出 裕之					生物系薬学実習Ⅱ											
								計											
薬科学科 (兼薬学科)	医薬品化学	助教	こにし ひでゆき	男	36	2009. 8. 1	2009. 8. 1	薬学英语	0. 600	0. 375				4. 500	4. 500	0. 600	0. 000		東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了博(薬)
			小西 英之					有機化学Ⅴ											
								化学系薬学実習Ⅰ											
								基礎薬学・医用工学実習											
								科学演習Ⅱ											
	計	0. 975	0. 000	0. 000	4. 500	4. 500	4. 500	5. 475	9. 000	7. 238									
薬科学科 (兼薬科学科)	統合生理学	助教	すずき みき	女	30	2014. 5. 1	2014. 5. 1	生物系薬学実習Ⅱ					4. 500	4. 500	4. 500	0. 000	0. 000		静岡県立大学大学院薬学研究科修了博(薬)
			鈴木 美希					基礎薬学・医用工学実習											
								科学演習Ⅰ											
	計	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	9. 000	0. 000	9. 000	4. 500	6. 750									
薬学科 (兼薬科学科)	分子病態学	助教	すなかわ よういち	男	35	2014. 8. 1	2014. 8. 1	医療系薬学実習						4. 500	0. 000	4. 500			京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修了博(人間健康)
			砂川 陽一																
								計											

薬学科 (兼薬科学科)	薬物動態学	助教	せと よしき 世戸 孝樹	男	32	2014. 8. 1	2014. 8. 1	薬剤学	0. 250					0. 000	0. 250		静岡県立大学大学院薬学 研究科博士後期課程 修了 博(薬)		
								薬物動態学Ⅱ	0. 500					0. 000	0. 500				
								医療系薬学実習					4. 500	0. 000	4. 500				
								実務事前実習					0. 800	0. 000	0. 800				
						計	0. 000	0. 750	0. 000	0. 000	0. 000	5. 300	0. 000	6. 050	3. 025				
薬学科 (兼薬科学科)	実践薬学	助教	たなか しまこ 田中 紫茉莉	女	31	2009. 6. 1	2010. 6. 1	医療とコミュニケーション学	0. 175			15. 000	12. 500		0. 175	0. 000		静岡県立大学大学院薬学 研究科博士前期課程 修了 博(薬)	
								臨床薬学演習						15. 000	12. 500				
								実務事前実習					25. 000	0. 000	25. 000				
								計	0. 175	0. 000	15. 000	12. 500	0. 000	25. 000	15. 175	37. 500	26. 338		
薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬効 解析学	助教	つじ だいき 辻 大樹	男	41	2009. 8. 1	2010. 8. 1	病院実務実習					25. 000	25. 000	25. 000	25. 000		明治薬科大学大学院薬学 研究科臨床臨床薬学 専攻修士課程修了 博(薬)	
								静岡救命連携演習			3. 000	0. 000			3. 000	0. 000			
								計	0. 000	0. 000	3. 000	0. 000	25. 000	25. 000	28. 000	25. 000	26. 500		
								化学系薬学実習Ⅰ					4. 500	0. 000	4. 500		京都大学大学院薬学 研究科博士後期課程 博(薬科学)		
計	0. 000	0. 000	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	0. 000	4. 500	2. 250										
基礎薬学・医用工学実習					4. 500	4. 500	0. 000		横浜市立大学大学院国 際総合科学 研究科生体 超分子科学 専攻博士課程修了 博(理)										
物理系薬学実習					4. 500	4. 500	0. 000												
科学演習Ⅱ			4. 500			0. 000	4. 500												
計	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	9. 000	0. 000	9. 000	4. 500		6. 750									
薬学科 (兼薬科学科)	生薬学	助教	つねまつ ゆうた 恒松 雄太	男	32	2014. 8. 1	2014. 8. 1	化学系薬学実習Ⅰ						4. 500	0. 000	4. 500		京都大学大学院薬学 研究科博士後期課程 博(薬科学)	
								計	0. 000	0. 000	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	0. 000	4. 500	2. 250		
								科学演習Ⅱ				4. 500		0. 000	4. 500		大阪大学大学院医学系 研究科博士課程修了 医(博)		
								生物系薬学実習Ⅰ					4. 500	0. 000	4. 500				
実務事前実習					0. 500	0. 000	0. 500												
計	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	0. 000	5. 000	0. 000	9. 500	4. 750										
薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬効 解析学	助教	ひらい けいた 平井 啓太	男	33	2014. 5	2014. 5. 1	病院実務実習					25. 000	25. 000	25. 000	25. 000		静岡県立大学大学院薬学 研究科博士後期課程 修了 博(薬)	
								計	0. 000	0. 000	0. 000	0. 000	25. 000	25. 000	25. 000	25. 000	25. 000		
								薬品分析化学	0. 500						0. 500	0. 000			静岡県立大学大学院薬学 研究科博士課程修了 博(薬)
								物理系薬学実習					4. 500		4. 500	0. 000			
計	0. 500	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	0. 000	5. 000	0. 000	2. 500										
衛生薬学Ⅰ	0. 750						0. 750	0. 000		静岡県立大学大学院薬学 研究科博士課程修了 博(薬)									
生物系薬学実習Ⅰ						4. 500	0. 000	4. 500											
計	0. 750	0. 000	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	0. 750	4. 500	2. 625										
科学演習Ⅱ				4. 500		0. 000	4. 500		静岡県立大学大学院薬学 研究科博士後期課程 製薬学専攻修了 博(薬)										
生物系薬学実習Ⅰ					4. 500	0. 000	4. 500												
基礎薬学・医用工学実習					4. 500	4. 500	0. 000	0. 000											
実務事前実習						0. 500	0. 000	0. 500											
計	0. 000	0. 000	0. 000	4. 500	4. 500	5. 000	4. 500	9. 500	7. 000										
薬学科 (兼薬科学科)	薬局管理 学	助教	やざわ やすはる 谷澤 康玄	男	52	1996. 4. 1	1996. 4. 1	総合薬学演習				1. 500		0. 000	1. 500		静岡県立大学大学院薬学 研究科博士課程修了 博(薬)		
								実務事前実習						0. 900	0. 000	0. 900			
								薬局実務実習					1. 000	1. 000	1. 000	1. 000			
								計	0. 000	0. 000	0. 000	1. 500	1. 000	1. 900	1. 000	3. 400		2. 200	

薬学科 (兼薬科学科)	生体情報 分子解析 学	助教	やまぐち まさひこ	男	31	2012. 4. 1	2012. 4. 1	臨床検査学	0.500	0.150 0.500 0.500				4.500	0.300 4.500	0.500 0.000 0.000 0.000 0.250 0.000 4.500 0.000	0.000 0.150 0.500 0.500 0.000 0.300 4.500		大阪大学大 学院薬学研 究科博士課 程修了 博(薬)
			遺伝子診断学																
			薬物療法Ⅰ																
			薬物療法Ⅱ																
			薬物療法Ⅲ					0.250											
			基礎薬学・医用工学実習																
			実務事前実習																
			医療系薬学実習																
計	0.750	1.150	0.000	0.000	4.500	4.800	5.250	5.950	5.600										
薬科学科 (兼薬学科)	医薬品化 学	助教	やまぐち みゆき	女	34	2012. 6. 1	2012. 6. 1	科学演習Ⅱ				4.500				0.000	4.500		東京理科大 学大学院理 学研究所化 学専攻後期 博士課程修 了博(理)
			基礎薬学・医用工学実習																
			化学系薬学実習Ⅰ								4.500	0.000	4.500						
			計					0.000	0.000	0.000	4.500	4.500	4.500	4.500	9.000	6.750			
薬学科 (兼薬学研究 院)	生体機能 分子分析	助教	みずの はじめ	男	36	2015. 4. 1	2015. 4. 1	物理系薬学実習				4.500			4.500	0.000		広島大学大 学院理学研 究科修士課 程修了博 (理)	
			計					0.000	0.000	0.000	0.000	4.500	0.000	4.500	0.000	2.250			
薬科学科 (兼薬学科)	免疫微生物 学	助教	なかにし かつひろ	男	28	2015. 4. 1	2015. 4. 1	生物系薬学実習Ⅱ				4.500			4.500	0.000		静岡県立大 学大学院薬 学研究所博 士課程修了 博(薬)	
			計					0.000	0.000	0.000	0.000	4.500	0.000	4.500	0.000	2.250			
薬学研究院(薬 学部)	創薬探索 センター	教授	あさい あきら	男	52	2004. 4. 1	2004. 4. 1	創薬科学	0.500						0.500	0.000		慶応義塾大 学理工学研 究科修士課 程修了博 (工)	
			計					0.500	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.500	0.000	0.250			
薬学大学院(薬 学部)	創薬探索 センター	准教授	さわだ じゅんいち	男	45	2004. 6. 1	2006. 6. 1	化学系薬学実習Ⅱ				4.500			4.500	0.000		東京工業大 学大学院生 命理工学研 究科バイオ テクノロ ジー専攻博 士課程修了 博(工)	
			計					0.000	0.000	0.000	0.000	4.500	0.000	4.500	0.000	2.250			
薬学大学院(薬 学部)	創薬探索 センター	講師	おごう なおひさ	男	42	2012. 1. 1	2012. 11. 1	創薬科学	0.500						0.500	0.000		静岡県立大 学大学院薬 学研究所博 士課程修了 博(薬)	
			化学系薬学実習Ⅱ																
			計					0.500	0.000	0.000	0.000	4.500	0.000	5.000	0.000	2.500			

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数	82 名
5年生の在籍学生数	79 名
6年生の在籍学生数	82 名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	医薬品化学	4	3	3	5	11
2	生体機能分子分析学	5	5	2	3	10
3	生化学	4	4	5	6	15
4	衛生分子毒性学	2	2	4	6	12
5	生薬学	4	2	2	4	8
6	免疫微生物学	4	5	5	6	16
7	生命物理化学	4	6	5	5	16
8	統合生理学	4	4	4	5	13
9	医薬品製造化学	4	1	1	1	3
10	創剤科学	3	5	3	3	11
11	医薬生命化学	4	4	4	3	11
12	医薬品創製化学	3	5	0	2	7
13	創薬探索センター	3	2	2	1	5
14	臨床薬剤学	5	6	5	6	17
15	生体情報分子解析学	3	4	4	5	13
16	分子病態学	3	4	4	2	10
17	薬物動態学	3	2	6	3	11
18	薬理学	4	6	6	4	16
19	臨床薬効解析学	4	5	6	4	15
20	医薬品情報解析学	2	3	2	3	8
21	実践薬学	4	4	6	5	15
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
	合計	76	82	79	82	243

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数	利用学生1人 当たり面積(m) (A/B)	備考
谷田キャンパス	講義室	3	417	専用	451	644	0.65	
		12	1,625	共用	1,513	2,612	0.62	食品栄養科学部(学生数282)、国際関係学部(学生数868)、経営情報学部(学生数449)、看護学部(学生数369)
	演習室	4	136	共用	96	2,612	0.05	食品栄養科学部(学生数282)、国際関係学部(学生数868)、経営情報学部(学生数449)、看護学部(学生数369)
	学生自習室	1	153	共用	50	2,612	0.06	食品栄養科学部(学生数282)、国際関係学部(学生数868)、経営情報学部(学生数449)、看護学部(学生数369)
	コンピュータ室	1	95	専用	40	644	0.15	
		1	223	共用	74	2,612	0.09	食品栄養科学部(学生数282)、国際関係学部(学生数868)、経営情報学部(学生数449)、看護学部(学生数369)
	模擬薬局	2	412	専用	60	644	0.64	
	実習室	6	1,248	専用	420	644	1.94	

- [注]
- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
 - 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
 - 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
 - 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
 - 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） A/B * 100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
附属図書館	655	2,723	24.1	グループワークルーム(4) キャレル(個室)(6) 岡村文庫研究室(1) LC707(1) 開架書庫スペース(5)	217	蔵書検索端末(2) プリンター(1) 据置ノートパソコン(1) 大型テレビ・ビデオ(1) コピー機(1) ホワイトボード(9) プロジェクタースクリーン(1) 全館で利用できる 貸出用ノートパソコン (20) を整備	【学部】 薬学部 640人 食品栄養科学部 240人 国際関係学部 720人 経営情報学部 400人 看護学部 370人 【大学院】 薬食生命科学総合学府 272人 国際関係学研究科 20人 経営情報イノベーション研究科 29人 看護学研究科 32人
計	655	2,723	24.1		217		

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成24年度	平成25年度	平成26年度	
附属図書館	380,337	379,737	3,790	1,335	6,177	9,001	図書 8,099冊 定期刊行物 1,458種類 視聴覚資料 190種類 電子ジャーナル 9,272種類	図書 6,344冊 定期刊行物 1,306種類 視聴覚資料 156種類 電子ジャーナル 10,808種類	図書 6,983冊 定期刊行物 1,112種類 視聴覚資料 52種類 電子ジャーナル 9,001種類	
計	380,337	379,737	3,790	1,335	6,177	9,001				

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 創薬探索センター	職名 教授	氏名 浅井 章良
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月～7月	創薬科学(3年)、化学系薬学実習V(3年)、創薬探索学特論(大学院)において、新薬開発のためのテーマの設定から開発候補の創製まで、実践的学問としての創薬を教授している
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月～7月	創薬科学(3年)、化学系薬学実習V(3年)、創薬探索学特論(大学院)において、教科書、参考書以外の教材として自作のプリントを作成し活用している
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Structure-guided design of novel L-Cysteine derivatives as potent KSP inhibitors	共著 (責任著者)	2015 Jul 22	ACS Med Chem Lett. 6(9), 1004-1009.
Structural basis of new allosteric inhibition in Kinesin spindle protein Eg5	共著 (責任著者)	2015 Apr 17	ACS Chem Biol. 10(4), 1128-1136
アカデミア創薬における特許出願と学術発表はジレンマとなるか?	単著	2014 Feb 1	実験医学増刊(羊土社) 32(2), 120-125
Identification of a new series of STAT3 inhibitors by virtual screening.	共著 (責任著者)	2010 Jul 13	ACS Med Chem Lett., 1(8), 371-375
S-trityl-L-cysteine derivative induces caspase-independent cell death in K562 human chronic myeloid leukemia cell	共著 (責任著者)	2010 Dec 1	Cancer Lett. 298(1), 99-106
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2009年1月～12月	日本分子生物学会第32回年会実行委員		
2011年4月～	日本ケミカルバイオロジー学会世話人		
2011年4月～2012年3月	日本ケミカルバイオロジー学会第7回年会実行委員会		
2013年4月～	日本薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬理学	職名 助教	氏名 石川智久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		・担当授業(薬理学II, III)で用いるスライドのpdfファイルを予めイントラネットで公開し、学生が予習に活用できるように配慮している。 ・スライドにはカラーの図を多用し、視覚的な	
2 作成した教科書、教材、参考書	2015年8月 2015年9月	詳解薬理学(廣川書店)第1, 2, 9章分担 図解薬理学(南山堂)6章分担	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Obligatory role of early Ca ²⁺ responses in H ₂ O ₂ -induced β-cell apoptosis.	共著	2015年10月	Biol. Pharm. Bull. 38, 1599-1605
(論文) Diacylglycerol signaling pathway in pancreatic β-cells: the essential role of diacylglycerol kinase in the regulation of insulin secretion.	共著	2015年5月	Biol. Pharm. Bull. 38, 669-673
(論文) Enhanced vasoconstriction to α1-adrenoceptor stimulation during cooling in mouse cutaneous plantar arteries.	共著	2014年11月	Eur. J. Pharmacol. 742, 1-7
(論文) Depression of type I diacylglycerol kinases in pancreatic β-cells from male mice results in impaired insulin secretion.	共著	2013年11月	Endocrinology. 154, 4089-4098
(論文) Involvement of phosphatidylcholine-specific phospholipase C in thromboxane A ₂ receptor-mediated extracellular Ca ²⁺ influx in rat aorta.	共著	2012年2月	Eur. J. Pharmacol. 677, 123-130
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
DGシグナリングと糖尿病関連疾患		2015年12月	第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会 合同大会
膵β細胞におけるジアシルグリセロールキナーゼδの役割の解明		2015年10月	第133回 日本薬理学会関東支部会(千葉)
坐骨神経慢性絞扼モデルラットの摘出足底動脈における収縮応答性亢進のメカニズム解析		2015年8月	第57回日本平滑筋学会総会
膵β細胞におけるジアシルグリセロールキナーゼδの発現・機能解析		2015年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2015
膵β細胞におけるADMAを介したNO産生調節機構と糖尿病病態への関与		2015年7月	第61回日本薬学会東海支部大会
III 学会および社会における主な活動			
2009年3月～現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員		
2010年5月～2013年3月	日本薬学会 広報委員		
2011年4月～現在	薬学共用試験センター システム検討委員		
2013年10月～現在	静岡実験動物研究会 会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬効解析学	職名 教授	氏名 伊藤 邦彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			・講義(臨床薬物動態学、薬物療法学3、調剤学、遺伝子診断学) ・実習(病院・薬局実務実習)
2 作成した教科書、教材、参考書			・凶解薬害副作用学(分担)2012年 ・個別化医療を目指した臨床薬物動態学(編者、分担)2015年
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			・臨床薬学演習のコンテンツ作成における大学連携のメリット日本薬学会第131年会2011年(静岡)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			・大学連携による教育用症例作成と症例データ ・東海薬学教育コンソーシアム運営委員2011年から現在
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Relationship between ABCB1 gene polymorphisms and severe neutropenia in patients with breast cancer treated with doxorubicin/cyclophosphamide chemotherapy	共著	2015年	<i>Drug Metab. Pharmacokinrt</i> , 30, 149-153 (2015)
Reduced folate carrier 1 gene expression levels are correlated with methotrexate efficacy in Japanese patients with rheumatoid arthritis.	共著	2015年	<i>Drug Metab. Pharmacokinrt</i> , 30, 227-230 (2015)
Plasma vitamin K concentrations depend on CYP4F2 polymorphism and influence on anticoagulation in Japanese patients with warfarin therapy	共著	2015年	<i>Thromb. Res.</i> , 135, 861-866 (2015)
Influence of glutamine synthetase gene polymorphisms on the development of hyperammonemia during valproic acid-based therapy	共著	2015年	<i>Seizure</i> , 33, 76-80 (2015)
Immuno-Northern Blotting: Detection of RNA Modifications by Using Antibodies against Modified Nucleosides.	共著	2015年	<i>PLoS ONE</i> , 10, e0143756 (2015)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
抗CSPG4ヒト型リコンビナントFabの単離と性状解析		2015年3月	日本薬学会第135年会
がんにおける肺高血圧症治療薬に及ぼす遺伝子的および薬物動態学的因子の検討		2015年3月	日本薬学会第135年会
抗うつ薬の維持量に関連する因子の探索		2015年3月	日本薬学会第135年会
小児悪性腫瘍患者および発熱性好中球減少症患者におけるバンコマイシンクリアランスの変動		2015年5月	第32回日本TDM学会・学術大会
Influence of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the antiemetic efficacy of triple antiemetic combination with aprepitant in cancer		2015年9月	European Cancer Congress 2015
III 学会および社会における主な活動			
平成17年4月～現在	静岡県治験ネットワーク支援倫理委員会委員		
平成22年4月～平成27年3月	JST A-STEP 専門委員		
平成25年4月～現在	日本薬学会代議員		
平成27年4月～現在	JST マッチングプランナープログラム専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 創剤科学	職名 教授	氏名 板井 茂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2年前期	物理化学Ⅲは式の誘導が多いため、授業終了時に習得すべき式を再度簡潔にまとめる工夫をしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2003 2010 2013	固体医薬品の物性評価 (株じほう) 製剤機械技術ハンドブック (地人書館) 図解薬剤学 (南山堂)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年2月	「Good Mental Practice」 薬剤学 (巻頭言)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 「キラリ 牧之原の未来が見えるお話カフェ」	2016年2月14日	COC事業の一環として牧之原市民対象に「茶粉末の製剤技術への応用」について講演	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 製剤機械技術ハンドブック [第2版]	共著	平成22年10月	地人書館
(著書) 物性試験法	共著	平成23年6月	薬局 (南山堂)
(著書) 日本薬局方 技術情報2011	共著	平成23年2月	(株)じほう
(著書) 図解薬剤学	共著	平成25年1月	南山堂
(著書) 日本薬剤学会認定「製剤技師」試験問題集	共著	平成27年4月	(株)じほう
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員		
平成21年4月～平成23年3月	日本薬学会 東海支部幹事		
平成22年4月～平成26年3月	日本薬剤学会 理事		
平成25年6月～平成27年6月	製剤機械技術学会会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学	職名 教授	氏名 今井 康之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年3月～8月	外国人大学院学生が6ヶ月間研究室で実験研究を行なう機会を活用し、学部学生の卒業研究の内容として、研究計画・結果の討論を目的とした少人数ワークショップを英語で定期的を実施した。学部学生の国際的コミュニケーション能力の向上を図った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 微生物学—病原微生物の基礎 改訂第6版(編集:今井康之, 増澤俊幸) 薬学領域のコア免疫学(編集:今井康之)	平成23年8月	南江堂(執筆担当:第II章 細菌学総論)	
	平成25年11月	廣川書店(執筆担当:第1章 免疫応答のあらまし; 第2章 免疫担当細胞と組織; 第3章 白血球の移動; 第13章 免疫応答の全体像)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Essential role of peripheral node addressin in lymphocyte homing to nasal-associated lymphoid	共著	平成23年5月	J. Exp. Med. 208, 1015-1025 (2011)
(論文) Transient receptor potential ankyrin 1 activation enhances hapten sensitization in a T-	共著	平成24年8月	Toxicol. Appl. Pharmacol. 264, 370-376 (2012)
(論文) Role of high endothelial venule-expressed heparan sulfate in chemokine presentation and	共著	平成25年7月	J. Immunol. 191, 448-455 (2013)
(論文) Production of hybrid-IgG/IgA plantibodies with neutralizing activity against Shiga toxin 1.	共著	平成25年11月	PLoS ONE 8(11): e80712 (2013)
(論文) Novel antibodies reactive with sialyl Lewis X in both humans and mice define its critical role in	共著	平成27年6月	J. Biol. Chem. 290, 15313-15326 (2015)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) The role of thymic stromal lymphopoietin in FITC-induced contact hypersensitivity		平成27年11月	第44回日本免疫学会
(演題名) Production of secretory component-KDEL in Arabidopsis thaliana		平成27年11月	第44回日本免疫学会
(演題名) Intrarectal administration of Shiga toxin 1 injures mouse colonic epithelial cells		平成27年11月	第44回日本免疫学会
(演題名) ペロ毒素に対する分泌型ハイブリッドIgAの植物での産生と細胞内局在の解析		平成28年3月	日本薬学会136年会
(演題名) 小胞体保留シグナルを利用した分泌型IgAの植物での生産性向上		平成28年3月	日本薬学会136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成13年4月～	日本生化学会評議員		
平成13年7月～	日本糖質学会評議員		
平成23年10月～平成24年3月	全国薬科大学長・薬学部長会議 理事		
平成24年2月～平成25年1月	日本薬学会 東海支部長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬生命化学	職名 教授	氏名 奥 直人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年4-7月	薬学1年次生7-8名ずつ16班に分け、「尊厳死」「出生前診断」「薬害」「代理出産」などのテーマを与え、4カ月程度で各班の意見をまとめて発表させ、学生同士で討議させ、医療倫理や薬学の概論を学ぶ機会とした。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年 2015年3月30日 2015年10月9日	ベーシック薬学教科書シリーズ8 生化学(中西義信編)化学同人(共著) スタンダード薬学シリーズII 生物系薬学(生命現象の基礎)日本薬学会編、東京化学同人(編集責任者) スタンダード薬学シリーズII 生物系薬学(人体の成り立ちと生体機能の調節生命現象の基礎)日本薬学会編、東京化学同人(編集責任者)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年3月4日 2011年6月2日 2013年9月13日 2013年11月3日 2013年11月21日 2014年3月30日	「CBTの過去・現在・未来」第5回薬学教育協議会・衛生薬学担当教員会議 「どう変わる?!新薬剤師国家試験」薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部会 「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂案 C.基礎生物、D.衛生薬学」薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂案全国説明会 「薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について」シンポジウム 新薬学教育モデル・コアカリキュラム導入に向けて 「健康長寿を支える薬学の使命」新潟薬科大学特別講義 「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂への期待と薬学共用試験」日本薬学会第134年会	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年度 2015年度	日本学術会議薬学委員会薬学教育分科会委員長として「薬学教育の参照基準」策定を推進 厚生労働省医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験制度改善検討部会において国家試験の改善案を制作	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) The rational design of a synthetic polymer nanoparticle that neutralizes a toxic peptide in vivo.	共著	2012年	Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 109, 33-38
(論文) RGD-based active targeting of novel polycation liposomes bearing siRNA for cancer	共著	2012年	J. Control. Release, 160, 177-181
(論文) Suppression of immune response by antigen-modified liposomes encapsulating model	共著	2013年	J. Control. Release, 167, 284-289
(論文) Advanced cancer therapy by integrative antitumor actions via systemic administration of miR-	共著	2014年	J. Control. Release, 181, 32-39
(論文) Suppression in mice of immunosurveillance against PEGylated liposomes by encapsulated	共著	2014年	J. Control. Release, 192, 167-173
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 難治性疾患治療のためのDDS創薬		2015年5月20日	日本薬剤学会第30回年会
(演題名) 核酸医薬DDS技術開発におけるデリバリー担体の評価技術		2015年5月22日	日本薬学会第30年会
(演題名) 人口赤血球から脳梗塞治療薬開発へ		2015年10月23日	第22回日本血液代替物学会
III 学会および社会における主な活動			
昭和50年4月～現在	日本生化学会評議員		
平成17年4月～現在	財団法人浜松科学技術振興会評議員		
平成20年4月～現在	薬学共用試験センター理事		
平成20年4月～現在	日本薬剤学会評議員		
平成22年4月～平成23年3月	日本薬学会薬学教育改革大学人会議委員		
平成22年6月～平成23年9月	全国薬科大学長・薬学部長会議副会長		
平成22年9月～平成22年8月	日本生化学会中部支部支部長(日本生化学会理事)		
平成23年4月～現在	薬学教育評価機構理事		
平成23年4月～平成25年3月	日本薬学会教育部会委員		
平成23年4月～平成25年12月	文部科学省薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会		
平成23年4月～平成24年3月	日本薬学会教育賞選考委員長		
平成23年4月～平成26年3月	日本薬学会B P B編集長		
平成24年4月～現在	厚生労働省医道審議会薬剤師分科会委員		
平成24年4月～現在	薬学共用試験センター運営委員長		

平成24年4月～現在	日本学術会議連携会員
平成24年5月～現在	日本DDS学会理事
平成26年4月～現在	日本薬学会学術誌編集委員長
平成27年4月～現在	日本薬学会副会頭

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：静岡県立大学	講座名 薬物動態学	職名：教授	氏名：尾上 誠良
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年4月	薬物動態学 II に演習形式を一部導入し、薬物動態速度論の効率的理解を促進。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年10月 平成27年12月	コンパス生物薬剤学(南江堂)における「薬物動態速度論」章を執筆担当 パートナー薬剤学(南江堂)における「薬物の分布」章を執筆担当。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Novel solid self-emulsifying drug delivery system of coenzyme Q10 with improved photochemical and pharmacokinetic behaviors	共著	平成26年7月	European Journal of Pharmaceutical Sciences, 46(5): 492-9
(論文) Inhalable Powder Formulation of Pirfenidone with Reduced Phototoxic Risk for Treatment of Pulmonary Fibrosis	共著	平成25年9月	Pharmaceutical Research, 30(6): 1586-96
(論文) Photosafety screening of phenothiazine derivatives with combined use of photochemical and cassette-dosing pharmacokinetic data	共著	平成26年4月	Toxicological Sciences, 137(2): 469-77
(論文) Phototoxic risk assessments on benzophenone derivatives: photobiochemical assessments and dermal cassette-dosing	共著	平成27年7月	Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics, 354(2): 195-
(論文) Strategic application of self-micellizing solid dispersion technology to respirable powder formulation of tranilast for improved therapeutic	共著	平成27年11月	International Journal of Pharmaceutics, in press DOI:
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Formulation studies on bioactive peptides for inhalation therapy		July 5-8, 2015	19th Korean Peptide Protein Symposium, Taejeon, Korea
(演題名) How inhaled nano-medicines can control pharmacokinetic responses		September 8-11, 2015	Inhalation Asia 2015, Shenyang, China
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～平成27年3月	ICH S10 ガイドライン委員		
平成24年4月～現在	日本薬剤学会 評議員		
平成26年4月～現在	日本医薬品安全性学会 理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 臨床薬剤学	職名 教授	氏名 賀川 義之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年4月～ 平成27年12月13 日	学部1年生の薬学概論におけるSGDの導入 実務実習発表会における教員評価の導入
2 作成した教科書、教材、参考書		平成27年8月5日 平成27年4月1日 平成27年4月10 日	薬害・副作用学(南山堂、共同編集) Visual Core Pharma薬物治療学(南山堂、共著) 医薬品情報学ワークブック(朝倉書店、共著) モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい薬
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成27年6月16 日 平成27年3月13 日	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム解説(浜松 医科大学) 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム解説(静岡 県立総合病院)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成27年10月 11-12日 平成27年7月19- 20日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(チーフ タスクフォース) 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(チーフ タスクフォース)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Influence of uridine diphosphate glucuronosyltransferase inducers and inhibitors on the plasma lamotrigine concentration in pediatric patients with refractory epilepsy.	共著	平成27年3月	<i>Drug Metab Pharmacokinet.</i> 30(3):214-220
(論文) Age-Dependent Onset of Insulin Resistance in Insulin-Resistant Mice.	共著	平成27年12月	<i>Biol Pharm Bull.</i> 38(12):1925- 34
(論文) Changing incidence of hyperammonemia in Japan from 2006 to 2013: expansion of new antiepileptic drugs reduces the risk of	共著	平成27年12月	<i>Eur J Clin Pharmacol.</i> 71(12), 1517-24
(論文) Effects of the inhibition of intestinal P- glycoprotein on aliskiren pharmacokinetics in cynomolgus monkeys.	共著	平成27年1月	<i>Biopharm Drug Dispos.</i> 36(1):15-33
(論文) Individualized phenytoin therapy for pediatric Japanese epilepsy patients based on CYP2C9 and CYP2C19 genotypes.	共著	平成27年2月	<i>Ther Drug Monit.</i> 37(2), 229- 35
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Therapeutic drug monitoring for lamotrigine in pediatric epilepsy patients		平成27年6月	12th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and
(演題名) てんかん患者の脂質代謝異常発症に寄与する抗てんかん 薬の検討		平成27年10月	第49回日本てんかん学会学術 集会
(演題名) 有害事象解析を志向したドネペジルおよび代謝物の血中 濃度同時測定法の開発		平成27年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) 日本人閉経後乳がん患者におけるアロマターゼ阻害薬の PK と PD に関する研究		平成27年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) バルプロ酸による高アンモニア血症の発生率の年次推移		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～平成29年3月	日本薬学会 代議員、薬学教員委員会委員		
平成25年4月～平成29年3月	日本医療薬学会 代議員、認定・指導薬剤師		
平成26年4月～平成29年3月	日本薬理学会 学術評議員		
平成26年4月～平成30年3月	日本臨床薬理学会 特別指導薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品製造化学
職名	教授	氏名	菅敏幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			有機化学の基礎, 応用の授業を担当した。また、創業人育成セミナー(日本薬学会東海支部主催)の開催を毎年行い、企業の最先端研究者を招聘し講演を設け、創業教育を充実させた。
2 作成した教科書、教材、参考書			「有機合成実験法ハンドブック」I 基本操作、有機合成化学協会編、丸善 「カテキンプローブ合成と分子イメージング-緑茶有効成分カテキンを光らせる- Visualizing Catechin: Efficient Synthesis of Probe and its Molecular Imaging」月刊化学 「スギヒラタケ急性脳症事件の化学的解明の試み」化学と生物 「天然物の全合成で活躍した反応 実験のコツ」有機合成化学協会、化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			ITbM-RCMS-IGER Seminarや国際招待講演(Scripps, Inc. UC Irvine等)を10件行った。8件の集中講義(名古屋大学、北海道大学等)を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FD委員(平成27年度)を務め以下を実施した。 平成28年1月28日「ケースで学ぶ著作権~ホームページやSNSの積極的運営のために~」居藤洋之氏
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Proof of the existence of an unstable amino acid, pleurocybellaziridine, in <i>Pleurocybella porrigens</i>	共著	平成22年12月	<i>Elsevier, Angew. Chem. Int. Ed.</i> , 50, 1168
(著書) The Source of "Fairy Rings": 2-Azahypoxanthine and its Metabolite Found in a	共著	平成26年1月	<i>Elsevier, Angew. Chem. Int. Ed.</i> , 53, 1552
(論文) Stereocontrolled Total Synthesis of	共著	平成26年3月	<i>ACS, Org. Lett.</i> 16, 1976
(論文) Practical Total Syntheses of Acromelic Acids A and B	共著	平成26年3月	<i>ACS, Org. Lett.</i> 16, 1980
(著書) Ecteinascidins. A Review of the Chemistry, Biology and Clinical Utility of Potent Tetrahydroisoquinoline Antitumor Antibiotics.	共著	平成26年4月	<i>RSC, Nat. Prod. Rep.</i> , 32, 328
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
「効率的カテキンプローブ合成を基盤とする動態解析」		平成25年3月	農芸化学会年会
「効率的ヘテロ環構築を基盤とする生理活性天然物の合成」		平成25年6月	第103回有機合成シンポジウム
「独自の合成方法論を基盤とするプローブ分子の創製」		平成25年5月	天然物ケミカルバイオロジー第4回公開シンポジウム
「潜在的対称性に注目した生理活性天然物の全合成」		平成26年12月	平成26年度日本化学会東海支部地区講演会
「Pactamycinの合成」		平成27年5月	第5回有機分子構築法夏の勉強会
III 学会および社会における主な活動			
平成19年4月~	天然有機化合物討論会世話人		
平成19年4月~	有機合成化学協会出版委員		
平成20年4月~	静岡県試験研究機関発明評価委員		
平成25年4月~	日本薬学会学術編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 主体情報分子生物学分野	職名 教授	氏名 菅谷純子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
A platelet-activating factor (PAF) receptor deficiency exacerbates diet-induced obesity but PAF/PAF Hyperosmolarity-Induced Down-Regulation of Claudin-2 Mediated by Decrease in PKC β -Dependent GATA-2 in MDCK Cells.	共著	2015年	<i>Biochem Pharmacol.</i> , 93, 482-495 (2015)
Involvement of a cyclic adenosine monophosphate-dependent signal in the diet-induced canalicular trafficking of adenosine triphosphate-binding Clathrin-dependent endocytosis of claudin-2 by DFYSP peptide causes lysosomal damage in lung	共著	2015年	<i>J Cell Physiol.</i> , 230, 2776-2787 (2015)
Threonine-408 Regulates the Stability of the Human Pregnane X Receptor Through its Phosphorylation	共著	2015年	<i>Hepatology.</i> , 62, 1215-1226 (2015)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
A platelet-activating factor (PAF) receptor deficiency exacerbates diet-induced obesity and PAF/PAF receptor signaling up-regulates an energy expenditure inducer in adipocytes.		2015年2月	6th international conference on Phospholipase A ₂ and Lipid Mediators
脂肪組織由来間葉系幹細胞で高発現する Gpr3 の機能解析		2015年3月	第135年会 日本薬学会
核内受容体 pregnane X receptor の翻訳後修飾による遺伝子転写活性制御機構の解明		2015年7月	内外環境応答・代謝酵素研究会
Threonine-408 regulates the stability of the human pregnane X receptor through its phosphorylation and the CHIP/chaperone-		2015年10月	20th North American ISSX Meeting
血小板活性化因子受容体欠損で誘発された肥満マウスの慢性炎症反応とその制御機構の解析		2015年12月	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年1月～平成27年12月	日本脂質生化学会 幹事		
平成22年12月～平成27年11月	日本生化学会 評議員		
平成25年4月～平成28年3月	日本薬学会 代議員		
平成26年4月～平成28年3月	公私立大学実験動物施設協議会 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生化学分野	職名 教授	氏名 鈴木 隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		授業内容を印刷した穴埋め方式のプリントを毎回配布し、講義中に記載させることで重要点を認識させる。定期試験以外に中間試験も実施し、総合的に評価している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 レーニンジャーの生化学 第5版 (廣川書店) レーニンジャーの生化学 第6版 (廣川書店)	平成22年8月20日 平成27年3月20日	(訳者) (訳者)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		教務委員、組換えDNA実験薬学部安全主任、国際交流委員会委員、臨床検査技師国家試験対策委員、卒業教育講座運営委員、改訂コアカリ対応委員、バイオハザード実験センター運営委員、動物実験センター運営委委員、組換えDNA実験安全委員会、研究院主任、薬食生命科学専攻長	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Amino acid substitutions contributing to α 2,6-sialic acid linkage binding specificity of human parainfluenza virus type 3 hemagglutinin-neuraminidase	共著	2015年4月	FEBS Lett., 589, 1278-1282
Human Epithelial Cells Prevents Entry of Influenza A Virus with N-glycolylneuraminic Acid Binding Ability	共著	2014年5月	J. Virol. 88, 8445-8456
Imaging of influenza virus sialidase activity in living cells	共著	2014年5月	Sci. Rep., 4, 4877
Sulfatide regulates caspase-3-independent apoptosis of influenza A virus through viral PB1-F2 protein	共著	2013年4月	PLoS ONE 8, e61092
Imaging of sialidase activity in rat brain sections by a highly sensitive fluorescent histochemical method	共著	2011年6月	NeuroImage 58, 34-40
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
インフルエンザウイルス感染におけるヒト細胞に発現したN-グリコリルノイラミン酸の受容体機能の評価		2015年年1月	4th Negative Strand Virus-Japan
トリインフルエンザウイルス由来N9型ノイラミニダーゼの酸性領域における性状解析		2015年年3月	日本薬学会第135年会
ヒトパラインフルエンザウイルス間のシアロ糖鎖結合性の相違は感染性を決定している		2015年年8月	第34回日本糖質学会年会
Amino acids contributing to α 2,6-sialyl linkage binding of hPIV3 HN protein		2015年11月	The 63rd Annual meeting of the Japanese Society for Virology
インフルエンザウイルス感染におけるヒト細胞に発現したN-グリコリルノイラミン酸の受容体機能の評価		2015年12月	第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2015)
III 学会および社会における主な活動			
2000~2001年	日本薬学会東海支部幹事		
2000~2001年	ファルマシア地区通信員		
2015~2017年	日本糖質学会評議員		
2008~2009年	日本薬学会東海支部幹事		
2016~2017年	日本薬学会代議員		
2012年~	日本ウイルス学会評議員		
2007年	日本生化学会評議員		
2016年~2019年	日本脂質生化学会幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 統合生理学	職名 教授	氏名 武田 厚司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年	平成25年静岡県立大学教員特別研究推進費において授業評価に基づき、教育活動奨励研究費に採択	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	#####	三公立連携薬剤師生涯学習支援講座にて講演 (演題：認知活動とうつ・アルツハイマー病)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Modification of hippocampal excitability in brain slices pretreated with low nanomolar	共著	2015	J. Neurosci. Res., 93, 1641-1647
(論文) Excess influx of Zn ²⁺ into dentate granule cells affects object recognition memory via attenuated LTP	共著	2015	Neurochem. Int., 87, 60-65
(論文) Blockade of intracellular Zn ²⁺ signaling in the dentate gyrus erases recognition memory via impairment of maintained LTP.	共著	2015	Hippocampus, 25, 952-962
(論文) Is interaction of amyloid β -peptides with metals involved in cognitive activity?	共著	2015	Metallomics, 7, 1205-1212
(論文) Regulation of extracellular Zn ²⁺ homeostasis in the hippocampus as a therapeutic target for Alzheimer's disease.	共著	2015	Expert Opin. Ther. Tar., 19, 1-8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Bidirectional actions of hippocampal Zn ²⁺ signaling in cognition and its decline.		2015年10月	International Society for Trace Element Research
(演題名) Bidirectional actions of hippocampal Zn ²⁺ signaling in cognition: its involvement in amyloid- β -induced cognitive decline.		2015年4月	2015 Spring Annual Convention of Pharmaceutical Society of
(演題名) Bidirectional actions of hippocampal Zn ²⁺ signaling in cognition: its involvement in amyloid- β -induced cognitive decline.		2015/4/1	Hallym University
III 学会および社会における主な活動			
1997年7月～	日本微量元素学会評議員		
2001年4月～	金属の関与する生体関連反応シンポジウム評議員		
2010年4月～	メタルバイオサイエンス研究会幹事		
2013年4月～	日本薬学会学術誌編集委員		
2013年12月～2015年11月	独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		
2013年4月～	World Oyster Society Steering Committee Member		
2013年4月～	International Society for Trace Element Research Councilor		
2015年4月～	NeuroMetals Associate Editor		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	生体機能分子分析職名	教授 氏名 豊岡利正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			基礎薬学 分析化学 II (第3版)、第17章 クロマトグラフィーおよび関連分析法、 中村 洋 編集、廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
A novel approach for LC-MS/MS-based chiral metabolomics fingerprinting and chiral metabolomics extraction using a pair of enantiomers of chiral derivatization reagents.	共著	平成27年12月	<i>Anal. Chim. Acta</i> , 898, 73-84. Elsevier
Liquid chromatography-mass spectrometry based DL-amino acid analysis after labeling with a new chiral reagent, (S)-2,5-dioxopyrrolidin-1-yl-1-(4,6-dimethoxy-1,3,5-triazin-2-yl)pyrrolidine-2-carboxylate, and the application to saliva of healthy	共著	平成27年10月	<i>Anal. Chim. Acta</i> , 875, 73-82. Elsevier
Profiling of chiral and achiral carboxylic acid metabolomics: Synthesis and evaluation of triazine-type chiral derivatization reagents for carboxylic acids by LC-ESI-MS/MS and the application to saliva of healthy volunteers and diabetic patients.	共著	平成27年6月	<i>Anal. Bioanal. Chem.</i> , 407, 1003-1014. Springer
UPLC-ESI-MS/MS based determination of metabolism of several new illicit drugs, ADB-FUBINACA, AB-FUBINACA, AB-PINACA, QUPIC, 5F-QUPIC and Δ^9 -PVT, by human liver microsome.	共著	平成26年12月	<i>Biomed. Chromatogr.</i> , 28, 831-838. Wiley
Determination of acetone in saliva by reversed-phase liquid chromatography with fluorescence detection and the monitoring of diabetes mellitus patients with ketoacidosis.	共著	平成26年7月	<i>Clin. Chim. Acta</i> , 430, 140-144. Elsevier
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
唾液を用いた簡便な乳がん診断法の開発		平成27年11月	第20回クロマトグラフィー科学会議
光学活性誘導体化LC-MS/MS法によるキラル成分を含んだ代謝物の網羅的分析法の開発と応用		平成27年10月	第9回メタボロームシンポジウム
Dried Saliva spot法による糖尿病の簡易診断		平成27年8月	第28回バイオメディカル分析科学シンポジウム
誘導体化LC-MS/MS測定法による光学活性代謝物の網羅的エナンチオマー分別分析法の開発と応用		平成27年8月	第28回バイオメディカル分析科学シンポジウム
LC-MS/MS用光学活性誘導体化試薬の創製とキラルメタボロミクスへの適用		平成27年5月	第22回クロマトグラフィーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～2017年4月	(公益社団法人) 日本分析化学会代議員		
2011年2月～2017年1月	(公益社団法人) 日本薬学会代議員		
2012年1月～2018年1月	クロマトグラフィー科学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
静岡県立大学	講座名 実践薬学分野	教授	並木徳之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年4月から	主として薬学科4年生の臨床薬学演習、実務事前実習、医療とコミュニケーション学を担当し、薬剤師としての基礎的な知識・技能・態度を習得させることを教育目標とした。臨床薬学演習ではPBLチュートリアル方式を採用し学生が内容の濃いディスカッションを行うことができるよう工夫した。実務事前実習では臨床現場を踏まえつつ、臨場感のある実習を実現し、かつ全員を薬学共用試験に合格させた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年4月から	臨床薬学演習では実際の症例をもとに、教育用症例を作成している。必要な知識やディスカッションができるように工夫するとともに、患者背景(病気のみならず心理的な面まで)を十分に検討することができるように配慮した。実務事前実習では調剤や医療コミュニケーションに加え、フィジカルアセスメントや点滴ライン、抗がん剤調剤などアドバンス教育を取り入れ
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			指導する薬剤師が対象の様々な講演会・研修会での講演に、本学の薬剤師教育について紹介・発表を行っている。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬剤師の卒後教育(リカレント教育)を行い、薬剤師の専門性をさらに高める活動に尽力している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Evaluation of the ease of taking mini-tablets compared with other tablet formulations in healthy volunteers	共著	2016年	Eur J Pharma Sci 84:157-161
(論文) Effect of granule properties on rough mouth feel and palatability of orally disintegrating tablets.	共著	2015年	Int. J. Pharm., 484, 156-162
(論文) Development of gummi drugs of aripiprazole as hospital formulations.	共著	2015年	Chem Pharm Bull., 63, 354-360
(論文) Simultaneous LC-MS/MS analysis of the plasma concentrations of a cocktail of 5 cytochrome P450 substrate drugs and their metabolites	共著	2014年	Biol. Pharm. Bull., 37, 18-25
(論文) Clinical functionality required for orally disinte	単著	2015年	Yakugaku Zasshi., 135, 237-243
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アリピプラゾール含有グミ製剤の開発に関する研究(第2		2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) 院内製剤ドンペリドン軟膏およびクリームにおける皮膚透過性の検討		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
(演題名) Combining powder formulations of drugs with food and beverages to improve palatability		2015年6月	ASHP 2015 Summer Meetings and Exhibition
(演題名) Effect of Granule Size on Rough Mouth Feel and Palatability of Orally Disintegrating Tablets		2015年10月	2015 AAPS Annural Meeting and Exposition
(演題名) カクテル試験における基質薬物の血漿中濃度とAUCとの相関性		2015年12月	第36回日本臨床薬理学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成16年4月	日本薬剤学会評議員		
平成16年1月	日本医療薬学会認定薬剤師・指導薬剤師		
平成27年4月	日本薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 野口博司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Preliminary crystallographic studies of a plant polyketide cyclase from <i>Cannabis sativa</i> .	共著	2015年	<i>Acta Crystallographica</i> , F71, 1470-1474 (2015)
Molecular Dynamics Simulation Reveals the Selective Binding of Human Leukocyte Antigen Alleles Associated with Behcet's Disease.	共著	2015年	<i>PLoS One</i> , 10, e0131117 (2015)
Elucidation of pyranonigrin biosynthetic pathway reveals a mode of tetramic acid, fused γ -pyrone and <i>exo</i> -methylene formation	共著	2015年	<i>Org. Lett.</i> , 17, 4992-4995 (2015)
Involvement of Lipocalin-like CghA in Decalin-Forming Stereoselective Intramolecular [4+2]	共著	2015年	<i>Chembiochem</i> . 2294-2298, 16 (2015)
Non-heme dioxygenase catalyzes atypical oxidations of 6,7-bicyclic systems to form the 6,6-quinolone core of viridicatin-type fungal alkaloids	共著	2014年	<i>Angew Chem Int Ed Engl</i> . 12880-12884, 53 (2014)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
生薬有効成分とその生合成に関する研究		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
パンパナフエ薬用植物 <i>Ternstroemia citrina</i> 中の estrogen 様物質の探索		2015年3月	日本薬学会第135年会
Effects of Miroestrol on D-Galactose-induced Oxidative Stress in Mice Brain.		2015年8月	Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015
タイ薬用植物 <i>Artocarpus lakoocha</i> (Moraceae) 中の estrogen/anti-estrogen 様物質の探索		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
Enzyme-Catalyzed Stereoselective Intramolecular Diels-Alder Reaction in Biosynthesis of Decalin-Containing Natural Products		2015年12月	Pacificchem 2015
III 学会および社会における主な活動			
平成25年6月～平成27年5月	薬事審議会 委員長		
平成26年4月～平成27年3月	大学設置・学校法人審議会 専門委員		
平成26年4月～平成27年3月	生薬学会 理事		
平成26年4月～平成27年4月	植物細胞分子生物学会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生命物理化学	職名 教授	氏名 橋本 博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			生物物理化学Iの講義に関して、カールスライドや動画による視覚教材を利用し教育効果を高める工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Structure of a Novel DNA-binding Domain of Helicase-like Transcription Factor (HLTF) and Its Functional Implication in DNA Damage Tolerance	共著	2015年5月	<i>J. Biol. Chem.</i>
(論文) Water-Binding Phospholipid Nanodomains and Phase-Separated Diacylglycerol Nanodomains Regulate Enzyme Reactions in Lipid Monolayers	共著	2015年5月	<i>Langmuir</i>
(論文) A Small Molecule Inhibitor of Monoubiquitinated Proliferating Cell Nuclear Antigen (PCNA) inhibits Repair of Interstrand DNA Crosslink, enhances DNA Double-strand Break, and sensitizes	共著	2014年3月	<i>J. Biol. Chem.</i>
(論文) A Missense Mutation in Rev7 Disrupts Formation of Polζ, Impairing Mouse Development and Repair of Genotoxic Agent-induced DNA Lesions	共著	2014年2月	<i>J. Biol. Chem.</i>
(論文) Crystal structure of aldoxime dehydratase and its catalytic mechanism involved in carbon-nitrogen triple-bond synthesis	共著	2013年2月	<i>Proc. Natl. Acad. Sci. USA</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Structure and function of REV7 as the adaptor protein of REV1 and REV3 polymerases		2015年5月	15th International Congress of Radiation Research
III 学会および社会における主な活動			
平成17年4月～平成20年3月	ファルマシア トピックス小委員		
平成25年1月～平成26年1月	日本生物物理学会 分野別専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品創製化学
職名	教授	氏名	濱島 義隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		該当無し
2	作成した教科書、教材、参考書		該当無し
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当無し
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	#####	大学模擬講義 三島北高校
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	筆者・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Enantioselective Bromocyclization of Allylic Amides Catalyzed by BINAP Derivatives	共著	平成27年2月	Org.Lett. Vol.17.
Concise synthesis of binaphthol-derived chiral dicarboxylic acids	共著	平成27年3月	Tetrahedron Vol.71.
Asymmetric Fluorolactonization with a Bifunctional Hydroxyl Carboxylate Catalyst	共著	平成27年8月	J.Am.Chem.Soc. Vol.137.
Benzylic C-H Trifluoromethylation of Phenol Derivatives	共著	平成27年9月	Chem.Commun. Vol.51.
Highly Enantioselective Bromocyclization of Allylic Amides with a P/P=O Double-site Lewis Base Catalyst	共著	平成28年1月	Chem.Eur.J. Vol.22.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Continuous flow synthesis using a new type of microwave applicator		平成27年11月	The United Kingdom Automated Synthesis Forum
Asymmetric halofunctionalization of olefins with novel bifunctional organocatalysts		平成27年12月	Pacificchem 2015
III 学会および社会における主な活動			
平成24年～	モレキュラーキラリティーシンポジウム世話人		
平成27年2月～	公益社団法人日本薬学会代議員		
平成27年4月～	Bulletins of the Pharmaceutical Society of Japan 編集委員		
平成27年8月～	文部科学省 学術調査官		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
静岡県立大学	講座名 医薬品化学	職名 教授	氏名 眞鍋 敬
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月13日	担当授業(有機化学II)においてウェブシステムを活用した予習復習方法を新たに導入した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Concise Synthesis of Cyclic Carbonyl Compounds from Haloarenes Using Phenyl Formate as the Carbonyl Source	共著	2014年12月	Chem. Commun. 2015, 51, 1854-1857.
One-pot Synthesis of 2,4-Disubstituted Indoles from N-Tosyl-2,3-dichloroaniline Using Palladium-Dihydroxyterphenylphosphine Catalyst	共著	2014年4月	Org. Lett. 2014, 16, 2386-2389.
Palladium-Catalyzed Fluorocarbonylation Using N-Formylsaccharin as CO Source: General Access to Carboxylic Acid Derivatives	共著	2013年10月	Org. Lett. 2013, 15, 5370-5373.
Palladium-Catalyzed Reductive Carbonylation of Aryl Halides with N-Formylsaccharin as a CO Source	共著	2013年7月	Angew. Chem. Int. Ed. 2013, 52, 8611-8615.
Repetitive Synthetic Method for o,o,p-Oligophenylenes Using C-H Arylation	共著	2013年1月	Org. Lett. 2013, 15, 374-377.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ギ酸フェニルを一酸化炭素源として用いる環状カルボニル化合物の新規合成法の開発		2015年5月	第13回次世代を担う有機化学シンポジウム
Pd触媒を用いる環状スルホンアミドおよびスルフィンアミド類の一段階合成法の開発		2015年7月	第61回日本薬学会東海支部大会
One-Pot Synthesis of Multisubstituted Benzo[b]furans and Indoles Using Ortho-Selective Cross-Coupling by Palladium-DHTP Catalyst		2015年8月	IUPAC-2015 45th World Chemistry Congress
二酸化硫黄等価体を用いる環状スルホンアミドおよびスルフィンアミド類選択的合成法の開発		2015年10月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム
Mechanistic Study on the Generation of Carbon Monoxide from Phenyl Formate and Its Application to the Development of Pd-Catalyzed Carbonylation at Room Temperature		2015年12月	The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies
III 学会および社会における主な活動			
平成23年8月~25年7月	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員		
平成24年度	日本薬学会東海支部 庶務幹事		
平成24年度	有機合成化学協会東海支部 若手研究者のためのセミナー責任者		
平成24年度	第29回有機合成化学セミナー実行委員		
平成24, 25年度	日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員		
平成25年度~	静岡県労働基準協会連合会 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習講師		
平成25年度~	Chemistry Letters編集委員		
平成25, 26年	Guest Editor of Catalysts, Special Issue "Palladium Catalysts for Cross-Coupling Reaction"		
平成25~28年度	日本薬学会 代議員		
平成25年度~	有機合成化学協会東海支部 常任幹事		
平成25年度~27年度	厚生労働省 薬剤師国家試験試験委員		
平成25年度	日本薬学会 学会賞第1次選考委員		
平成26年度	有機合成化学協会 協会賞・奨励賞選考委員		
平成26年~	Editorial Board of Catalysts		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬学部	職名 教授	氏名 森本達也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2016年3月	日本薬学会136年にて教育カリキュラムについて発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014/10/30 2015/9/30	FD講習会 (上手な講義について) FD講習会 (ねつ造とならない画像編集)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Effects of Statins on Left Ventricular Diastolic Function in Patients with Dyslipidemia and Diastolic Dysfunction (Stat-LVDF Study)	共著	2015年	<i>Biol Pharm Bull.</i> 2015;38(9):1404-9.
(論文) Optimal dose-setting study of curcumin for improvement of left ventricular systolic function after myocardial infarction in rats.	共著	2014年	<i>J Pharmacol Sci.</i> 2014;126(4):329-36
(論文) Drinkable preparation of theracurmin exhibits high absorption efficiency -A single-dose, double-blind, 4-way crossover study-	共著	2013年	<i>Biol Pharm Bull.</i> 2013;36(11):1708-14
(論文) Epidermal growth factor receptor variant type III markedly accelerates angiogenesis and tumor growth via inducing c-myc mediated angiopoietin-like 4 expression in malignant glioma.	共著	2013年	<i>Mol Cancer</i> ; 2013;12:31
(論文) Protective effects of shichimotsu-koka-to on irreversible Thy-1 nephritis.	共著	2013年	<i>Biol Pharm Bull.</i> 2013;36(1):41-7
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 心不全における核内情報伝達経路の役割		2015年3月	第88回日本薬理学会年会
(演題名) 分子生物学的老化研究: 薬学における将来展望と課題		2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) State of The Art: The Role of Molecular Biology in Cardiology		2015年4月	THE 24th ANNUAL SCIENTIFIC MEETING of THE INDONESIAN HEART
(演題名) Updates in management of diastolic left ventricular failure: Recent Complimentary Evidence		2015年4月	THE 24th ANNUAL SCIENTIFIC MEETING of THE INDONESIAN HEART
(演題名) Statin Treatment did not Significantly Alter E/E', a Parameter of Diastolicfunction, in Patients with Dyslipidemia		2015年6月	20th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy
III 学会および社会における主な活動			
平成7年9月～現在	日本内科学会 認定医		
平成11年4月～現在	日本心血管内分泌代謝学会 会員		
平成17年4月～25年11月	京滋ハートセミナー 世話人		
平成17年4月～現在	日本心不全学会 評議員		
平成17年4月～現在	国際心臓研究会 (ISHR) 日本部会 評議員		
平成17年4月～現在	日本臨床分子医学会 会員		
平成17年4月～現在	Great Wall International Congress of Cardiology・Faculty		
平成18年4月～現在	日本循環器学会 専門医		
平成18年12月～現在	日本内科学会 総合内科専門医		
平成20年9月～現在	European Society of Cardiology 会員		
平成21年4月～現在	日本抗加齢医学会 評議員		
平成21年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
平成21年4月～現在	American Society of Nephrology 会員		
平成22年4月～現在	Asian Pacific Society of Cardiology・Fellow		
平成22年4月～現在	日本薬学会 編集委員		

平成22年4月～現在	American Nano Society 会員
平成22年3月～現在	American College of Cardiology 会員
平成23年4月～現在	American Heart Association・Fellow
平成23年4月～現在	日本心不全学会 財務委員
平成23年4月～現在	世界心臓連合(World Heart Federation) ワールド・ハート・デー連絡協議会 顧問
平成23年6月～現在	日本循環器学会 一般演題査読者
平成23年12月～現在	日本循環薬理学会 会員
平成24年4月～現在	国際心血管薬物療法学会日本部会 監事
平成25年4月～現在	日本薬学会 代議員
平成25年4月～現在	International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy 会員
平成26年4月～現在	くすり・たべもの・からだの協議会 理事
平成26年4月～現在	静岡実験動物研究会 副会長
平成27年4月～現在	Indonesian Heart Association・Fellow
平成27年4月～現在	日本公衆衛生学会 会員
平成28年2月～現在	日本禁煙科学会 初級禁煙支援士

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品情報解析学
職名	教授	氏名	山田 浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年	「医薬品情報学workbook」 「生物統計/臨床研究デザインテキストブック」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effects of green tea catechins and theanine on preventing influenza infection among healthcare workers: A randomized controlled trial.	共著	平成23年	<i>BMC Complement Altern Med</i> 11:15
(論文) Green tea consumption is inversely associated with the incidence of influenza infection among schoolchildren in a tea plantation area of Japan	共著	平成23年	<i>J Nutr</i> 141(10): 1862-1870
(論文) Gargling with green tea for influenza prophylaxis: A clinical pilot study.	共著	平成25年	<i>Jpn J Clin Pharmacol Ther</i> 44(6):459-461
(論文) Lymphocyte vitamin C level as potential biomarker for progression of Parkinson's disease.	共著	平成27年	<i>Nutrition</i> 31:406-408
(論文) Methods for estimating causal relationships of adverse events with dietary supplements.	共著	平成27年	<i>BMJ Open</i> . 5(11):e009038
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Clinical evidence of green tea consumption for cognitive dysfunction.		平成27年・11月	The 19th Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka
(演題名) 研究者主導臨床試験における入力データのエラー割合とその経時的変化.		平成27年・6月	第18回日本医薬品情報学会学術大会
(演題名) ヒトにおける食品でのインフルエンザ予防のエビデンスに関する検討.		平成27年・12月	第36回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) 緑茶の高齢者における認知機能低下改善作用		平成27年・10月	第11回日本食品免疫学会学術大会
(演題名) 「医薬品と健康食品のエビデンスは同じか？」—健康食品のランダム化比較試験の例		平成27年・12月	第36回日本臨床薬理学会学術総会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年12月～平成28年12月	日本臨床薬理学会理事		
平成26年7月～平成28年6月7月	日本医薬品情報学会地区幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学薬	講座名	衛生分子毒性学
職名	教授	氏名	吉成浩一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年4月～ 平成28年2月	衛生薬学Ⅰ、公衆衛生学、環境毒性学、分子毒性学を担当。授業開始時にSB0を学生に伝えることで授業内容を明確にし、各項目毎に小テストを行うことで理解度を高めるように工夫した。
2	作成した教科書、教材、参考書		1. 吉成浩一：衛生薬学 健康と環境 スタンダード薬学シリーズII-5 (東京化学同人) 日本薬学会編、2016年2月 (共著) 2. S. Goto, M. Ohno, K. Yoshinari, M. Negishi and K. Kawajiri: Nuclear receptor-mediated regulation of cytochromes P450 genes, in Cytochrome P450: Structure, Mechanism, and Biochemistry. Paul R. Ortiz de Montellano (Edt.), Springer. (2015) (共著) 3. 吉成浩一：チトクロムP-450の阻害に基づく
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年4月～ 2016年3月	東北大学客員教授 (新薬開発論を2コマ担当、薬学専攻博士課程大学院生の研究指導)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) PXR stimulates growth factor-mediated hepatocyte proliferation by cross-talk with FOXO transcription factor.	共著	2016年2月	Biochemical Journal, 473: 257-266.
(論文) Dual roles of nuclear receptor liver X receptor α (LXR α) in the CYP3A4 expression in human hepatocytes as a positive and negative regulator	共著	2013年8月	Biochemical Pharmacology, 86: 428-436.
(論文) Novel cell-based reporter assay system using epitope-tagged protein for the identification of agonistic ligands of constitutive androstane receptor (CAR)	共著	2013年8月	Drug Metabolism and Pharmacokinetics, 28: 290-298.
(論文) Xenobiotic-induced hepatocyte proliferation associated with constitutive active/androstane receptor (CAR) or peroxisome proliferator-activated receptor α (PPAR α) is enhanced by pregnane X receptor (PXR) activation in mice.	共著	2013年4月	PLoS One, 8: e61802.
(論文) Activated sterol regulatory element-binding protein-2 suppresses hepatocyte nuclear factor-4-mediated Cyp3a11 expression in mouse liver.	共著	2011年1月	Molecular Pharmacology, 79: 148-156.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Role of xenobiotic-responsive nuclear receptors in hepatot		2016年2月	13th Meeting of the Asia Pacific Federation of Pharmacologists.
(演題名) A novel mode of drug-drug interaction associated with CYP3A4 induction by a cross-talk of nuclear receptors.		2015年11月	International Conference, 45th Annual Meeting of
(演題名) 反復投与毒性の予測に向けた新たな取り組み		2015年11月	日本動物実験代替法学会第
(演題名) インビトロ・インシリコ融合型の毒性予測システムの開発		2015年10月	2015年CBI学会
(演題名) Regulation of CYP3A gene expression by sterol-responsive transcription factors.		2015年6月	19th International Conference on Cytochrome
III 学会および社会における主な活動			
2011年1月～現在	厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員		
2013年10月～現在	内閣府食品安全委員会専門委員		
2009年1月～現在	日本薬物動態学会評議員		
2014年7月～現在	日本毒性学会評議員		
2015年2月～現在	日本薬学会代議員		
2015年6月～現在	HAB研究機構理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	薬学部 医薬生命化学
		職名	准教授
		氏名	浅井知浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年9月28日 平成25年9月30日 平成26年9月30日	平成23年度教員活動評価 教育：特に優れている 平成24年度教員活動評価 教育：特に優れている 平成25年度教員活動評価 教育：優れている 平成26年度教員活動評価 教育：優れている
2	作成した教科書、教材、参考書	平成17年6月1日 平成25年3月29日 平成25年6月3日 平成27年8月25日	リポソーム応用の新展開 (共著) DDS技術の実用化手法 (共著) 非経口投与製剤の開発と応用 (共著) DDSキャリア作成プロトコル集 (共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成25年2月4日 平成25年8月7日 平成26年11月15日 平成27年8月11日	名古屋大学生命農学創薬科学合同講演会 静岡県立大学薬学部オープンキャンパス模擬授業 静岡県立大学公開講座 静岡県立大学薬学部オープンキャンパス模擬授
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)
	(論文) Advanced cancer therapy by integrative antitumor actions via systemic administration of miR-499	共著	平成25年5月
	(論文) Antibody-modified lipid nanoparticles for selective delivery of siRNA to tumors expressing membrane-anchored form of HB-EGF	共著	平成25年7月
	(論文) Suppression in mice of immunosurveillance against PEGylated liposomes by encapsulated doxorubicin	共著	平成25年10月
	(論文) Susceptibility of PTEN-positive metastatic tumors to small interfering RNA targeting the mammalian target of rapamycin	共著	平成26年1月
	(論文) Treatment of stroke with liposomal neuroprotective agents under cerebral ischemia conditions	共著	平成26年11月
	2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月
	(演題名) リポソームDDSを用いた脳梗塞治療法の開発 (シンポジウム招待)		平成26年7月
	(演題名) 脂質ナノ粒子を用いた小分子RNAデリバリー技術の開発とがん治療への応用 (シンポジウム招待)		平成26年9月
	(演題名) Liposomal delivery of FK506 to the ischemic brain for neuroprotection		平成26年10月
	(演題名) 新規ポリアミン脂質誘導体を用いたsiRNAベクターの開発		平成26年11月
	(演題名) 新規脂質ナノ粒子/siRNAを用いた効率的な遺伝子サイレンシング (シンポジウム招待)		平成27年3月
III 学会および社会における主な活動			
平成21年9月～平成23年8月	日本生化学会中部支部・幹事		
平成23年1月～現在	日本薬剤学会DDS製剤臨床応用フォーカスグループ執行メンバー		
平成25年7月～現在	日本DDS学会・評議員		
平成26年4月～現在	日本薬剤学会・評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生命物理化学
職名	准教授	氏名	石川 吉伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年4月	講義ごとにクイズを施し解答を提出させ、講義の理解を深めるよう努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成27年4月	講義では全てパワーポイントにより作成した講義スライドを用いて行った。そのパワーポイントファイルはpdf化し、WEB上から閲覧できるようにすることで予習・復習しやすいようにし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Structure-guided Design of Novel L-Cysteine Derivatives as Potent KSP Inhibitors	共著	平成27年9月	ACS Med.Chem.Lett.,6,1004-1009 (2015)
(論文) Computational Prediction of Diastereomeric Separation Behavior of Fluorescent o-Phthalaldehyde Derivatives of Amino Acids.	共著	平成26年9月	Anal. Sci., 30, 865-870 (2014).
(論文) Regio-complementary Cycloaddition Reactions of Boryl- and Silylbenzynes with 1,3-Dipoles: Selective Synthesis of Benzo-Fused Azole Derivatives	共著	平成25年7月	J. Org. Chem., 78, 2965-2983 (2013).
(論文) Novel candesartan derivatives as indoleamine 2,3-dioxygenase inhibitors.	共著	平成24年4月	Med. Chem. Commun., 3, 475-479 (2012).
(論文) ortho-Selective Nucleophilic Addition of Primary Amines to Silylbenzynes: Synthesis of 2-Silylanilines	共著	平成23年6月	Angew.Chem.Int.Ed.50,5674-5677 (2011).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) がん治療の分子標的候補としてのPARG の検討		2015年12月	第38回 日本分子生物学会・第88回 日本生化学会合同大会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
静岡県立大学	講座名 実践薬学分野	准教授	内田信也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年4月から	主として薬学科4年生の臨床薬学演習、実務事前実習、医療とコミュニケーション学を担当し、薬剤師としての基礎的な知識・技能・態度を習得させることを教育目標とした。臨床薬学演習ではPBLチュートリアル方式を採用し学生が内容の濃いディスカッションを行うことができるよう工夫した。実務事前実習では臨床現場を踏まえつつ、臨場感のある実習を実現し、かつ全員を薬学井田試験に合格させた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年4月から	臨床薬学演習では実際の症例をもとに、教育用症例を作成している。必要な知識やディスカッションができるように工夫するとともに、患者背景(病気のみならず心理的な面まで)を十分に検討することができるように配慮した。実務事前実習では調剤や医療コミュニケーションに加え、フィジカルアセスメントや点滴ライン、抗がん剤調剤などアドバンス教育を取り入れ
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			実務実習指導薬剤師に対する説明会で、本学の実務事前実習の説明を行った。さらに実際に学生を指導する薬剤師が対象の様々な講演会・研修会での講演に、本学の薬剤師教育について紹介・発表を行っている。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬剤師の卒後教育(リカレント教育)を行い、薬剤師の専門性をさらに高める活動に尽力している。特に東海地区(静岡県、三重県)の指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォースや静岡県薬剤師会主催のフィジカルアセスメント講習会の講師を毎年つとめている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Evaluation of the ease of taking mini-tablets compared with other tablet formulations in healthy volunteers	共著	2016年	Eur J Pharma Sci 84:157-161
(論文) Effect of granule properties on rough mouth feel and palatability of orally disintegrating tablets.	共著	2015年	Int. J. Pharm., 484, 156-162
(論文) Development of gummi drugs of aripiprazole as hospital formulations.	共著	2015年	Chem Pharm Bull., 63, 354-360
(論文) Simultaneous LC-MS/MS analysis of the plasma concentrations of a cocktail of 5 cytochrome P450 substrate drugs and their metabolites.	共著	2014年	Biol. Pharm. Bull., 37, 18-25
(著書) 標準薬理学(第7版)、第3章 臨床薬理学	共著	2015年	pp.35-38, pp.56-58、医学書院
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アリピプラゾール含有グミ製剤の開発に関する研究(第2		2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) 院内製剤ドンペリドン軟膏およびクリームにおける皮膚		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
(演題名) Combining powder formulations of drugs with food and beverages to improve palatability		2015年6月	ASHP 2015 Summer Meetings and Exhibition
(演題名) Effect of Granule Size on Rough Mouth Feel and Palatability of Orally Disintegrating Tablets		2015年10月	2015 AAPS Annural Meeting and Exposition
(演題名) カクテル試験における基質薬物の血漿中濃度とAUCとの相関性		2015年12月	第36回日本臨床薬理学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成16年4月～	日本薬理学会学術評議員		
平成18年1月～	日本臨床薬理学会認定薬剤師・指導薬剤師		
平成21年4月～	日本医療薬学会認定薬剤師・指導薬剤師		
平成23年2月～	日本肺循環学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	統合生理学分野
職名	准教授	氏名	海野けい子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年4月～	授業は主にパワーポイントを用いて視覚的情報を多く使い、またパワーポイントで使用した資料はプリントとして配布し、重要なポイントは自分で書き込めるようにした。授業時の演習、授業後のレポート提出等で、講義内容の理解を深めさせた。 授業評価は2015年は5点評価で4.38、2014年は4.31と、非常に高い評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年4月～ 2010年4月～ 2010年4月～ 2010年4月～	基礎生物学 教材用プリント 機能形態学Ⅱ 教材用プリント (分担) 生物系薬学実習 実習テキスト (分担) 基礎生物学実習 実習テキスト (分担) 基礎薬学・医用工学実習 実習テキスト (分
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015年6月1日 2014年7月16日	静岡地域地下水利用対策協議会総会での特別講演 (脳の健康と食品) 富士市民大学前期ミニカレッジ 講義 (脳の老化予防)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Effects on aging and dementia ; Scientific Evidence for the Health Benefits of Green Tea,	共著	2015年9月	Japan Tea Central Public Interest Incorporated Association,
(著書) Protection of brain senescence by consumption of green tea components : The Senescence-Accelerated Mouse (SAM) Achievements and Future Directions.	共著	2013年	Elsevier
(論文) Cognitive dysfunction and amyloid β accumulation are ameliorated by the ingestion of green soybean extract in aged mice.	共著	2015年2月	Journal of Functional Foods vol.14,
(論文) Novel Frame-Shift Mutation in Slc5a2 Encoding SGLT2 in a Strain of Senescence-Accelerated Mouse SAMP10.	共著	2014年10月	Biochemical Biophysiol Research Communications vol.454,
(論文) Ingestion of theanine, an amino acid in tea, suppresses psychosocial stress in mice.	共著	2013年1月	Experimental Physiology vol.98,No.1
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 脳機能低下およびアミロイド β 蓄積に対する青大豆抽出物による改善作用		2015年3月	日本薬学会
(演題名) 脳の老化促進における社会心理的ストレスの関与ならびにその予防		2015年6月	日本基礎老化学会
(演題名) 社会心理的ストレスによる脳の萎縮ならびにその予防		2015年7月	老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会
(演題名) Prevention of cognitive dysfunction and amyloid beta accumulation by the ingestion of green soybean in aged mice.		2015年・10月	International Conference and Exhibition on Nutrition
(演題名) Anti-stress effect of low-caffeine green tea.		2015年・11月	International Conference of Functional Food Center
III 学会および社会における主な活動			
平成17年4月～	静岡市立清水看護専門学校 非常勤講師		
平成18年4月～平成25年3月	東京都老人総合研究所 協力研究員		
平成21年4月～平成25年3月	静岡県診療用RI審査委員会		
平成21年4月～平成25年3月	静岡市診療用RI審査委員会		
平成23年4月～	老化促進モデル (SAM) 研究協議会 幹事		

平成24年4月～	基礎老化学会 評議委員
平成24年5月～	抗加齢医学会 評議委員
平成25年4月～平成27年3月	東北大学加齢医学研究所 共同研究員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品製造化学
職名	准教授	氏名	江木正浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		6年間を通じて	学部生対象の授業では、何を教えたかではなく理解するためにはどうしたら良いかという視点で行っている。得られた知識をより深く理解するために、演習及び実習を有意義に活用できるよう、内容等に腐心している。また、学生から出された授業に関するアンケート結果を真摯に受け止め、改善を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		6年間を通じて	スライドを作成して、授業内容を理解させることに努めた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成27年	全学FD委員として教育の質向上に繋がるような様々な講演会を企画した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Heteropoly Compound-Catalyzed Switchable Synthesis of Both (Z)- and (E)- α,β -Unsaturated Carbonyl Compounds	共著	平成23年10月	Angewandte Chemie International Edition vol.50 No.51
(論文) A Mesoporous-Silica-Immobilized Oxovanadium Cocatalyst for the Lipase-Catalyzed Dynamic Kinetic Resolution of Racemic Alcohols	共著	平成25年2月	Angewandte Chemie International Edition vol.52 No.13
(論文) Efficient Intramolecular Cyclizations of Phenoxyethynyl Diols into Multisubstituted α,β -Unsaturated Lactones	共著	平成25年7月	Organic Letters vol.15 No.16
(論文) Central-Axial-Central Chirality Transfer: Asymmetric Synthesis of Highly Substituted Indenes Bearing a Stereogenic Quaternary Carbon Center from Optically Active Propargyl Alcohols	共著	平成27年1月	Chemical Communication Vol.51 No.3
(総説) Transition metal-catalyzed intramolecular cyclization of propargyl alcohols and their derivatives for the synthesis of highly substituted five-membered oxygen heterocycles	共著	平成27年2月	Heterocycles Vol.91 No.5
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Cationic Gold(I)-Catalyzed Intramolecular Cyclization of γ -Hydroxyalkynones		平成22年12月18日	Pacificchem 2010
ヘテロポリ酸を用いるフロハルキルアルコールの水酸基1,3-転位反応:		平成23年11月10日	第100回有機合成シンポジウム
Environmentally Benign Synthesis of Furans and Pyrroles Using Cationic Gold(I) Catalysts		平成24年9月6日	Gold 2012
多置換アレン合成と化学選択的な分子内環化反応への利用		平成25年7月19日	日本プロセス化学会 2013サマーシンポジウム
Raputindole A の合成研究		平成27年3月28日	日本薬学会 第134年会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年9月23, 24日	第14回生体触媒化学シンポジウム in 静岡 実行委員		
平成23年3月28-31日	日本薬学会第131年会 実行委員		
平成23年3月29日	日本薬学会第131年会一般シンポジウム「有機合成化学の若い力-創造への挑戦-」オーガナイザー		
平成24年9月5-7日	第29回有機合成化学セミナー 実行委員		
平成24年12月7日	日本プロセス化学会2012ウィンターシンポジウム 実行委員		
平成26年11月9日	平成26年度日本薬学会東海支部例会 実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	身体運動科学
		職名	准教授
		氏名	窪田辰政
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） （1）授業内容・方法の工夫	2011年4月～現在に至る	実技科目の授業では、受講生に各種目における技術習得のみならず、活動を通して、「協力」「信頼」「チームワーク」「人間関係」といった概念を具体的に体験させ、人として生きて行く上で必要なライフスキルの獲得、ならびにメンタルヘルスの改善をねらいとした授業展開を心がけている。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 （1）指導実践の成果をまとめた論文発表	2012年10月～現在に至る	高校野球部員の補給技能（窪田ら、2013）や、中学陸上部員のハードル能力（窪田ら、2014）、体育・スポーツ系学生の要約・発表能力（窪田ら、2012、窪田ら、2015）などを向上させる指導実践の成果を論文にまとめ発表して
4	その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
テニスにおけるサービススキルを高めるためのSAT法による支援効果に関する研究	共著	2012年10月	メンタルヘルスの社会学 Vol. 18
Relationship between Self-esteem and Self-efficacy for Exercise among Junior High School Students	共著	2013年10月	メンタルヘルスの社会学 Vol. 19
Relationship between Stages of Change in Exercise Behavior and Self-efficacy for Exercise among Junior High School Students	共著	2013年10月	メンタルヘルスの社会学 Vol. 19
女子中学生の身体活動量の増加を促すSAT教育プログラムの開発	共著	2014年10月	メンタルヘルスの社会学 Vol. 20
いかにして体育・スポーツ系学生の要約・発表能力を向上させるか-SAT自己カウンセリングシートを用いた心理教育指導の試み-	共著	2015年10月	メンタルヘルスの社会学 Vol. 21
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
青少年のセルフエスティームと運動セルフ・エフィカシーに関する文献的展望（共著）		2015年6月	日本運動・スポーツ科学学会第22回大会
SATイメージ療法による身体パフォーマンス変容に関する研究-バドミントン・サービス実験から-（共著）		2015年6月	日本運動・スポーツ科学学会第22回大会
SATイメージ療法による身体パフォーマンス向上研究レビューについて（共著）		2015年8月	日本体育学会第66回大会
テニスのレッドボールでの指導がフォアハンドストロークに及ぼす影響-大学生初級者を対象に-（共著）		2015年8月	日本体育学会第66回大会
大学生を対象とした自己カウンセリングシートによるストレスマネジメントについて（共著）		2015年11月	第21回日本精神保健社会学会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
1995年9月～現在に至る	日本精神保健社会学会会員（2003年11月より理事就任）		
1996年9月～現在に至る	日本体育学会会員		
2004年11月～現在に至る	日本保健医療行動科学学会会員（2014年6月より評議員就任）		
2012年6月～現在に至る	東海学校保健学会会員（2014年9月より評議員就任）		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬理学	職名 准教授	氏名 齋藤真也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Enhanced vasoconstriction to α 1-adrenoceptor stimulation during cooling in mouse cutaneous planter arteries	共著	平成26年11月	European Journal of Pharmacology vol.742
(論文) Involvement of nitric oxide production in the impairment of skin blood flow response to local cooling in diabetic db/db mice	共著	平成25年10月	European Journal of Pharmacology vol.720
(論文) Involvement of phosphatidylcholine-specific phospholipase C in thromboxane A2 receptor-mediated extracellular Ca ²⁺ influx in rat aorta.	共著	平成24年2月	European Journal of Pharmacology vol.677
(論文) Calcitonin ameliorates enhanced arterial contractility after chronic constriction injury of the sciatic nerve in rats.	共著	同 年6月	Fundamental & Clinical Pharmacology vol. 26 No.3
	共著		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 坐骨神経慢性絞扼モデルラットの摘出足底動脈における収縮応答性亢進のメカニズム解析		平成27年8月	第57回日本平滑筋学会総会
(演題名) Impaired blood flow after chronic constriction nerve injury in mice.		平成27年10月	第20回静岡健康・長寿フォーラム
(演題名) Caffeine interferes change in expression of EP receptor subtypes during HSC activation.		平成27年10月	第20回静岡健康・長寿フォーラム
(演題名) Mechanism for enhanced contractile response of plantar artery in chronic constriction injury rat.		平成28年3月	第89回日本薬理学会年会
(演題名) 坐骨神経慢性絞扼モデルラットの足底部血流障害における血管拡張薬の効果		平成28年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～平成27年3月	日本獣医学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名： 静岡県立大学	講座名 創薬探索センター	職名： 准教授	氏名： 澤田潤一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Structure-Activity Relationships of Carboline and Carbazole Derivatives as a Novel Class of ATP-Competitive Kinesin Spindle Protein Inhibitors	共著	2011年6月	<i>J. Med. Chem.</i> Vol. 54, No. 13, p. 4839–4846
(論文) Smk grand factor-2, involved in fibroin gene transcription, consists of LIM homeodomain, LIM- interacting, and single-stranded DNA-binding proteins	共著	2013年9月	<i>J. Biol. Chem.</i> Vol. 288, No. 44, p. 581–31591
(論文) Kinesin spindle protein inhibitors with diaryl amine scaffolds: Crystal packing analysis for improved aqueous solubility.	共著	2014年5月	<i>ACS Med. Chem. Lett.</i> Vol. 5, No. 5, p. 566–571
(論文) Structural basis of new allosteric inhibition in Kinesin spindle protein Eg5.	共著	2015年1月	<i>ACS Chem. Biol.</i> Vol. 10, No. 4, p. 1128–1136
(論文) Structure-guided design of novel L-cysteine derivatives as potent KSP inhibitors.	共著	2015年9月	<i>ACS Med. Chem. Lett.</i> Vol. 6, No. 9, p. 1004–1009
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 染色体からの微小管形成におけるM期キネシンEg5の役割		2015	日本ケミカルバイオロジー 学会
(演題名) 染色体からの微小管形成におけるM期キネシンKSPの役割		2015	日本分子生物学会
(演題名) 抗がん剤創製を目指したM期キネシンCENP-E阻害化合物の 探索		2016	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2011年4月～現在	A-STEP探索タイプ専門委員・査読評価委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生化学
職名	准教授	氏名	高橋 忠伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 プレゼン能の向上 (授業評価等を含む) 申請書作成能力の向上		平成22～27年度	直接指導の学生・大学院生の実績 受賞14件 外部助成採択2件、奨学金採択4件
2 作成した教科書、教材、参考書 基礎薬学・医用工学実習 実習書 生物系薬学実習I (生化学分野) 実習書		平成27年4月 平成27年10月	医用工学実習「半導体の静特性」 酵素実習
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 一工夫・一改革提案 努力賞 (FDを含む) 第一回 学長表彰		平成22年3月 平成27年3月	「早起き週間」 「平成25年度の教育研究活動等で顕著な業績」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Mutations in NA that induced low pH-stability and enhanced the replication of pandemic (H1N1) 2009 influenza A virus at an early stage of the pandemic	共著	2013	PLoS One 8, e64439
(論文) Sulfatide regulates caspase-3-independent apoptosis of influenza A virus through viral PB1-F2 protein	共著	2013	PLoS One 8, e61092
(論文) Imaging of influenza virus sialidase activity in living cells.	共著	2014	Sci. Rep. 4, 4877
(論文) N-glycolylneuraminic Acid on Human Epithelial Cells Prevents Entry of Influenza A Virus with N-glycolylneuraminic Acid Binding Ability.	共著	2014	J. Virol. 88, 8445-8456
(論文) Amino acid substitutions contributing to a 2,6-sialic acid linkage binding specificity of human parainfluenza virus type 3 hemagglutinin-neuraminidase	共著	2015	FEBS Lett. 589, 1278-1282
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 糖鎖を利用したウイルスと宿主の生存戦略		平成27年7月29日	糖鎖科学中部拠点 糖鎖科学講義 (名古屋)
(演題名) シアリダーゼ蛍光イメージング剤を用いたヒト病原パラインフルエンザウイルスの検出分離法の開発		平成27年8月3日	第34回日本糖質学会年会 (東京)
(演題名) Functional analysis of glyco-molecules that bind with influenza virus.		平成27年11月25日	The 63rd Annual Meeting of the Japanese Society for Virology (Fukuoka) Invited lecture for Sugiura award
(演題名) ウイルス感染における糖鎖の機能解明と糖鎖の利用技術の開発		平成27年12月3日	第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2015) ワークショップ「糖鎖を利用した、異物と宿主の生存戦略」(神戸)
(演題名) 薬剤耐性インフルエンザウイルスの高感度、簡便、迅速な検出方法および分離法の開発		平成28年2月27日	第1回ふじのくに地域・大学フォーラム(静岡)
III 学会および社会における主な活動			
平成23年10月～平成25年9月	日本生化学会中部支部会 幹事		
平成24年4月～現在	静岡県立大学同窓会 (静薬学友会) 理事		
平成25年9月14日	第12回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム2013 アドバイザー		
平成26年8月10～12日	第33回日本糖質学会年会 (名古屋) Advisory Board Member		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生体機能分子分析	職名 准教授	氏名 轟木堅一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年4月～	3年生を対象とした「薬品分析化学」を担当し、動画や実験を交えたインタラクティブな講義を心がけた。また、早い段階から薬剤師国家試験を意識した教授も行った。総合評価は4.49/5点と高い評価を受けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 演習で理解する薬学の分析化学 第9章 パートナー分析化学II改訂第2版 第5章	平成22年3月 平成23年3月	分析化学教科書の免疫測定法に関して執筆した 分析化学問題集の光分析法部分を分担執筆した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬学部6年制における実験ノート電子化の取り組み 薬学部学生の本音を知るための異業種情報交流会の開催とその会を通じて見えてきたこと	平成22年3月 平成22年9月	日本薬学会第130年会にて標記タイトルに関する発表を行った 第72回九州山口薬学大会にて標記タイトルに関する発表を薬剤師達と共同で行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年4月～ 平成27年3月	平成24年度から3年にわたって大学院FD委員を務め、「より良い研究室内コミュニケーションづくり～調査結果と事例から～」(京大・宮野公樹先生)や「魅力ある講義をするためのコツなど特に若手教員の講義力アップのためのFD」(河合塾・榊原隆人先生)などの企画を立案・実施した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) シリーズ試料分析 アミノ酸・生体アミン分析	共著	平成24年6月	丸善出版
(論文) Advanced dress-up chiral columns: New removable chiral stationary phases for enantioseparation of chiral carboxylic acids	共著	平成27年7月	<i>Analytica Chimica Acta</i> vol.882
(論文) An easy-to-use excimer fluorescence derivatization reagent, 2-chloro-4-methoxy-6-(4-(pyren-4-yl)butoxy)-1,3,5-triazine, for use in the highly sensitive and selective liquid chromatography analysis of histamine in Japanese soy sauces	共著	平成27年6月	<i>Analytica Chimica Acta</i> vol. 880
(論文) Automatic analyzer for highly polar carboxylic acids based on fluorescence derivatization-liquid chromatography	共著	平成27年3月	<i>Biomedical Chromatography</i> vol.29
(論文) 4-(4,6-Dimethoxy-1,3,5-triazin-2-yl)-4-methylmorpholiniumchloride as an enantioseparation enhancer for fluorescence chiralderivatization-liquid chromatographic analysis of dl-lactic acid	共著	平成26年9月	<i>Journal of Chromatography A</i> vol. 1360
(論文) Simple and Sensitive Analysis of Histamine and Tyramine in Japanese Soy Sauces and Their Intermediates Using the Stable Isotope Dilution HILIC-MS/MS Method	共著	平成26年7月	<i>Journal of Agricultural and Food Chemistry</i> vol. 62
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Bioanalysis for therapeutic monoclonal antibodies using affinity purification-high temperature reversed phase chromatography		平成27年9月	Royal Society of Chemistry & 日本分析化学会
FFハイブリッドプローブを用いた遺伝子発現の網羅的解析		平成27年10月	フルオラス科学研究会
LCを基盤とした抗体医薬の血中薬物濃度分析法の開発(依頼講演)		平成27年11月	クロマトグラフィー科学会
抗体医薬の新規血中薬物濃度分析法の開発研究(依頼講演)		平成27年11月	日本薬物動態学会
抗体医薬のイムノアフィニティー精製-高温逆相LC分析の高感度化を実現する各種蛍光標識法の検討		平成27年12月	新アミノ酸分析研究会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年6月～	フルオラス科学研究会評議委員		
平成23年12月～平成25年4月	新アミノ酸分析研究会事務局長		
平成25年12月～	新アミノ酸分析研究会幹事		

平成25年11月～	クロマトグラフィー科学会幹事
平成26年3月～平成28年1月	日本分析化学会中部支部幹事

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大	講座名 創剤科学分野	職名 准教授	氏名 野口修治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 「薬剤学実験法必携マニュアル」南江堂、共著	2014/4/5	薬剤学分野で頻用される実験や試験法について参考になる教科書の執筆に共著者として関わった	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 出張講義 (於 静岡雙葉高校)	2013/11/6	高校に出向き、薬学部進学希望の高校生に対して、薬学部の教育と研究、特に製剤学研究についての講義を行った	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・頁数) 等の名称
Nobiletin: a citrus flavonoid displaying potent physiological activity.	共著	2016年2月	<i>Acta Crystallographica</i> C72 , 124–127.
Structural changes of polymer-coated microgranules and excipients on tableting investigated by microtomography using synchrotron X-ray radiation.	共著	2015年2月	<i>International Journal of Pharmaceutics</i> 481 , 1432–139.
Polymorphic transformation of antibiotic clarithromycin under acidic condition.	共著	2014年1月	<i>Journal of Pharmaceutical Sciences</i> 103 , 580–586.
Investigation of internal structure of fine granules by microtomography using synchrotron X-ray radiation.	共著	2013年1月	<i>International Journal of Pharmaceutics</i> 445 , 93–98.
Structure of clarithromycin form I determined by synchrotron X-ray powder diffraction.	共著	2012年1月	<i>Acta Crystallographica</i> C68 , o41–o44.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Internal structures of polymer-coated microgranules investigated by microtomography using synchrotron X-ray radiation.		2015年11月	2014 Annual Meeting and Exposition.
Polymorphic transformation of clarithromycin metastable form I crystal studied by synchrotron X-ray powder diffraction method.		2015年11月	2012 Annual Meeting and Exposition.
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～平成28年3月	静岡県災害薬事コーディネーター		
平成27年9月4日	製剤機械技術学会 第24回講演会 実行委員		
平成26年12月12日	第3回創剤カンファレンス実行委員長		
平成24年11月3日	静岡県立大学公開講座 講師 「良く効く薬の“かたち”を決める」		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬剤学	職名 准教授	氏名 宮崎靖則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成22年5月～ 平成26年8月～	・自治体病院における教員主導型実務実習の実践 ・アドバンス実務実習(フィジカルアセスメント、注射手技など)の実践	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成22年5月～ 平成27年12月	・静岡県立総合病院 実習テキスト(教材)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年2月12日	・薬学教育協議会フォーラム「特色ある実務実習」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A novel blending method for dispensing powdered medicine	共著	平成26年1月	Chem. Pharm. Bull., 62(1)
(論文) Assessment of Blending Ratio of Powdered Medicine Mixtures by Image Analysis	共著	平成26年4月	Chem. Pharm. Bull., 62(4)
(論文) Evaluation of Degree of Blending Colored Diluents Using Color Difference Signal Method	共著	平成26年5月	Chem. Pharm. Bull., 62(5)
(論文) Blending powdered antineoplastic medicine in disposable ointment container	共著	平成26年6月	Yakugaku Zasshi, 134
(論文) Dry Powder Coating using Planetary Centrifugal Mixer	共著	平成27年8月	J. Pharm. Pharm. Sci., 18(3)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
注射剤中のパニツムマブの凝集化に対するシリンジ内Silicone-oilの寄与		2015年7月	第23回 クリニカルファーマシーシンポジウム
Flurbiprofen (FP) 封入ベシクルの物性および経皮吸収性評価II		2015年7月	第23回 クリニカルファーマシーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～平成26年3月	日本薬剤学会 広報委員会 委員		
平成26年4月～	日本薬剤学会 投稿論文審査委員会 委員		
平成27年4月～	静岡DDSカンファランス 監査		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生薬学	職名 准教授	氏名 渡辺 賢二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015/10/1 2015/10/8 2015/10/15 2015/10/22	教科書には演習で学ぶ有機化合物のスペクトル解析(東京化学同人)を使用。各種スペクトル解析による低分子有機化合物の化学構造を決定できるようになることを目的とした演習。理解を深めるため、毎回小テストとして授業の終わりに練習問題を科し到達度を確認した。教科書には演習で学ぶ有機化合物のスペクトル解析(東京化学同人)を使用。各種スペクトル解析による低分子有機化合物の化学構造を決定できるようになることを目的とした演習。理解を深めるため、毎回小テストとして授業の終わりに練習問題を科し到達度を確認した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当無し	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年8月27日	北海道立旭川東高等学校で出張講義を行った。講演内容は理系教育の意義と重要性。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年2月4日	静岡県立大学の学部学生および大学院学生を主な対象とした静岡県立大学-国立シンガポール大学 国際集会(ケミカルバイオロジー)を開催した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Enzymatic catalysis of anti-Baldwin ring-closure in polyether biosynthesis	共著	2012年3月	Nature, 483
Distinct mechanisms for spiro-carbon formation reveal biosynthetic pathway crosstalk	共著	2013年4月	Nature Chemical Biology, 9
Generation of complexity in fungal terpene biosynthesis: discovery of a multifunctional cytochrome P450 in the fumagillin pathway	共著	2014年2月	J. Am. Chem. Soc., 136
Elucidation of pseurotin biosynthetic pathway points to trans-acting C-methyltransferase: generation of chemical diversity	共著	2014年2月	Angew. Chem. Int. Ed., 53
Biochemical and structural basis for controlling chemical modularity in fungal polyketide	共著	2015年3月	J. Am. Chem. Soc., 137
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Functional analysis of biosynthetic enzyme from fungus		2014年3月	247th ACS National Meeting & Exposition
Natural products from fungi		2014年5月	The 3rd Current drug development international conference
Functional analysis of biosynthetic enzyme from fungus		2014年7月	Society for Industrial Microbiology
Aspoquinolone biosynthesis: Non-heme dioxygenase catalyzes atypical oxidations of 6,7-bicycle to form 6,6-quinolone core of viridicatin-type fungal alkaloid		2015年12月	Pacificchem 2015
Development of catalysts from natural product biosynthesis as reagents for enzymatic syntheses of potential drugs as well as natural products		2016年3月	Biosystems Design Symposium 2.0
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月~2013年3月	静岡大学 遺伝子実験施設 外部評価委員		
2012年7月~2013年6月	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面 審査委員		
2015年7月~2016年6月	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面 審査委員		
2015年6月~	英国王立化学会 RSC Advances Associate Editor		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬物動態学分野	職名 講師	氏名 伊藤 由彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H24年10月	実習で使用する実験手技のDVDを作製した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) "Pharmacokinetics of dietary isothiocyanates and Flavonoids" Inflammation, Oxidative Stress, and Cancer Dietary Approaches for Cancer Prevention	共著	2013年	CRC Press pp. 177-182
(著書) 「排尿障害、前立腺肥大一ノコギリヤシ果実抽出液 (Saw Palmetto Extract; SPE) を実例に一、機能性食品表示への科学的なデータの取り方と表示できる許容範囲	共著	2015年4月	技術情報協会 pp. 272-279
(論文) Improvement by phytotherapeutic agent Eviprostat of detrusor overactivity, down-regulation of pharmacological receptors and urinary cytokines in rats with cyclophosphamide-induced cystitis	共著	2013年	J.Urol., 189: 1123-1129
(論文) Selective binding of bladder muscarinic receptors in relation to the pharmacokinetics of a novel antimuscarinic agent, imidafenacin, to treat overactive bladder.	共著	2011年	J. Pharmacol. Exp. Ther., 336: 365-371
(論文) Muscarinic receptor binding of the novel radioligand [3H]imidafenacin in the human bladder and parotid gland.	共著	2014年	J Pharmacol Sci., 124: 40-46
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Effects of saw palmetto extract on urodynamic parameters, bladder pharmacological receptors and urinary cytokines in rats with cyclophosphamide-induced cystitis		2015年4月	Pharma-nutrition 2015 (Philadelphia, USA)
(演題名) 細胞膜親和性の高いアンカー修飾トルテロジンの受容体結合特性		2015年9月	第22回日本排尿機能学会(札幌)
III 学会および社会における主な活動			
2009年～	日本薬学会薬理系薬学部会若世話人		
2013年～	日本薬理学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬剤学	職名 講師	氏名 石井 康子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			平成26年11月から担当している「薬学と社会(薬事関係法規)」の講義では、練習問題が収載されている教科書の採用に加え、最新の情報の提供と理解を助けるためにプリントの配布と、理解を確認するための小テストを実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			平成15年5月から担当している「医薬品安全性学(薬害)」の講義では、被害者の置かれた状況を理解してもらえるように、出来る限り「薬害根絶フォーラム」に参加して被害者の生の声を聴き、薬害の説明に織り込むようにしている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
UPLC-MS/MS法によるsoyasaponinの定量		平成28年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成4年4月～	静薬学友会「静岡県支部役員」		
平成18年1月～	「Analytical Sciences」査読		
平成20年11月～平成28年9月	静岡茶衛生管理者認定委員会委員		
平成22年9月	第39回日本医療薬学会公開シンポジウム実行委員		
平成23年	茶の賞味期限に関する官能審査会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬効解析学	職名 講師	氏名 井上 和幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月～ 平成22年3月 平成22年4月～	平成22年からの病院実務実習に向けての事前準備を実施 薬剤師業務の進歩や病院実務実習後の学生からの意	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成20年度 平成22年度～	OSCEトライアル注射調製ステーション式 病院実習用テキスト(静岡県立総合病院用)作成 (分担)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年3月28 日 平成23年3月31	光学式自動読取りシステムを用いたOSCE業務の効率化 (日本薬学会第129年会) 病院実務実習における学生満足度の解析	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年度より	1, 2, 3年アドバイザーを担当(分担)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 4217C>A polymorphism in carbamoyl-phosphate synthase 1 gene may not associate with hyperammonemia development during valproic acid-based therapy.	共著	平成26年8月	<i>Epilepsy Res</i> , 108(6), 1046-51.
(論文) Relationship between ABCB1 gene polymorphisms and severe neutropenia in patients with breast cancer treated with doxorubicin/cyclophosphamide chemotherapy.	共著	平成27年4月	<i>Drug Metab Pharmacokinet</i> , 30(2), 149-53.
(論文) Plasma vitamin K concentrations depend on CYP4F2 polymorphism and influence on anticoagulation in Japanese patients with warfarin therapy.	共著	平成27年5月	<i>Thromb Res</i> , 135(5), 861-6.
(論文) Reduced folate carrier 1 gene expression levels are correlated with methotrexate efficacy in Japanese patients with rheumatoid arthritis.	共著	平成27年7月	<i>Drug Metab Pharmacokinet</i> , 30(3), 227-30.
(論文) Influence of glutamine synthetase gene polymorphisms on the development of hyperammonemia during valproic acid-based therapy.	共著	平成27年12月	<i>Seizure</i> , 33, 76-80.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Influence of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the antiemetic efficacy of triple antiemetic combination with aprepitant in cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy: TRIPLE Pharmacogenomics Study		平成27年・9月	European Cancer Congress 2015 (Vienna)
(演題名) てんかん患者におけるトピラマートの治療効果に及ぼす因子の探索		平成27年・9月	USフォーラム 2015(静岡県立大学学術フォーラム)
(演題名) 静岡県立大学・病院・地域薬局連携による薬物療法研修会の現況		平成27年・11月	第25回医療薬学会年会
(演題名) 抗うつ薬の応答性・維持投与量とSLC18A2遺伝子多型との関連性の検討		平成27年・11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2015
(演題名) 抗うつ薬応答性に関連する遺伝的因子の検討		平成28年・3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成18年1月～	日本医療薬学会 指導薬剤師・認定薬剤師		
平成18年1月～	日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師		
平成19年5月～平成27年5月	医薬品相互作用研究会 評議委員		
平成20年10月～	静岡県立総合病院 臨床指導薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	統合生理学
職名	講師	氏名	井口和明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) N-Acetyl-β-endorphin suppresses atopic dermatitis in NC/Nga mice.	共著	平成25年1月	<i>Dermatology Aspects</i> , vol. 11
(論文) Anti-stress effect of theanine on students during pharmacy practice: Positive correlation among salivary α-amylase activity, trait anxiety and	共著	平成25年10月	<i>Pharmacology Biochemistry and Behavior</i> vol. 111, 128
(論文) The expression of relaxin-3 in adipose tissue and its effects on adipogenesis.	共著	平成26年6月	<i>Protein Peptide Letter</i> vol. 21, 517-522
(論文) Cognitive dysfunction and amyloid β accumulation are ameliorated by the ingestion of green soybean extract in aged mice.	共著	平成27年4月	<i>Journal of Functional Foods</i> vol.14 345
(論文) Melanin production through novel processing of proopiomelanocortin in the extracellular compartment of the auricular skin of	共著	平成27年9月	<i>Scientific Reports</i> vol.5 14579
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 副腎疲労とアスコルビン酸の改善効果		平成27年3月	日本間脳下垂体副腎系研究会
(演題名) 加齢・慢性ストレスによるアンドロゲン低下に伴う脳への影響		平成27年6月	日本抗加齢医学会
(演題名) 超高齢化ストレス社会における健康と男性ホルモン		平成27年6月	静岡県バイオテクノロジー研究会
(演題名) 創傷治癒過程におけるガラニンの角化細胞に対する作用		平成27年12月	日本生化学会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年9月19日	ドリーム・サイエンス2015 in Shimizu 「脳の神秘 脳に触れてみよう」		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学薬学	講座名	創剤工学
		職名	講師
		氏名	岩尾 康範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			配布資料の重要なポイントはあらかじめ空欄にしており、授業中、学生自身に記入させる、また、細かな単元毎に小問を出すなど、授業への積極的な参加、講義内での知識の定着を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Impact of active ingredients on the swelling properties of orally disintegrating tablets prepared by microwave treatment.	共著	平成24年10月	International Journal of Pharmaceutics, 468, 234-242 (2014).
(論文) Preparation and evaluation of highly drug-loaded fine globular granules using a multi-functional rotor processor.	共著	平成25年1月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin, 63, 95-101 (2015).
(論文) Clarithromycin highly-loaded gastro-floating fine granules prepared by high-shear melt granulation can enhance the efficacy of Helicobacter pylori eradication.	共著	平成25年5月	European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics, 92, 22-27 (2015).
(論文) Efficient pharmaceutical formulation designs and their development using mathematical and statistical analysis.	単著	平成25年7月	Yakugaku Zasshi, 135, 1129-1134 (2015). (Review article)
(論文) Investigation of physicochemical drug properties to prepare fine globular granules composed of only drug substance in fluidized bed rotor granulation.	共著	平成25年12月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin, 63, 1070-1075 (2015).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
性粒子の設計と評価		平成25年5月	日本薬剤学会第30年会
(演題名) マイクロウェーブによる口腔内崩壊茶錠の設計と評価		平成25年5月	日本薬剤学会第30年会
(演題名) 統計学的手法を用いた分散性・流動性に優れた茶微粉末の開発		平成25年5月	日本薬剤学会第30年会
子の調製と評価		平成25年5月	日本薬剤学会第30年会
(演題名) 遠心転動法を用いた薬物高含有微小粒子の調製と評価		平成25年5月	日本薬剤学会第30年会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～		静岡化学工学懇話会・幹事	
平成26年4月～		日本薬学会ファルマシア・トピックス小委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名 講師	氏名 岩本 憲人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成27年4月	1. 無機化学講義テキスト (A4 77ページ) 2. 化学系薬学実習I・II・IIIテキスト (A4 52ページ)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) A one-pot synthesis of 3-arylglutaric anhydrides by reaction of ketene with aromatic aldehydes and ketones	共著	平成22年6月	<i>Tetrahedron Letters</i> , vol.50(20)
(論文) Luminal fatty acids differentially stimulate duodenal HCO ₃ ⁻ secretion in rats	共著	平成24年2月	<i>Digestive Disease Week, San Diego (USA)</i> , 1116
(論文) Change in mutagenic activity of genestein after a nitrite treatment	共著	平成24年5月	<i>Biotechnology, and Biochemistry</i> , vol.76(5)
(論文) Short-chain fatty acid sensing in rat duodenum	共著	平成27年3月	<i>Journal of Physiology</i> , vol.593(3)
(論文) Neural FFA3 activation inversely regulates anion secretion evoked by nicotinic ACh receptor activation in rat proximal colon	共著	平成27年12月	<i>Journal of Physiology</i> , vol.594
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 多環式芳香族ジニトロ化合物が持つ発がん性解明のためのDNA付加体の化学合成		平成27年3月	日本薬学会第135年会 (神戸)
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧		
大学名 静岡県立大学	講座名 薬学部臨床薬剤学	職名 講師 氏名 内野智信
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習の化学療法および外科病棟の病棟実習に関する実習内容について、当該病院の薬剤師と実際の業務に即した実習内容について打ち合わせ、工夫を行った。
	2011年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習の化学療法および外科病棟の病棟実習に関する実習内容について、当該病院の薬剤師と実際の業務に即した実習内容について打ち合わせ、工夫を行った。
	2012年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習の化学療法および外科病棟の病棟実習に関する実習内容について、当該病院の薬剤師と実際の業務に即した実習内容について打ち合わせ、工夫を行った。
	2013年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習の化学療法および外科病棟の病棟実習に関する実習内容について、当該病院の薬剤師と実際の業務に即した実習内容について打ち合わせ、工夫を行った。
	2014年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習の化学療法および外科病棟の病棟実習に関する実習内容について、当該病院の薬剤師と実際の業務に即した実習内容について打ち合わせ、工夫を行った。
	2015年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習の化学療法および外科病棟の病棟実習に関する実習内容について、当該病院の薬剤師と実際の業務に即した実習内容について打ち合わせ、工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習のテキストおよび化学療法、外科病棟の配布用資料の作成
	2011年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習のテキストおよび化学療法、外科病棟の配布用資料の作成
	2012年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習のテキストおよび化学療法、外科病棟の配布用資料の作成
	2013年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習のテキストおよび化学療法、外科病棟の配布用資料の作成
	2014年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習のテキストおよび化学療法、外科病棟の配布用資料の作成
	2015年4月	静岡県立総合病院における病院実務実習のテキストおよび化学療法、外科病棟の配布用資料の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年3月31日	静岡県立大学・病院・地域薬局連携による薬物療法研修会の現況 日本薬学会第131年会（静岡）
	2014年9月28日	静岡県立大学・病院・地域薬局連携による薬物療法研修会の現況 第24回日本医療薬学第28年年会（愛知）
	2014年11月4日	薬局メディスンにおける注射剤無菌調製業務導入のための静岡県立大学薬学部との連携 －静岡県立大学薬学部教員による教育研修と評価－ 第47回東海薬剤師学術大会（静岡）
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書） 経皮吸収型製剤開発 経皮吸収型製剤開発 における基礎と実務への応用	共著	平成27年9月	情報機構
（著書） バイオ(抗体)医薬品における不純物/凝集 の評価・試験と免疫原性、ウイルス安全性への対応	共著	平成23年10月	サイエンス&テクノロジー
（論文） Reconstitution of L-Asparaginase in Siliconized Syringes with Shaking and Headspace Air Induces Protein Aggregation.	共著	2015年10月	<i>Chemical and Pharmaceutical Bulletin</i> , 2015;63(10):770-9.
（論文） Transdermal delivery of flurbiprofen from surfactant-based vesicles: particle characterization and the effect of water on in vitro transport.	共著	2014年4月	<i>International Journal of Pharmaceutics</i> . 2014 Apr 10;464(1-2):75-84.
（論文） Characterization and skin permeation of ketoprofen-loaded vesicular systems.	共著	2014年2月	<i>European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics</i> , 2014 Feb;86(2):156-66.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） バイオ医薬品注射剤調製時に発生する凝集体のキャラク タリゼーション		2015年・6月	第15回日本タンパク質科学 学会年会（徳島）
（演題名） 注射剤中のパニツムマブの凝集化に対するシリンジ内 Silicone-oilの寄与		2015年・7月	第23回 クリニカルファ ーマシーシンポジウム 医療 薬学フォーラム2015（名古屋）
（演題名） Flurbiprofen (FP) 封入ベシクルの物性および経皮吸収 性評価II—FPの分子状態および皮膚透過に及ぼすpHの影響—		2015年・7月	第23回 クリニカルファ ーマシーシンポジウム 医療 薬学フォーラム2015（名古屋）
（演題名） ベシクルの角層浸透過程における角層構造調整機構の検 討—放射光X線によるアプローチ—		2015年・12月	第4回創剤カンファレンス 静岡（静岡）
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～現在	日本薬剤学会 雑誌「薬剤学」編集委員		
平成22年4月1日～平成23年10月7日	第45回日薬学術大会準備委員会分科会		
平成23年2月1日～現在	バイオリジカルズ製造技術研究会幹事		
平成23年4月1日～現在	静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター運営委員		
平成23年4月1日～現在	東海地区実務実習調整機構 実務実習認定薬剤師ワークショップワーキンググループ委員		
平成25年4月1日～現在	日本薬剤学会 経皮投与製剤フォーカスグループ執行部		
平成26年4月～現在	日本薬剤学会 雑誌「薬剤学」編集委員		
平成27年5月26日～現在	第32回日本DDS学会学術集会 実行委員		
平成27年2月18日～平成27年9月26日	TDDS世界シンポジウム2015実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生薬学
職名	講師	氏名	梅原 薫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬草園を活用した学生実習		2015 年 5 月	・局方収載生薬起原植物観察の機会を設け、生薬標本からは得られない薬用植物に関する知識の涵養を心がけた。・同園で栽培した薬用植物中の成分含量と収穫期の関係について考察実験を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Phenolic constituents of the Bangladeshi medicinal plant <i>Pothos scandens</i> and their anti-estrogenic, hyaluronidase inhibition, and histamine release inhibitory activities.	共著	平成 28 年 1 月	<i>Phytochemistry</i> , 121, 30-37 (2016)
(論文) Angiotensin- converting enzyme (ACE) inhibitory activity of <i>Solanum torvum</i> and isolation of a novel methyl salicylate glycoside.	共著	平成 26 年 11 月	<i>J. Func. Foods</i> , 11, 557-562 (2014)
(論文) Effect of miroestrol on ovariectomy-induced cognitive impairment and lipid peroxidation in mouse brain	共著	同年 9 月	<i>Phytomedicine</i> , 21, 1249-1255 (2014)
(論文) Identification of a new angiotensin-converting enzyme (ACE) inhibitor from Thai edible plants	共著	同年 12 月	<i>Food Chemistry</i> , 165, 92-97 (2014)
(論文) Structure and antioxidant activity relationships of isoflavonoids from <i>Dalbergia parviflora</i>	共著	同年 2 月	<i>Molecules</i> , 19, 2226-2237 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Effects of miroestrol on hippocampus and serum oxidative stress in ovariectomized mice.		2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
(演題名) バングラデシュ薬用植物 <i>Terminalia citrina</i> 中の estrogen 様物質の探索		2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
(演題名) タイ薬用植物 <i>Artabotrys hexapetalus</i> 由来の anti-estrogen 様物質の探索		2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
(演題名) Effects of Miroestrol on D-Galactose-induced Oxidative Stress in Mice Brain.		2015 年 8 月	Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015
(演題名) タイ薬用植物 <i>Artocarpus lakoocha</i> (Moraceae) 中の estrogen/anti-estrogen 様物質の探索		2015 年 9 月	日本生薬学会第 62 回年会
III 学会および社会における主な活動			
平成15年4月～平成22年12月	〇〇学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬理学	職名 講師	氏名 小原一男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) マルチメディア機器を活用した授業方法の取り組み 己評価委員会による評価	平成25年4月17日 平成26年10月10日	講義方法をプリントに加えて、液晶プロジェクターを用いて分りやすくした。 自己評価委員会に提出した資料にもとづく平成26年度の教育評価において優れているとの評価を受けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 薬理学実習テキスト作製	平成22年4月～ 平成27年4月	医療系薬学実習に使用する「薬理学実習」テキストを独自に作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ファーマカレッジ指導 ファーマカレッジ指導	##### #####	静岡県内から公募した高校生に循環系の薬の作用について実習指導した。 静岡県内から公募した高校生に循環系の薬の作用について実習指導した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Specific mechanotransduction signaling involved in myogenic responses of the cerebral artery.	共著	平成22年3月	Springer, Mechanotransduction in Cell and Tissues. Vol.3
(著書) Mechanosensitivity of pancreatic β -cells, adipocytes, and skeletal muscle cells: The therapeutic targets of metabolic syndrome.	共著	平成24年10月	Springer, Mechanotransduction in Cell and Tissues. Vol.6
(論文) Interactive role of protein phosphatase 2A and protein kinase C α in the stretch-induced triphosphorylation of myosin light chain in canine cerebral artery.	共著	平成22年9月	Journal of Vascular Research, Vol.47 No.2
(論文) Mechanism of potentiation by tea epigallocatechin of contraction in porcine coronary artery: The role of protein kinase C δ -mediated CPI-17 phosphorylation.	共著	平成23年10月	European Journal of Pharmacology, Vol.668 No.3
(総説) Regulatory Circuits in Cell Motility: Myosin phosphorylation dissociated from force under hypoxic and glucose-free conditions in the guinea pig taenia caeci.	共著	平成26年3月	Journal of Muscle Research and Cell Motility, Vol.35 No.3-4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) マウスヒラメ筋における伸展刺激誘発性糖取り込みへのインテグリン/FAK経路の関与		平成23年6月	第124回日本薬理学会 関東部会
(演題名) イヌ脳底動脈平滑筋における緑茶カテキンの収縮増強機構について		平成23年8月	第53回日本平滑筋学会総会
(演題名) Myosin Phosphorylation Dissociated from Force under Hypoxic and Glucose-Free Conditions in the Guinea Pig Taenia Caeci.		平成25年10月	Regulatory Circuits in Cell Motility a Symposium honoring David Hartshorne
(演題名) マウス骨格筋における緑茶エピガロカテキンガレートによる糖取り込み増強作用		平成26年11月	第61回中部日本生理学会大会
(演題名) シンボジウム1: プロテインホスファターゼ2Aによる平滑筋収縮制御。 ミオシン軽鎖3リン酸化調節におけるPP2Aの役割		平成27年8月	第57回日本平滑筋学会総会
III 学会および社会における主な活動			
平成4年4月～平成28年3月	日本生理学会 評議委員		
平成4年4月～平成28年3月	日本平滑筋学会 評議委員		

成16年4月～平成27年3月	日本薬理学会 評議委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 実践薬学	職名 講師	氏名 柏倉康治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年9月から	薬学科4年生の臨床薬学演習、実務事前実習、医療とコミュニケーション学を担当している。薬剤師としての基礎的な知識・技能・態度を習得させることを教育目標としている。臨床薬学演習ではPBL	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年9月から	臨床薬学演習では実際の症例をもとに、教育用症例へ加工し、学生が必要な知識やディスカッションができるように、チュートリアル方式により工夫している。UpToDateなどを用いて最新のEBMIに配	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年8月から	薬局薬剤師を対象としたフィジカルアセスメントに関する卒後教育を行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 第17回 急性消化管GVHDにおける経口BDP製剤	共著	2013年	月刊薬事, 55, 875-880
(著書) (4) 複数の坐剤を使用する際の順序と間隔	共著	2014年	薬局, 65, 2415-2419
(論文) Quality of life in patients with chronic anal fissure after topical treatment with diltiazem.	共著	2012年	World Journal of Gastrointestinal Surgery, 4, 251-255
(論文) A Randomized, Prospective, Double-blind, Placebo-Controlled Trial of the effect of Diltiazem Gel on Pain After Hemorrhoidectomy.	共著	2013年	World Journal of Gastrointestinal Surgery, 37, 2454-2457
(論文) Clinical Efficacy and Pharmacokinetics of Levothyroxine Suppository in patients with Hypothyroidism.	共著	2014年	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 37, 1-5
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 院内製剤ドンペリドン軟膏およびクリームにおける皮膚透過性の検討		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
(演題名) Pharmacokinetics of Thyroxine after Administration of Levothyroxine Suppository in Thyroidectomized Rat		2015年9月	Pharma+Bio Asia 2015
(演題名) <i>In Vitro</i> and <i>In Vivo</i> Evaluation of Transdermal Absorption of Domperidone in Cream Formulations		2015年10月	2015 AAPS Annular Meeting and Exposition
(演題名) 千葉県における褥瘡薬物治療研修会の活動		2015年11月	第25回日本医療薬学会
(演題名) ソリフェナシン含有クリーム製剤およびテープ製剤における <i>in vitro</i> 皮膚透過性		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品情報科学
職名	講師	氏名	川崎 洋平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年10月1日	生物統計・臨床研究デザイン テキストブックを作成し、統計学の授業の教科書として使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2015年12月2日	”学部教育における研究室配属薬学生へのSAS演習の実践”という内容で、学部教育における統計学教育の発表を第36回日本臨床薬理学会で行なった。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 生物統計・臨床研究デザイン テキストブック	共著	平成27年10月	メディカル・パブリケーションズ社
(著書) 内分泌代謝臨床研究マニュアル	共著	平成27年10月	診断と治療社
(論文) A Bayesian equivalency test for two independent binomial proportions	共著	平成27年8月	<i>Journal of Biopharmaceutical</i>
(論文) A comparative study on splitting criteria of a survival tree based on the cox proportional model	共著	平成27年6月	<i>Journal of Biopharmaceutical Statistics, Published ahead</i>
(論文) Urinary β 2 microglobulin can predict TDF-related renal dysfunction in HIV-1-infected patients who initiate TDF-containing antiretroviral therapy	共著	平成28年2月	<i>AIDS, Published ahead of print</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Regional differences of hepatitis C treatment in Japan: A study using nationwide database		平成28年2月	25th Asian Pacific Association for the Study of
The Safety of Pegylated Interferon α -2a and α -2b Combined With Ribavirin in Patients With Chronic Hepatitis C Based on the Japanese Interferon Database		平成27年8月	31st International Conference on Pharmacoeconomics &
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～	静岡県治験ネットワーク支援倫理委員会委員(生物統計学)		
平成27年8月～	Reviewer: アメリカ数学会 Mathematical Reviews		
平成27年9月～	Editorial board: International Journal of Pharmaceutical Sciences Research		
平成27年10月～	Subject Editor: Canadian Science Publishing		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学	職名 講師	氏名 黒羽子孝太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年～	科学に関連したテーマについてディベートを行う演習であり、スモールグループディスカッション形式を取り入れ、学生全員が積極的に演習に関わることが出来るように行った。	
科学演習 I	平成21年～	目に見えない微生物の取扱いに際し、汚染や危険の無いよう注意を促し、意識して実習に臨むよう、学生に働きかけた。	
生物系薬学実習 (免疫微生物学分野)	平成21年～	免疫分野の中でも、アレルギー学、粘膜免疫学、ワクチンに着目し、各種データを示しながら講義を行った。	
免疫微生物学特論	平成21年～	学生に興味を持たせるためノーベル賞受賞研究や、実際の生理現象 (免疫学に関する) を題材にして生物学的な内容を講義した。	
生物学入門 (全学共通科目)	平成21年～	注射剤の調整の指導、患者インタビューの指導を行い、病院実習、薬局実習へ向けてのアドバイスを行った。	
実務事前実習	平成21年～	生物系薬学実習 (免疫微生物学分野担当分) で使用する実習書の作成、編纂等を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年～		
生物系薬学実習書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年～	学生アドバイザー (免疫微生物学分野担当学生)、バレーボール部顧問	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Dibutyl maleate and dibutyl fumarate enhance contact sensitization to fluorescein isothiocyanate in mice.	共著	2016	Biol Pharm Bull, 39
(論文) Lack of impact of high dietary vitamin A on T helper 2-dependent contact hypersensitivity to fluorescein isothiocyanate in mice.	共著	2015	Biol Pharm Bull, 38
(論文) Adjuvant effect of an alternative plasticizer, diisopropyl adipate, on a contact hypersensitivity mouse model: link with sensory ion channel TRPA1 activation	共著	2015	Biol Pharm Bull, 38
(論文) Recombinant immunoglobulin A specific for influenza A virus hemagglutinin: production, functional analysis, and formation of secretory immunoglobulin A	共著	2015	Viral Immunol, 28
(論文) Shiga toxin-induced apoptosis is more efficiently inhibited by dimeric recombinant hybrid-IgG/IgA immunoglobulins than by the parental IgG monoclonal antibodies.	共著	2014	Virulence, 5
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Intrarectal administration of Shiga toxin 1 injures mouse colonic epithelial cells		2015年11月	第44回日本免疫学会 (札幌)
Production of secretory component-KDEL in Arabidopsis thaliana		2015年11月	第44回日本免疫学会 (札幌)
Adjuvant effect of dibutyl maleate in an FITC-induced contact hypersensitivity mouse model		2015年11月	第44回日本免疫学会 (札幌)
The role of thymic stromal lymphopoietin in FITC-induced contact hypersensitivity		2015年11月	第44回日本免疫学会 (札幌)
代替可塑剤によるFITC誘導性接触性皮膚炎の増悪化		2015年9月	フォーラム2015衛生薬学・環境トキシコロジー (神戸)

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成24年7月	第58回日本薬学会東海支部総会・大会 委員
平成25年9月	第25回微生物シンポジウム 委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	創薬探索センター
職名	講師	氏名	小郷尚久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Structure-guided design of novel L-cysteine derivatives as potent KSP inhibitors.	共著	2015年9月	ACS Med. Chem. Lett., 6, 1004-1009
Structural basis of new allosteric inhibition in kinesin spindle protein Eg5.	共著	2015年4月	ACS Chem. Biol., 10, 1128-1136
Novel multiplexed assay for identifying SH2 domain antagonists of STAT family proteins.	共著	2013年8月	PLOS ONE, Aug 16, 8, e71646
創薬研究における点と線 ドラッグライクとドラッグアブルの接点を探る	共著	2013年6月	細胞工学, Vol.32, No.6, 644-648, 学研メディカル秀潤社
Novel candesartan derivatives as indoleamine-2,3-dioxygenase inhibitors.	共著	2012年1月	Med Chem Commun., 3, 475-479
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新規 KSP 阻害剤の創製 - シス테인誘導体の合成と構造活性相関		2015年11月	第33回メディシナルケミストリーシンポジウム
神経膠芽腫におけるTDO発現制御シグナルの解析		2015年10月	第74回日本癌学会学術総会
KSP阻害作用を有する新規シス테인誘導体の抗がん活性		2015年10月	第74回日本癌学会学術総会
HIF-1阻害作用を有する新規プリン誘導体の構造活性相関		2015年10月	第74回日本癌学会学術総会
染色体からの微小管形成におけるM期キネシンEg5の役割		2015年6月	日本ケミカルバイオロジー学会 第10回年会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～平成28年3月	静岡県環境衛生科学研究所客員研究員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学薬	講座名	衛生分子毒性学
職名	講師	氏名	佐々木崇光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年10月 ～平成28年2月	衛生薬学Ⅱを担当。授業開始時にSB0を学生に伝えることで授業内容を明確にし、授業終了時に小テストを行うことで理解度を高める指導を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Simultaneous evaluation of human CYP3A4 and ABCB1 induction by reporter assay in LS174T cells, stably expressing their reporter genes.	共著	2015年1月	<i>Biopharmaceutics and Drug Disposition</i> vol. 36 No. 3
(論文) 調剤薬局来局者を対象とした健康食品の使用	共著	2014年9月	医療薬学 vol. 40 No. 9
(論文) Hepatocyte nuclear factor 6 activates the transcription of CYP3A4 in hepatocyte-like cells differentiated from human induced pluripotent stem cells.	共著	2013年1月	<i>Drug Metabolism and Pharmacokinetics</i> vol. 28 No. 3
(著書) 創薬研究のストラテジー上	共著	2011年3月	金芳堂
(論文) Functional characterization of 26 CYP2B6 allelic variants (CYP2B6.2-CYP2B6.28 expect CYP2B6.22).	共著	2010年10月	<i>Pharmacogenetics and Genomics</i> vol. 20 No. 7
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Development of a highly reproducible system to evaluate inhibition of cytochrome P450 3A4 activity by natural medicines.		2015年11月	日本薬物動態学会第30回年会
(演題名) Profiles of immune cells and reproduction of immune-mediated drug-induced injury.		2015年10月	American College of Gastroenterology 2015 annual scientific meeting
(演題名) レポーター遺伝子導入細胞株を用いた健康食品によるCYP1A1/1A2誘導の網羅的評価発現に及ぼす影響の解析		2015年9月	フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー
(演題名) サイクリン依存性キナーゼ1(Cdk1)がCYP2D6及びCYP3A4遺伝子発現に及ぼす影響の解析		2015年7月	平成27年度内外環境応答・代謝酵素研究会
(演題名) 薬物代謝酵素発現細胞及び誘導評価細胞を用いた薬物性肝障害研究について		2015年6月	第42回日本毒性学会学術年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬生命化学教室
職名	講師	氏名	清水広介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年4月～7月	学生にとって分かりづらそうな点に関しては、独自のテキストやパワーポイントのアニメーションなどを使って独自にアレンジし、学生が理解しやすいよう工夫した。また講義終了時には質問時間を設けた。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成27年5月～7月	コアカリに沿った授業を展開していくために、パワーポイントおよび配付資料を新たに作成した。また専門実習については独自の実習テキストを作成し、効率良く講義・実習を展開した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Bauhinia purpurea agglutinin-modified liposomes for human prostate cancer treatment	共著	平成28年1月	Cancer Sci, 107, 53-59
(論文) Upregulatory Effects of Nobiletin, a Citrus Flavonoid with Anti-dementia Activity, on the Gene Expression of mAChR, ChAT, and CBP	共著	平成27年1月	Planta Med Lett, 2, e12-e14
(論文) Use of positron emission tomography for real-time imaging of biodistribution of green tea catechin	共著	平成26年2月	PLoS One, 9, e85520
(論文) Biomembrane damage caused by exposure to multi-walled carbon nanotubes.	共著	平成25年2月	J. Toxicol. Sci., 38, 7-12
(論文) Suppression of immune response by antigen-modified liposomes encapsulating model agents: A novel strategy for the treatment of allergy	共著	平成25年5月	J. Control. Release, 167, 284-289
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
リポソームのがんへのデリバリーに 関与するリンパ管構築		平成27年7月	第31回日本DDS学会学術集会
がんマルチターゲティングDDSを目指した抗TF抗体修飾リポソームの開発		平成27年5月	日本薬剤学会第30年会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年9月～平成23年8月	日本生化学会中部支部 幹事		
平成20年1月～現在	静岡DDS研究会 事務局		
平成22年1月～現在	POGRESS IN DRUG DELIVERY SYSTEM 編集幹事		
平成26年7月～現在	第32回日本DDS学会学術集会 実行委員・事務局		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	分子病態学分野
職名	講師	氏名	刀坂 泰史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		担当科目：疾患学I, II, III、医療系薬学実習、科学演習II、総合薬学演習、事前実務実習、しずおかの防災と医療、健康長寿に関わる人々、静岡救命連携演習 疾患学では学生からの授業評価をもとに講義内容や資料作成について改善している。
2	作成した教科書、教材、参考書		教材作成：疾患学I, II, III、医療系薬学実習、科学演習II、総合薬学演習、事前実務実習、静岡救命連携演習
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		日本薬学会第136年会
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		文部科学省に採択されたCOC事業の一環として地域科目である「しずおか学」3科目を新たに立ち上げ、実践している。学生からも好評であり、本学の全学共通科目の中で最も多くの学生が選択している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) アンチエイジング医学の基礎と臨床	共著	平成27年8月	メジカルビュー社
(論文) Secreted Frizzled-related Protein 5 Diminishes Cardiac Inflammation and Protects the Heart from Ischemia/Reperfusion Injury.	共著	平成28年2月	<i>J Biol Chem.</i> 2016;291(6):2566-75.
(論文) An antiangiogenic isoform of VEGF-A contributes to impaired vascularization in peripheral artery disease.	共著	平成26年12月	<i>Nat Med.</i> 2014;20(12):1464-71.
(論文) Synergistic anti-tumor effects of a novel phosphatidylinositol-3 kinase/mammalian target of rapamycin dual inhibitor BGT226 and gefitinib in non-small cell lung cancer cell lines	共著	平成26年6月	<i>Cancer Lett.</i> 2014;347(2):196-203
(論文) Cancer antineovascular therapy with liposome drug delivery systems targeted to BiP/GRP78.	共著	平成22年12月	<i>Int J Cancer.</i> 2010;127(11):2685-98.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) PRMT5/MEP50メチル化複合体による心筋細胞肥大制御機構の解析		平成27年7月	日本薬学会東海支部総会
(演題名) 香煎茶によるメタボリックシンドロームの改善		平成27年6月	日本心血管薬物療法学会
(演題名) 心臓老化に伴う核内転写機構の解明		平成27年5月	日本抗加齢医学会学術集会
(演題名) 心筋細胞肥大におけるTBL1/HDAC3複合体の機能解析		平成27年5月	日本抗加齢医学会学術集会
(演題名) ROSLIN-CHA, a functional green tea, reduces body weight in obese subjects with metabolic syndrome - A pilot study		平成27年4月	日本循環器学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年7月～	日本循環器学会BLSヘルスケアプロバイダーインストラクター		
平成22年4月～	高大連携事業		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	科学英語講座
職名	講師	氏名	ホーク フィリップ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 薬食生命科学総合学府「科学英語プログラム」の授業 オーラル・コミュニケーション アカデミック・ライティング アカデミック・プレゼンテーション 学生主導型ディスカッション インディペンデント・リスニング スモール・グループ・ディスカッション 科学論文エディティング 学部の授業 薬学英语 科学演習1		2007年10月～ 2007年10月～ 2008年4月～ 2009年4月～ 2009年4月～ 2014年10月～ 2014年10月～ 2009年4月～ 2013年10月～	薬食生命科学総合学府大学院生に対して科学分野での英語コミュニケーション能力の向上を支援するために、「科学英語プログラム」を2007年に開始した。学部5、6年生の出席も認めている。薬学部専任教員と相談しながら、カリキュラムの作成と教材の開発を行っている。学術論文を分析し、国際学会で実際に行われたプレゼンテーションを記録して、語彙・表現データベースを作成した。本プログラムの授業は、2015年の授業評価アンケートにおいて「この授業は受講する価値がありましたか」という問いに対し、93%の受講生から「とても価値があった」との評価を得た。 学部の授業資料も、薬学部専任教員と相談しながら開発している。薬学英语では、専任教員と一緒に教材を作成し、チームティーチングの形で講義している。本授業は、2015年の授業評価アンケートにおいて「この授業の総合評価をしてください」という問いに対し、82%の受講生から「非常に良い」との評価を得た。
2 作成した教科書、教材、参考書 アカデミック・プレゼンテーションの授業の教材は、教科書「日本人研究者のための絶対できる英語プレゼンテーション」(羊土社)として発行され		2011年11月	市場に適切な教科書がないため、全ての授業の教材を作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 インディペンデント・リスニングの授業の開発に関する論文「Using internet-sourced podcasts in independent listening courses: Legal and pedagogical implications」を発表した。 科学英語プログラムの開発に関する論文「Improving English education for pharmaceutical science in Japan: The case of the Scientific English Program at the University of Shizuoka」を発表した。		2010年12月 2015年11月	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 教員英語ランチ会(週3回) 大学院生英語ランチ会(週1回)		2009年4月～ 2009年10月～	リラックスした環境で教員や学生が英語を上達できるように、週4回、英語ランチ会を行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)日本人研究者のための絶対できる英語プレゼンテーション	共著	2011年11月	羊土社
(論文)Using internet-sourced podcasts in independent listening courses: Legal and pedagogical implications	単著	2010年12月	JALT CALL Journal Vol.6 No.3
(論文)Improving English education for pharmaceutical science in Japan: The case of the Scientific English Program at the University of	単著	2015年11月	薬剤学 Vol.75 No.3
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Pull the audience into your presentation: Attract their interest and help them understand		2015年10月	東京大学医科学研究所 IMSUT Young Scientists English Meeting 2015
III 学会および社会における主な活動			
2013年2月～現在	科学技術振興機構 スーパーサイエンスハイスクール 協力者(静岡県内)		
2013年10月～現在	静岡県立総合病院 医学英語研修プログラム 講師		
2014年7月～現在	徳島大学 薬学英语研修プログラム 協力者		
2014年11月～現在	京都薬科大学 大学院英語研修プログラム 協力者		

-
- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	免疫微生物学
職名	講師	氏名	三宅正紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		学部2年生「微生物学」を担当。教科書以外に講義毎に独自に作成したスライド及びそのハンドアウトを用いて授業を行っている。授業評価も概して高い評価を得ている。
2	作成した教科書、教材、参考書	1. 平成23年2月20日	1. 微生物学：病原微生物学の基礎 改訂第6版 (南江堂) 図Ⅱ-2 細菌の超薄切片像 2. 細菌学-ようこそ不思議な細菌世界 (「菌」をこころで捉えよう) (日本細菌学会)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成16年8月22日	「第11回全国薬学教育者ワークショップ東海」に参加。全過程を修了。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	著者・共著の別	発行または発表の年日(西暦で可)	発行所、発表雑誌(巻、号、頁)
(論文) Intracellular survival and replication of	単著	平成20年12月	Takujyaku Zasshi, 126巻, 12頁
(論文) Proteomic analysis of growth phase-	共著	平成22年7月	PLoS One, 22:5(7):e11718
(論文) Ciliates expel environmental Legionella-	共著	平成24年8月	Appl Environ Microbiol, 70巻, 45頁
(論文) Shiga toxin-induced apoptosis is more	共著	平成26年11月	Virulence, 5巻8号
(論文) A platelet-activating factor (PAF) receptor	共著	平成27年2月	Biochem. Pharmacol, 93巻, 4頁
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) マクロファージ内増殖性を欠いたレジオネラ強細胞毒性株のマウス感染系を利用した病原性評価		2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) マクロファージ内増殖性を欠いたレジオネラ強細胞毒性株のマウス感染系を利用した病原性評価		2015年9月	USフォーラム2015
(演題名) A study on intracellular survival of Helicobacter cinaedi in		2015年10月	第20回静岡健康・長寿子嗣フォーラム(主催者: 日本薬学会)
(演題名) マクロファージ内増殖性を欠いたレジオネラ強細胞毒性株のマウス感染系を利用した病原性評価		2015年11月	中部乳酸菌研究会
III 学会および社会における主な活動			
平成10年4月～(現在)	静岡市立清水看護専門学校非常勤講師		
平成13年11月～平成19年12月	組合立静岡県中部看護専門学校非常勤講師		
平成23年3月～(現在)	薬学微生物学教科担当教員会議 (担当委員)		
平成23年5月～平成25年3月	独立行政法人科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム専門委員		
平成23年8月	静岡県立大学 夏休みファーマカレッジ2015 体験してひまわり「病気を調べる」を創る」担当		
平成25年5月～平成27年3月	独立行政法人科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム専門委員		
平成25年9月	第20回薬工物産フォーラム「モノの健康と薬工物産」(日本薬学会薬工物産部主催) 事務局長		
平成27年5月～平成29年3月	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム専門委員		
平成27年5月～平成29年3月	国立研究開発法人科学技術振興機構 マッチングプランナープログラム専門委員		
平成27年4月～(現在)	静岡県災害薬事コーディネーター		
平成27年8月	静岡県立大学 夏休みファーマカレッジ2015「薬を創る科学の力」担当		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生体情報科学部 薬学公研
職名	講師	氏名	山崎 泰広
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		～ 現在	講義では、プロジェクターを用いてわかり易く説明した。また授業に使用したスライドから重要なものを抜き出し、プリントにして学生に配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書		～ 現在	講義用スライドから重要語句を穴埋めにした資料を作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・夏休みファーマカレッジ		平成24年8月、 平成26年8月	高校生の体験入学。大学で実際に行っている実験を2日間かけて高校生に体験してもらい、2日目にその成果発表を行う。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
（論文）Involvement of a cAMP-dependent signal in the diet-induced canalicular trafficking of ATP-binding cassette transporter g5/g8.		共著	平成27年10月
（論文）A Penicillium sp. F33 metabolite and its synthetic derivatives inhibit acetyl-CoA:1-O-alkyl-sn-glycero-3-phosphocholine acetyltransferase (a key enzyme in PAF biosynthesis) and carrageenan-induced paw edema in mice.		共著	平成25年6月
（論文）Diet-induced lipid accumulation in liver enhances ATP-binding cassette transporter g5/g8 expression at bile canaliculi.		共著	平成23年6月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）コレステロールトランスポーターAbcg5/Abcg8の肝毛細胆管膜局在化機構の解析		平成27年3月	第135年会 日本薬学会
（演題名）高脂肪食負荷により誘導されるAbcg5/Abcg8の毛細胆管膜移行促進機構の解析		平成27年12月	BMB2015
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生命物理化学
職名	講師	氏名	横山英志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年10月～ 12月	1年生後期の物理化学IIの講義では、講義途中で演習問題を配付して解答、提出してもらい、次の講義時に採点して返却し、間違えの多い箇所を解説することで、フィードバックを行う
2	作成した教科書、教材、参考書	2015年5月～7 月	物理系薬学実習では、実習テキスト以外に補足のプリントを作成し、実習内容をより深く理解してもらうように努めた。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特記事項なし。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Structural basis of new allosteric inhibition in kinesin spindle protein Eg5.	共著 (Yokoyama, H. 他8名)	2015年4月	ACS Chem. Biol. 10, 1128-1136
(論文) Crystal structure of the stomatin operon partner protein from Pyrococcus horikoshii indicates the formation of a multimeric assembly.	共著 (Yokoyama, H. 他1名)	2014年9月	FEBS Open Bio 4, 804-812
(論文) Structural and biochemical analysis of a thermostable membrane-bound stomatin-specific protease.	共著 (Yokoyama, H. 他4名)	2013年11月	J. Synchrotron Rad. 20, 933-937
(論文) Clustering of OB-fold domains of the partner protease complexed with trimeric stomatin from Thermococcales.	共著 (Yokoyama, H. 他4名)	2013年7月	Biochimie 95, 1494-1501
(論文) Structure of a double-stranded DNA (6-4) photoproduct in complex with the 64M-5 antibody Fab.	共著 (Yokoyama, H. 他2名)	2013年4月	Acta Crystallog. D69, 504-512
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ストマチンパートナータンパク質の結晶構造と多量体形成		2015年9月	日本生物物理学会第53回年会(金沢)
(演題名) 多量体形成脂質ラフトタンパク質ストマチンの結晶学的研究		2015年9月	静岡県立大学 2015 USフォーラム(静岡)
III 学会および社会における主な活動			
平成9年～	日本生化学会 会員		
平成10年～	日本薬学会 会員		
平成10年～	日本結晶学会 会員		
平成25年～	日本生物物理学会 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品製造化学
職名	助教	氏名	浅川倫宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		全学共通科目授業化学入門を担当した。学部学生2年次における基礎化学実習、化学系薬学実習を担当した。また、創薬人育成セミナー（日本薬学会東海支部主催）の開催を毎年行い、企業の最先端研究者を招聘し講演を設け、創薬教育を充実させた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		「カテキンプロローブ合成と分子イメージング-緑茶有効成分カテキンを光らせる- Visualizing Catechin: Efficient Synthesis of Probe and its Molecular Imaging」月刊化学 「スギヒラタケ急性脳症事件の化学的解明の試み」化学と生物 「天然物の全合成で活躍した反応 実験のコツとポイント」有機合成化学教育	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		オープンキャンパスや大学一般公開などにおいて、科学啓発のために簡易な実験を行った。光る人工いくら作成など	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) PET Imaging Investigation of Nobiletin Based on a Practical Total Synthesis	共著	平成23年1月	RSC, Chem. Commun., 47, 2868
(論文) Proof of the existence of an unstable amino acid, pleurocybellaziridine, in Pleurocybella porrigens (angel's wing mushroom)	共著	平成23年12月	Elsevier, Angew. Chem. Int. Ed., 50, 1168
(著書) The Source of "Fairy Rings": 2-Azahypoxanthine and its Metabolite Found in a Novel Purine Metabolic Pathway in Plants	共著	平成26年1月	Elsevier, Angew. Chem. Int. Ed., 53, 1552
(論文) Enantioselective Synthesis of SB-203207	共著	平成26年3月	ACS, Org. Lett. 16, 1946
(論文) Synthesis of chemical-biology tools enabling in vivo imaging and analysis of epigallocatechin gallate.	共著	平成27年6月	日本化学会, Heterocycles, (2015) in press
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
「スギヒラタケ毒成分の合成と構造決定」		平成22年5月	第8回 次世代を担う有機化学シンポジウム
「EGCg の効率的合成法の開発, プロローブ化, 機能と動態の解明」		平成22年10月	第29回 メディシナルケミストリーシンポジウム
「Total Synthesis of SB-203207」		平成22年12月	2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies
「潜在的対称性に注目した生理活性天然物の全合成」		平成26年12月	平成26年度日本化学会東海支部地区講演会
「食品中有効成分の機能解明を目的とした合成化学的研究」		平成27年7月	平成27年度日本薬学会東海支部学術奨励賞受賞講演
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～23年3月	第131回 日本薬学会年会 プログラム編成委員		
平成22年4月～10月	第52回 天然有機化合物討論会 実行委員		
平成24年4月～10月	第29回 有機合成セミナー 実行委員		
平成25年4月～26年9月	The XXVIIth International Conference on Polyphenols & The 8th Tannin Conference ホームページ制作委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品製造化学	職名 助教	氏名 稲井誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 1) 赤外分光法 講義 2) 核磁気共鳴分光法 講義	2015年6月4日 2015年6月8日	教科書をまとめたパワーポイントを用いた講義を講義を行った後、薬剤師国家試験レベルの正誤問題を作成し理解度を確認し、解説した。また、講義終了前に、小テストも行い、到達度を確認した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)有機合成法ハンドブック	共著	2015年11月	丸善
(論文) Ecteinascidins. A Review of the Chemistry, Biology and Clinical Utility of Potent Tetrahydroisoquinoline Antitumor Antibiotics	共著	2015年2月	Nat.Prod.Rep. vol.32, p328
(論文) Total Syntheses of (+)-Sesamin and (+)-Sesaminol	共著	2014年7月	Chem.Lett. vol.43, p1572
(論文) Practical Total Syntheses of Acromelic Acids A and B	共著	2014年3月	Org.Lett. Vol.16, p1980
(論文) Stereocontrolled Total Synthesis of Hedyotol A	共著	2014年3月	Org.Lett. Vol.16, p1976
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) テアデノール A 及び B の全合成		2015年10月	反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) 顕著な生物活性を有する天然物の全合成		2015年7月	若手研究者のためのセミナー
(演題名) テアデノール A 及び B の全合成		2015年6月	有機合成シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2015年4月～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
静岡県立大学 薬学部	講座名 医薬品創製化学	助教	氏名 江上 寛通
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		該当なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Asymmetric Fluorolactonization with a Bifunctional Hydroxyl Carboxylate Catalyst	共著	平成27年8月	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , vol. 137
Aminotrifluoromethylation via Cyclic Amine Formation of Olefins: Mechanistic Study and Application to Synthesis of Trifluoromethylated Pyrrolidines	共著	平成27年3月	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , vol. 137
Trifluoromethylation of Alkenes with Concomitant Introduction of Additional Functional Groups	共著	平成26年6月	<i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , vol. 53
Trifluoromethylation Reactions for the Synthesis of β -Trifluoromethylamines	共著	平成25年6月	<i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , vol. 52
Alkene Trifluoromethylation Coupled with C-C Bond Formation: Construction of Trifluoromethylated Carbocycles and Heterocycles	共著	平成25年2月	<i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , vol. 52
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Asymmetric fluorolactonization catalyzed by a chiral hydroxyl carboxylate under phase-transfer conditions		平成27年7月	39th Naito Conference
超原子価ヨウ素を活用するトリフルオロメチル化反応の開発		平成27年6月	第12回フッ素化学セミナー
III 学会および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬理学	職名 助教	氏名 金子雪子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成19年～	科学演習において、スモールディスカッション形式を取り入れ、学生同士が互いに話しながら、課題のテーマに取り組んでいく方式により、授業に対する理解度や興味を高めるように工夫した。また、聴衆側の学生も含めて興味をもてるテーマ設定に努めた。	
科学演習 I	平成19年～	動物の命を扱う実習において、倫理的な面に配慮し、動物に対し真摯な姿勢で実習に臨むよう、学生に働きかけた。	
生物系薬学実習 (薬理学実習)	平成19年～	大学院講義において、糖尿病と治療薬の歴史から現在の問題点までを幅広く取り上げた。	
薬理学特論	平成19年～	実務事前実習において、医療面接の患者役として、OSCEや臨床において必要な対応スキルについて、各学生に個々にアドバイスを行った。	
実務事前実習	平成21年～	2 作成した教科書、教材、参考書	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成19年	・科学演習においてディスカッションの内容を理解しやすくするために、学生が作成したスライドを印刷し、配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成19年～	アドバイザー (薬理学)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)Obligatory role of early Ca ²⁺ responses in H ₂ O ₂ -induced β -cell apoptosis.	共著	2015年10月	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> 38(10)
(論文)Diacylglycerol signaling pathway in pancreatic β -cells: the essential role of diacylglycerol kinase in the regulation of insulin secretion.	共著	2015年5月	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> 38(5),
(論文)Structure-dependent inhibitory effects of green tea catechins on insulin secretion from pancreatic β -cells.	共著	2015年3月	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> 38(3)
(論文) Dual role of nitric oxide in pancreatic β -cells.	共著	2013年4月	<i>J Pharmacol Sci.</i> , 123(4),
(論文) Depression of type I diacylglycerol kinases in pancreatic β -cells from male mice results in impaired insulin secretion.	共著	2013年11月	<i>Endocrinology.</i> 154(11),
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
DGシグナリングと糖尿病関連疾患 Functional role of diacylglycerol kinase δ in pancreatic β -cells.		2015年12月	BMB 2015第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会 合同大会 (神戸)
膵 β 細胞におけるジアシルグリセロールキナーゼ δ の役割の解明		2015年10月	第133回 日本薬理学会関東支部会 (千葉)
膵 β 細胞におけるジアシルグリセロールキナーゼ δ の発現・機能解析		2015年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2015 (東京)
薬学会東海支部学術奨励賞受賞講演: 2型糖尿病による膵 β 細胞機能障害からの回復を目指した新規糖尿病治療標的の探索と機能解析		2015年7月	第61回日本薬学会東海支部大会 (名古屋)
膵 β 細胞におけるADMAを介したNO産生調節機構と糖尿病病態への関与		2015年7月	第61回日本薬学会東海支部大会 (名古屋)

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成26年10月	静岡実験動物研究会平成26年度大会 大会幹事
平成26年4月～	静岡実験動物研究会 幹事
平成25年4月～	日本薬学会薬理系部会 若手世話人

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品創製化学
職名	助教	氏名	川戸 勇士
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			該当無し
2 作成した教科書、教材、参考書			該当無し
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当無し
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Highly Enantioselective Bromocyclization of Allylic Amides with a P/P=O Double-site Lewis Base Catalyst	共著	平成28年1月	Chem. Eur. J. vol.22
Enantioselective Bromocyclization of Allylic Amides Catalyzed by BINAP Derivatives	共著	平成27年2月	Org. Lett. vol.17
Catalytic Asymmetric Mannich-type Reaction of N-Alkylidene- α -aminoacetonitrile with Ketimines	共著	平成27年2月	Angew.Chem.Int.Ed. vol.54
Direct Catalytic Asymmetric Addition of Acetonitrile to N-Thiophosphinoylimines	共著	平成25年10月	Chem.Commun. vol.13
Streamlined Catalytic Asymmetric Synthesis of Atorvastatin	共著	平成25年2月	Chem. Eur. J. vol.19
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
BINAP モノオキシド触媒によるアリルアミドの不斉プロモ環化反応		平成27年11月	第45回複素環化学討論会
Phosphorus Lewis Base-catalyzed Enantioselective Bromocyclization of Allylic Amides		平成26年11月	第7回有機触媒シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
該当無し			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬生命化学講座
職名	助教	氏名	小出裕之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年5、6月、2015年5、6月	実習ごとで、個人個人の理解を深めるために、スモールグループでディスカッションを行った。学生と頻りに会話し、質問を積極的にした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月、2015年4月	基礎生物学実習教科書(放射)、医用工学実習教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
One-step encapsulation of siRNA between lipid-layers of multi-layer polycation liposomes by lipoplex freeze-thawing.	共著	2016年1月	Journal of Controlled Release, vol 228, 1-8
Preparation of abiotic polymer nanoparticles for sequestration and neutralization of a target peptide toxin.	共著	2015年4月	Nature Protocols, vol 4, 595-604
VEGF結合能をもつナノ粒子の開発と抗腫瘍新生血管療法への応用	共著	2015年	月刊ファインケミカル, vol 44, 22-28
抗腫瘍新生血管療法に向けたVEGF吸着ナノ粒子の開発	共著	2015年	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス vol 46, 589-595
Susceptibility of PTEN-positive metastatic tumors to small interfering RNA targeting the mammalian target of rapamycin.	共著	2015年3月	Nanomedicine, vol 1, 185-94
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
A synthetic polymer nanoparticle with engineered affinity for a vascular endothelial growth factor (VEGF)		2015年12月	US-Japan Symposium on Drug Delivery Systems (DDS) Conference
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～2015年3月	〇〇学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬学部	職名 助教	氏名 小西英之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年～27年 毎年4月～6月	講義に独自の穴埋め形式プリントを用い、教科書に記載はないが重要と思われる項目を含め講義を行った。学生からの質問を毎回受け付け、次回講義の冒頭に全て回答してフィードバックした。	
2 作成した教科書、教材、参考書		市販の有機化学に関する教科書を元に講義用スライドを作成後、虫食い箇所を作って学生に配布し、これを教材として使用した。欠席者用に教材をpdf化し研究室ホームページに置いた。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		研究室配属初年度の学生および学習意欲のある3年生に対し、毎週土曜午前に有機化学の基礎となる反応機構演習を自主的に行った。この勉強会は今年度で6年目となる。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Palladium-Catalyzed Carbonylation of Aryl, Alkenyl, and Allyl Halides with Phenyl Formate	共著	平成24年5月	Org. Lett. 2012, 14, 3100
Palladium-Catalyzed Reductive Carbonylation of Aryl Halides with N-Formylsaccharin as a CO Source	共著	平成25年7月	Angew. Chem. Int. Ed. 2013, 52, 8611
Pd-Catalyzed External-CO-Free Carbonylation: Preparation of 2,4,6-Trichlorophenyl 3,4-Dihydronaphthalene-2-Carboxylate	共著	平成25年10月	Org. Synth. 2014, 91, 39
Formic Acid Derivatives as Practical Carbon Monoxide Surrogates for Metal-Catalyzed Carbonylation Reactions	共著	平成26年4月	Synlett, 2014, 25, 1971
Imidazole Derivatives as Accelerators for Ruthenium-Catalyzed Hydroesterification and Hydrocarbamoylation of Alkenes: Extensive Ligand Screening and Mechanistic Study	共著	平成27年1月	ChemCatChem, 2015, 7, 836
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ギ酸フェニルを一酸化炭素源として用いる環状カルボニル化合物の新規合成法の開発		平成27年5月	第13回次世代を担う有機化学シンポジウム
Pd触媒を用いる環状スルホンアミドおよびスルフィンアミド類の一段階合成法の開発		平成27年7月	第61回日本薬学会東海支部総会・大会
二酸化硫黄等価体を用いる環状スルホンアミドおよびスルフィンアミド類選択的合成法の開発		平成27年10月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム
ギ酸フェニルをCO源として用いる温和な条件下での触媒的カルボニル化反応の開発		平成27年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2015
Mechanistic Study on the Generation of Carbon Monoxide from Phenyl Formate and Its Application to the Development of Pd-Catalyzed Carbonylation at Room Temperature		平成27年12月	The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies
III 学会および社会における主な活動			
平成23年12月	有機合成化学総合講演会 実行委員		
平成24年9月	第29回有機合成化学セミナー 実行委員		
平成27年5月～	次世代を担う有機化学シンポジウム 世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名: 静岡県立大学	講座名 薬物動態学	職名: 助教	氏名: 佐藤 秀行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Absorption improvement of tranilast by forming highly soluble nano-size composite structures associated with α -glucosyl rutin via spray drying	共著	2015	European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics, 92
Physicochemical stability study on cyclosporine A loaded dry-emulsion formulation with enhanced solubility	共著	2015	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, 63
Enhanced solubility of quercetin by forming composite particles with transglycosylated materials.	共著	2015	Journal of Food Engineering, 149
Self-micellizing solid dispersion of cyclosporine A with improved dissolution and oral bioavailability.	共著	2014	European Journal of Pharmaceutical Sciences, 62
Development of cyclosporine A-loaded dry-emulsion formulation using highly purified glycerol monooleate for safe inhalation therapy.	共著	2013	International Journal of Pharmaceutics, 426
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Development of self-micellizing solid dispersion system employing amphipathic copolymer for the improvement of dissolution and oral bioavailability of cyclosporine A		2015・3	Asian Federation for Pharmaceutical Sciences 2015
製剤技術による疼痛時の薬物吸収遅延回避		2015・12	第6回経口吸入FG合宿討論会
Flash nano-precipitation法を用いた Cyclosporine A 粉末吸入製剤化による薬物動態制御		2015・12	第4回創剤カンファレンス
Strategic application of self-micellizing solid dispersion system to pharmacokinetic control of cyclosporine A		2016・2	APSTJ Global Education Seminar 2015-3rd
Self-micellizing solid dispersion system による cyclosporine A の薬物動態制御		2016・3	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
2015・9~	International Journal of Pharmaceutical Sciences Research 誌(Graphy Publications)の編集委員		
2015・12	第4回創剤カンファレンスの主催		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 統合生理学	職名 助教	氏名 鈴木美希
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年 2015年	科学演習Ⅱ、生物系薬学実習、基礎・医用工学実習 科学演習Ⅱ、生物系薬学実習、基礎・医用工学実習	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Excess influx of Zn ²⁺ into dentate granule cells affects object recognition memory via attenuated LTP.	共著	平成27年8月	<i>Neurochemistry International</i> vol. 87 60-65
Influx of extracellular Zn ²⁺ into the hippocampal CA1 neurons is required for cognitive performance via long-term potentiation.	共著	同 年9月	<i>Neuroscience</i> vol. 304 209-216
Advantageous effect of theanine intake on cognition.	共著	平成26年11月	<i>Nutritional neuroscience</i> vol.17 209-216
Preventive effect of theanine intake on stress-induced impairments of hippocampal long-term potentiation and recognition memory.	共著	平成25年3月	<i>Brain research bulletin</i> vol. 95 1-6
Involvement of glucocorticoid-mediated Zn ²⁺ signaling in attenuation of hippocampal CA1 LTP by acute stress.	共著	平成24年3月	<i>Neurochemistry International</i> vol. 60 394-399
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Glucocorticoid-mediated Zn ²⁺ signalling affects in vivo hippocampal CA1 LTP induction.		平成27年10月	国際微量元素学会
In vivo crosstalk between glucocorticoid and Zn ²⁺ signaling in the hippocampal CA1 LTP induction.		平成27年7月	日本神経科学学会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 分子病態学	職名 助教	氏名 砂川 陽一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年11月	医療系薬学実習(分子病態学)にて、座学と実技を組み合わせた心電図や血圧測定の実習内容を行った。レポートでは実技で生じる値の変化が実生活にどのように影響を与えるのかを調べさせ、心電図や血圧測定の重要性、理解度の向上を図った。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等多職種連携と地域包括ケアの基盤確立を目指した教育展開	平成27年3月	地域の保健医療福祉専門職教育拠点として、地域の実務者が地域における包括的なケアの課題の解決に向けて多職種協働で取り組む活動準備を学生と教職員向けに行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	平成27年12月	県民向けの健康イベントを開催した。学生主体で健康度の測定や聞き取り調査・健康相談を実施することは薬学部学生にとっても非常に貴重な体験であり、将来薬剤師として質的向上に貢献することが出	
しずおか・からだ・健康フェアの開催	平成28年3月	ロコセアインフォर्मの測定会を開催し、学生主体で聞き取り調査・運動指導を実施した。薬学部学生にとって直に県民と接する貴重な体験であり、将来薬剤師として質的向上に貢献することが出来る	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
機能性食品による心臓のアナエロブの可能性	共著	平成27年8月	メディカルビュー社
Colloidal submicron-particle curcumin exhibits high absorption efficiency-a double-blind, 3-way crossover study.	共著	平成27年5月	J Nutr Sci Vitaminol vol.61
Optimal dose-setting study of curcumin for improvement of left ventricular systolic function after myocardial infarction in rats.	共著	平成26年9月	J Pharmacol Sci vol.126
A novel drug delivery system of oral curcumin markedly improves efficacy of treatment for heart failure after myocardial infarction in rats.	共著	平成24年2月	Biol Pharm Bull vol.35
A natural p300-specific histone acetyltransferase inhibitor, curcumin, in addition to angiotensin-converting enzyme inhibitor, exerts beneficial effects on left ventricular systolic function after myocardial infarction in rats.	共著	平成23年7月	Circ J vol.75
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Novel Target Molecules of Nobiletin has a Therapeutic Potency against Pressure-overload induced Chronic Heart Failure		平成28年3月	第80回日本循環器学会学術集会 一般演題オーラル
Curcumin Prevents Hypertension-induced Cardiac Hypertrophy through the Inhibition of GATA4-acetylation in Dhal rats		平成28年3月	第80回日本循環器学会学術集会 一般演題ポスター
Translational Research of Highly Absorbable Curcumin for Heart Failure Therapy		平成28年3月	第89回日本薬理学会年会 シンポジウム
Analysis of Novel Target Molecules of Nobiletin, a Potent Therapeutic Agent Against Heart Failure		平成27年11月	AHA Scientific Sessions 2015 一般演題 ポスター
A Natural Polymethoxy Flavonoid, Nobiletin, Prevents Pressure-overload Induced Cardiac Hypertrophy in Mice		平成27年10月	第19回日本心不全学会学術集会 一般演題オーラル
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	薬物動態学分野
職名	助教	氏名	世戸 孝樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Phototoxic risk assessments on benzophenone derivatives: Photobiochemical assessments and dermal cassette-dosing pharmacokinetic study	共著	2015年8月	The Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics, 351(2)
(論文) Non-animal photosafety screening for complex cosmetic ingredients with photochemical and photobiochemical assessment tools	共著	2015年8月	Regulatory Toxicology and Pharmacology, 72(3)
(論文) New photosafety assessment strategy based on the photochemical and pharmacokinetic properties of both parent chemicals and metabolites	共著	2015年11月	Drug Metabolism and Disposition, 43(11)
(論文) Photochemical mechanism of riboflavin-induced degradation of famotidine and a suggested pharmaceutical strategy for improving photostability	共著	2016年1月	Journal of Pharmaceutical Sciences, 105(2)
(論文) Development of an improved inhalable powder formulation of pirfenidone by spray-drying: in vitro characterization and pharmacokinetic profiling	共著	2016年 (in press)	Pharmaceutical Research
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 光反応性および皮膚内動態に基づく経皮適用剤の戦略的光安全性評価		2015年7月	第1回 日本医薬品安全性学会学術大会
(演題名) 粉末吸入製剤技術による pirfenidone の副作用リスク低減		2015年8月	第18回 間質性肺炎細胞分子病態研究会
(演題名) Identification of the phototoxic metabolite of fenofibrate based on photobiochemical and pharmacokinetic data		2015年9月	EUROTOX 2015, 51st Congress of the European Society of Toxicology
(演題名) Pharmacokinetic and safety assessment on a respirable powder formulation of pirfenidone		2015年11月	30th JSSX Annual Meeting
(演題名) DNA-intercalating dyes を用いた新規 in vitro 光遺伝毒性リスク評価ツールの開発		2015年12月	日本動物実験代替法学会 第28回大会
III 学会および社会における主な活動			
2014年～	日本医薬品安全性学会 評議員		
2014年～	Journal of Pharmacology and Toxicology Research 誌 (ScienceSript LLC.) の編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生薬学分野	職名 助教	氏名 恒松 雄太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Elucidation of Pyranonigrin Biosynthetic Pathway Reveals a Mode of Tetramic Acid, Fused γ -Pyrone and exo-Methylene Formation.	共著	2015年	<i>Organic Letters</i> , 17, 4992
(論文) Minimum Information about a Biosynthetic Gene cluster.	共著	2015年	<i>Nature Chemical Biology</i> , 11, 625
(論文) Isolation, structure elucidation, and total synthesis of tryptopeptins A and B, new TGF- β signaling modulators from <i>Streptomyces</i> sp.	共著	2015年	<i>Organic Letters</i> , 17, 258
(論文) Elucidation of pseurotin biosynthetic pathway points to trans-acting C-methyltransferase: generation of chemical diversity.	共著	2014年	<i>Angewandte Chemie International Edition</i> , 53, 8475.
(論文) Complexity generation in fungal terpene biosynthesis: discovery of a multifunctional cytochrome P450 in the fumagillin pathway.	共著	2014年	<i>Journal of American Chemical Society</i> , 136, 4226
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Harnessing the biosynthetic pathway in mammalian fungus		2016年3月	Biosystems Design 2.0
(演題名) Pseurotin類生合成におけるスピロ環形成機構の解明		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	実践薬学分野
職名	助教	氏名	田中 紫菜子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年7月から	主として薬学科4年生の臨床薬学演習、実務事前実習、医療とコミュニケーション学を担当し、薬剤師としての基礎的な知識・技能・態度を習得させることを教育目標とした。臨床薬学演習ではPBLチュートリアル方式を採用し学生が内容の濃いディスカッションを行うことができるよう工夫した。実務事前実習では臨床現場を踏まえつつ、臨場感のある実習を実現し、かつ全員を薬学共用試験に合格させた。次年度の臨床実習に学生全員が万全の態勢で臨めるよう、少人数グループ制を取り、教員が全員の手技や討議を指導及び観察できるようにし、状況に応じて個別指導や補講も実施した。各分野の実習終了毎に評価シートで授業評価を行い(学生1名当たり事前実習約15枚、臨床薬学演習約10枚)、学生の意見や授業の改善点を解析し、次年度の授業に反映している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2010年7月から	実務事前実習では調剤や医療コミュニケーションに加え、フィジカルアセスメントや点滴ライン、抗がん剤調剤などアドバンス教育を取り入れた。全ての実習において、臨床現場の調剤や症例を基に模擬処方箋、ロールプレイ用シナリオを作成し、実際の臨床現場に近い形で実習を行えるようにした。また、毎年新薬の登場や治療ガイドラインの変化に合わせて資料を作成し直している。臨床薬学演習においても実症例を基に教育用症例を作成している。必要な知識やディスカッションができるように工夫するとともに、カルテやデータの評価、患者の訴えやコミュニケーションについても十分に検討することができるように複数の教員で協議し、作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		実務実習指導薬剤師に対する説明会で、本学の実務事前実習の説明を行った。さらに実際に学生を指導する薬剤師が対象の様々な講演会・研修会での講演に、本学の薬剤師教育について紹介・発表を行っている。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		フィジカルアセスメント研修、院内製剤作製指導など、薬剤師の卒後教育(リカレント教育)を行い、薬剤師の専門性をさらに高める活動に従事している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 1滴の血で薬物代謝酵素活性を評価	単著	2015年	ファルマシア, 51, pp.163
(論文) Simultaneous and comprehensive in vivo analysis of cytochrome P450 activity by using a cocktail approach in rats.	共著	2014年	<i>Biopharm. Drug Dispos.</i> , 35, 228-236
(論文) Simultaneous LC-MS/MS analysis of the plasma concentrations of a cocktail of 5 cytochrome P450 substrate drugs and their metabolites.	共著	2014年	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 37, 18-25
(論文) Comparison of inhibitory duration of grapefruit juice on organic anion-transporting polypeptide and CYP3A4.	共著	2013年	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 36, 1936-1941
(論文) Chronological effects of rifampicin discontinuation on cytochrome P450 activity in healthy Japanese volunteers, using the cocktail method.	共著	2013年	<i>Clin. Pharmacol. Ther.</i> , 94, 702-708

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）カルボシステインDS50%「トーワ」と飲食物との配合における服用感の検討	2015年3月	日本薬学会第135年会
（演題名）Combining powder formulations of drugs with food and beverages to improve palatability	2015年6月	ASHP 2015 Summer Meetings and Exhibition
（演題名）肺高血圧症治療薬の血漿中濃度測定の見直し	2015年10月	第4回日本肺循環学会・第3回日本肺高血圧学会 合同学術集会
（演題名）Citric Acid Suppresses the Bitter Taste of Olopatadine Hydrochloride Orally Disintegrating Tablets	2015年10月	2015 AAPS Annural Meeting and Exposition
（演題名）カクテル試験における基質薬物の血漿中濃度とAUCとの相関性	2015年12月	第36回日本臨床薬理学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成27年7月～	研修認定薬剤師	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	臨床薬効解析学
職名	助教	氏名	辻 大樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年～	実務実習テキストを作成し、作成したテキストを活用し、5年生を対象とした医療現場での実習を行っている。実習テキストは常に新しい情報を取り入れ毎年更新している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		・平成27年11月 ・平成28年3月	下記の内容について教育に関連する講演、発表を行った。 ・胃癌の臨床研究と標準治療 一新モデルコアカリキュラム (E3) に準拠した臨床医学論文からの考察 (第35回がん治療を考える薬剤師の会) ・地域のニーズにマッチした医療人育成システム の開発 (第126回日本薬学会年会)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Relationship between ABCB1 gene polymorphisms and severe neutropenia in patients with breast cancer treated with doxorubicin/cyclophosphamide chemotherapy.	共著	平成27年4月	<i>Drug Metab. Pharmacokinrt</i> , 30, 149–153 (2015)
4217C>A polymorphism in carbamoyl-phosphate synthase 1 gene may not associate with hyperammonemia development during valproic acid-based therapy.	共著	平成26年8月	<i>Epilepsy Res.</i> 108: 1046-1051. (2014)
Retrospective analysis of severe neutropenia in patients receiving concomitant administration of docetaxel and clarithromycin.	共著	平成25年7月	<i>Chemotherapy.</i> 59: 407-413. (2013)
Association of ABCB1 Polymorphisms with the Antiemetic Efficacy of Granisetron plus Dexamethasone in Breast Cancer Patients.	共著	平成24年6月	<i>Drug Metab Pharmacokin.</i> , 28, 299-304. (2013)
Comparative trial of two intravenous doses of granisetron (1 versus 3 mg) in the prevention of chemotherapy-induced acute emesis: a double-blind, randomized, non-inferiority trial.	共著	平成24年5月	<i>Support Care Cancer</i> , 20, 1057-1064. (2012)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Influence of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the antiemetic efficacy of triple antiemetic combination with aprepitant in cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy: TRIPLE Pharmacogenomics Study.		平成27年9月	European Cancer Congress 2015 (Vienna)
AC療法施行乳癌患者における化学療法誘発性悪心・嘔吐に対するリスク因子の探索		平成27年11月	第25回年日本医療薬学会年会 (横浜)
遠隔転移を有するゲムシタピン施行肺癌患者における化学療法誘発性好中球減少症と生存期間との関連の検討		平成27年11月	第25回年日本医療薬学会年会 (横浜)
遺伝子多型情報を活用した有害反応発現のリスク因子解析 - 薬剤部との連携による臨床研究の実践 - (シンポジウム【がん化学療法に伴う有害事象の発現メカニズムと対処法 ~薬剤師による臨床的・基礎薬学的な研究アプローチ~])		平成27年11月	第25回年日本医療薬学会年会 (横浜)
AC療法施行乳癌患者の重篤な好中球減少症の発現と遺伝子多型との関連性の検討		平成27年12月	第36回日本臨床薬理学会学術総会 (東京)
III 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～	静岡県病院薬剤師会	がん治療を考える薬剤師の会	幹事
平成24年4月～	静岡県病院薬剤師会	学術部	がん専門薬剤師部門特別委員
平成27年2月～平成28年3月	日本臨床腫瘍薬学会	学術大会2017	実行委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学	職名 助教	氏名 中西 勝宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年5月19日~6月12日	生物系薬学実習(微生物学)において、受講学生に対して個別に実演を交えて実験方法の指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成27年11月7日	OSCE直前評価者講習会において模擬学生役を担当し、OSCEの円滑な運営に貢献した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Shiga toxin-induced apoptosis is more efficiently inhibited by dimeric recombinant hybrid-IgG/IgA immunoglobulins than by the parental IgG monoclonal antibodies	共著	平成26年11月	Virulence Vol. 5, Issue 8
(総説) Plantibodyの臨床応用	共著	同 年8月	臨床免疫・アレルギー科 第62巻、第2号
(論文) Stable expression and characterization of monomeric and dimeric recombinant hybrid-IgG/IgA immunoglobulins specific for Shiga toxin	共著	同 年7月	Biological and Pharmaceutical Bulletin Vol. 37, No. 9
(論文) Production of Hybrid-IgG/IgA Plantibodies with Neutralizing Activity against Shiga Toxin 1	共著	平成25年11月	PLoS One Vol. 8, No. 11
(論文) Establishment of recombinant hybrid-IgG/IgA immunoglobulin specific for Shiga toxin	共著	平成23年12月	Scandinavian Journal of Immunology Vol. 7, Issue 6
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Hybrid IgA expressed in Arabidopsis is localized in the protein body-like structure in the leaves		平成27年9月	植物電子顕微鏡ワークショップ2015
Intrarectal administration of Shiga toxin 1 injures mouse colonic epithelial cells		平成27年11月	第44回日本免疫学会
ペロ毒素に対する分泌型ハイブリッドIgAの植物での産生と細胞内局在の解析		平成28年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
静岡県立大学	講座名 生命物理化学	助教	氏名 原 幸大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬品物理化学特論		2015年7月17日	大学院講義「薬品物理化学特論」において、X線結晶構造解析について、国内外の最新の研究成果を交えて講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 物理系薬学実習 第6版		2014年6-7月、 2015年6-7月	物理系薬学実習の新たな実習項目「タンパク質の結晶化」に関する実習書（教材）の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Structure of a Novel DNA-binding Domain of Helicase-like Transcription Factor (HLTF) and Its Functional Implication in DNA Damage Tolerance.	共著	2015年5月	<i>J. Biol. Chem.</i> vol.290 (21) pp.13215-13223
(論文) Structure of cohesin subcomplex pinpoints direct shugoshin-Wapl antagonism in centromeric cohesion.	共著	2014年10月	<i>Nature Struct. & Mol. Biol.</i> vol21 (10) pp.864-870
(論文) The transcription factor TFII-I promotes DNA translesion synthesis and genomic stability.	共著	同年6月	<i>PLoS Genet.</i> 10(6) e1004419
(論文) Structural basis of recruitment of DNA polymerase zeta by interaction between REV1 and REV7 proteins.	共著	2012 年9月	<i>J.Biol. Chem.</i> 287 (40) pp.33847-33852
(著書) 染色体の構造の形成にかかわるコヒーシンのサブコンプレックスの構造	単著	2014年9月	『ライフサイエンス新着論文レビュー』大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 ライフサイエンス
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) SA2-Scclコヒーシンサブコンプレックスの構造解析（口頭発表）		2016年1月	第33回 染色体ワークショップ・核ダイナミクス研究会
(演題名) Structure of cohesin subcomplex pinpoints direct shugoshin-Wapl antagonism in centromeric cohesion (oral presentation)		2015年12月	第38回 日本分子生物学会・第88回 日本生化学会合同大会
(演題名) ヘリカルリピートタンパク質の構造特性と細胞内機能（ワークショップ共同オーガナイザー）		2015年12月	第38回 日本分子生物学会・第88回 日本生化学会合同大会
(演題名) SA2-Scclコヒーシンサブコンプレックスの構造解析（口頭発表）		2015年10月	第23回 DNA複製・組換え・修復ワークショップ
(演題名) PCNAとAPIMを持つタンパク質との複合体構造解析（口頭発表）		2015年9月	USフォーラム2015
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～平成29年3月	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 機関誌（PF NEWS）編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生化学講座
職名	助教	氏名	疋田 智也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎週 毎週	問題解決能力の向上を目的に、研究報告会を開催した。 基礎知識力の向上を目的に、勉強会を開催した。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年 毎年	医用工学実習実習書 生物系薬学実習 I 実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015年10月6日 2015年10月6日 2015年8月10日 2015年6月30日	動物実験に関するFD講演会に参加した。 実験倫理に関するFD講演会に参加した。 授業改善に関するFD講演会に参加した。 情報セキュリティに関するFD講演会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Isolation and characterization of monoclonal antibodies specific for chondroitin sulfate E	共著	2015年 月	Glycobiology
Purvalanol A, a CDK inhibitor, effectively suppresses Src-mediated transformation by inhibiting both CDKs and c-Src	共著	2010年 10月	Genes to Cells
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
マイコプラズマ感染による卵巣がん悪性形質獲得機構の解析		2015年5月	第79回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム
希少シアル酸N-グリコリルノイラミン酸(Neu5Gc)ががん悪性形質へ与える影響の解析		2015年5月	第79回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム
脂質ラフト構成糖脂質スルファチドによるがん形質制御機構の解析		2015年5月	第79回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム
がん悪性化におけるスルファチドの役割		2015年3月	日本薬学会第135年会(神戸)
シアル酸分子種置換によるがん悪性化機構の解明		2015年3月	日本薬学会第135年会(神戸)
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
静岡県立大学薬学部	講座名 臨床薬効解析学	分助	平井 啓太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Influence of CYP4F2 Polymorphisms and Plasma Vitamin K Levels on Warfarin Sensitivity in Japanese Pediatric Patients	共著	平成25年4月	<i>Drug Metabolism and Pharmacokinetics</i> . 28 (2)
Simultaneous microdetermination of bosentan, ambrisentan, sildenafil, and tadalafil in plasma using liquid chromatography/tandem mass spectrometry for pediatric patients with pulmonary arterial	共著	平成26年2月	<i>Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis</i> . 89
Plasma vitamin K concentrations depend on CYP4F2 polymorphism and influence on anticoagulation in Japanese patients with warfarin therapy	共著	平成27年5月	<i>Thrombosis Research</i> . 135 (5)
Reduced folate carrier 1 gene expression levels are correlated with methotrexate efficacy in Japanese patients with rheumatoid arthritis	共著	平成27年6月	<i>Drug Metabolism and Pharmacokinetics</i> . 30 (3)
Augmented renal clearance in pediatric patients with febrile neutropenia associated with vancomycin clearance	共著	平成27年12月	<i>Therapeutic Drug Monitoring</i> . DOI: 10.1097/FTD.0000000000000270
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
小児悪性腫瘍患者および発熱性好中球減少症患者におけるバンコマイ		平成27年5月	日本TDM学会
Influence of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the antiemetic efficacy of triple antiemetic combination with aprepitant in cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy: TRIPLE		平成27年9月	European CanCer Organisation
ホスフェニトイン長期投与における血中濃度および最適投与量の検討		平成27年11月	日本医療薬学会
リファンピシンとアムロジピンの薬物間相互作用に関する後ろ向き観		平成27年11月	日本医療薬学会
AC療法施行乳癌患者の重篤な好中球減少症の発現と遺伝子多型との関		平成27年12月	日本臨床薬理学会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生体機能分子分析
職名	助教	氏名	関 俊哲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年度より	薬品分析化学、薬品分析特論、分析実習講等の講義配布資料を工夫し、重要な部分は講義中スライドの説明とともに記入するようにした。また、授業後の感想と意見を踏まえて、改善を行い、理解しやすい講義を目指した。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成23年度より	物理系薬学実習(分析化学)テキストの分析化学化部分を作成。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年度より	研究室所属の大学院生には自主的に実験、研究に取り組むように指導している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
First observation of N-acetyl leucine and N-acetyl isoleucine in diabetic patient hair and quantitative analysis by UPLC-ESI-MS/MS	共著	2015年2月	<i>Clin. Chim. Acta.</i> , 444, 2015, 143-148.
Development of a highly sensitive separation method for the analysis of metabolites in human nails and applications in the diagnosis of chronic	単著	2014年6月	<i>YAKUGAKU ZASSHI</i> , 134(11), 1191-1198, 2014
Rapid and sensitive determination of the intermediates of advanced glycation end products in human nail by UPLC-ESI-TOF-MS	共著	2012年2月	<i>Anal. Biochem.</i> , 2012, 424, 187-194.
Development of novel active acceptors possessing a positively charged structure for the transglycosylation reaction with Endo-M and their application to oligosaccharides analysis	共著	2011年4月	<i>Rapid Commun. Mass Spectrom.</i> , 2011, 25, 2911-2922.
Determination of DL-amino acids in human nail, derivatized with R(-)-4-(3-isothiocyanatopyrrolidin-1-yl)-7-(N,N-dimethylaminosulfonyl)-2,1,3-benzoxadiazole, by UPLC-ESI-TOF-MS	共著	2011年2月	<i>J. Chromatogr. B</i> , 2011, 879, 3220-3228.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒト爪を用いた隠れ糖尿病リスク者境界病態検査法の開発		2015年8月	第28回バイオメディカル分析科学シンポジウム
Development of oligosacchride highly sensitive analysis method by enzyme and chemical labeling.		2014年11月	The 2nd BK21Plus Workshop (2014) on Nanobiomaterials and Advanced Analytical Techniques
Sensitive determination of the intermediates of advanced glycation end products in human fingernail for the diagnosis of diabetes.		2014年10月	The 12th Changwon International Symposium on Advanced Science and Technology (Korea)
ヒト毛髪中N-acetyl-leucineの分析		2013年3月	日本薬学会第133年会
ヒト爪中低分子代謝物の高感度分析法の開発及び慢性疾患診断への応用		2013年7月	第59回 日本薬学会東海支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年6月～平成25年3月	静岡市外国人懇話会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	衛生分子毒性学
職名	助教	氏名	保坂卓臣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Establishment of a stable human cell line, HPL-A3, for use in reporter gene assays of cytochrome P450 3A inducers.	共著	平成24年5月	Biol Pharm Bull, vol.35, No.5
(論文) Augmentation of 3-methylcholanthrene-induced bioactivation in the human hepatoma cell line HepG2 by the calcium channel blocker	共著	平成22年3月	Cancer Sci, vol.101, No.3
(その他) 肝がんにおけるDnmt1の新たな発現制御機構: SHPとMTF-1の拮抗.	単著	平成25年2月	ファルマシア(49巻4号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) リンパ肉腫細胞P1798へのカドミウム長期処理によるメタロチオネイン誘導能の変化とその機構		平成27年8月	メタルバイオサイエンス研究会2015
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
静岡県立大学	生体機能分子分析学	助教	水野 初
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年4月～	「薬品分析学特論」では動画を取り入れて他分野の学生にも理解しやすい内容にした。また、実習では実験結果の考察を深めるため、学生とのディスカッション時間を増やすよう心がけた
2 作成した教科書、教材、参考書 試料分析講座 アミノ酸・生体アミノ酸分析 試料分析講座 創薬の分析化学		平成24年6月 平成23年7月	分析化学実験参考書の生体アミン部分を執筆した 分析化学実験参考書の1細胞分析部分を執筆した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Direct metabolomics for plant cells by live single-cell mass spectrometry.	共著	平成27年8月	Nature Protocols, Vol. 10
(論文) Live Single-Cell Plant Hormone Analysis by Video-Mass Spectrometry.	共著	平成27年3月	Plant and Cell Physiology, Vol. 56
(論文) Identification of low-dose responsive metabolites in X-irradiated human B lymphoblastoid cells and fibroblasts.	共著	平成27年1月	Journal of Radiation Research, Vol. 56
(論文) In situ molecular analysis of plant tissues by live single-cell mass spectrometry.	共著	平成24年12月	Analytical Chemistry, Vol. 84
(著書) 実験医学別冊：見つける、量る、可視化する！質量分析実験ガイド	共著	平成25年3月	羊土社
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
質量分析を用いた最新オミクス研究		平成27年9月	日本分析化学会中部支部 静岡地区講演会
ノンターゲットメタボロミクスにおける高精度分析法の開発		平成27年10月	メタボロームシンポジウム
¹⁵ N標識化クロレラを用いた多成分高精度分析法の開発		平成27年12月	新アミノ酸分析研究会
誘導体化法を用いたキラルプロテオミクスの開発		平成27年12月	新アミノ酸分析研究会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年3月～平成24年2月	日本分析化学会中国四国支部庶務幹事		
平成24年3月～	Analytical Sciences編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生化学講座	職名 助教	氏名 南 彰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎週 毎週	問題解決能力の向上を目的に、研究報告会を開催した。 基礎知識力の向上を目的に、勉強会を開催した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	毎年 毎年	医用工学実習実習書 生物系薬学実習 I 実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年10月6日 2015年10月6日 2015年8月10日 2015年6月30日	動物実験に関するFD講演会に参加した。 実験倫理に関するFD講演会に参加した。 授業改善に関するFD講演会に参加した。 情報セキュリティに関するFD講演会に参加し	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Preferential Accumulation of 14C-N-Glycolylneuraminic Acid over 14C-N-Acetylneuraminic Acid in the Rat Brain after Tail Vein Injection.	共著	2015年6月	PLoS ONE, 10, e0131061
Highly sensitive histochemical imaging of sialidase activity and role of sialidase in hippocampal memory.	単著	2015年12月	Yakugaku Zasshi, 135(12), 1341-1348.
Visualization of sialidase activity in Mammalian tissues and cancer detection with a novel fluorescent sialidase substrate.	共著	2014年1月	PLoS ONE, 9, e81941
Improvement of depression-like behavior and memory impairment with the ethanol extract of Pleurotus eryngii in ovariectomized rats.	共著	2013年10月	Biol. Pharm. Bull., 36, 1990-1995
Catalytic preference of Salmonella typhimurium LT2 sialidase for N-acetylneuraminic acid residues over N-glycolylneuraminic acid residues.	共著	2013年5月	FEBS Open Bio, 3, 231-236
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ラット海馬における希少シアル酸分子種N-グリコリルノイラミン酸の蓄積		2015年5月	第79回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム
新規糖鎖機能分析ツールを利用した記憶におけるシアリダーゼの機能解明		2015年6月	新学術領域研究班会議
Imaging of sialidase activity in rat brain sections with a novel fluorescent sialidase substrate		2015年7月	The 38th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
神経活動と連動した迅速なシアリダーゼ活性変化		2015年8月	第34回日本糖質学会年会
卵巣摘出ラットが示すうつ様行動や記憶障害に対するエリンギの改善効果		2015年11月	日本女性医学子学会第30回学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年1月-現在	糖鎖科学名古屋拠点 メンバー		
平成24年4月-平成25年3月	日本生化学会中部支部 幹事		
平成26年12月-現在	新学術領域「神経糖鎖生物学」 班友		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 創薬探索センター	職名 助教	氏名 村岡大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2015 Guidance on cancer immunotherapy development in early-phase clinical studies.	共著	2015年12月	Cancer Sci. 106(12):1761-71
Nanogel-based immunologically stealth vaccine targets macrophages in the medulla of lymph node and induces potent antitumor immunity.	共著	2014年9月	ACS Nano. 23;8(9):9209-18
Fut10, is required for the maintenance of stem cell populations.	共著	2013年10月	J Biol Chem. 4;288(40):28859-68.
Establishment of animal models to analyze the kinetics and distribution of human tumor antigen-specific CD8 ⁺ T cells.	共著	2013年4月	Vaccine. 19;31(17):2110-8.
Peptide vaccine induces enhanced tumor growth associated with apoptosis induction in CD8 ⁺ T cells.	共著	2010年9月	J Immunol. 15;185(6):3768-76.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
The Immunogenicity of neoantigen decides the tumoral inflammation and therapeutic efficacy of immune checkpoint blockades.		2015年10月	第74回日本癌学会学術総会
Signal-transducing Adaptor Protein-2 enhances the STAT3 signaling and prevents exhaustion of the Long-term Memory T Cells.		2015年7月	第19回日本がん免疫学会総会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学薬学	講座名	臨床薬剤学
		職名	助教
		氏名	谷澤 康玄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年2月18日	1年生病院・薬局早期体験学習の成果発表の場として、SGD (スモール・グループ・ディスカッション) および報告会を実施した。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年4月～ 2015年4月	薬学系就職説明会 事務局
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成22年6月～平成27年10月	静岡県立大学市民講座「漢方の基礎学習と薬草園見学の会」 スタッフ		
平成23年9月	NHK文化センター静岡教室「知って納得 漢方の基礎知識」 講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬学部・生体情報分子解析学分野	職名 助教	氏名 山口 賢彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年5月～7月	学生には各授業の最後に簡単な課題を行ってもらい、理解度を自身で確認させた。また、臨床検査学の担当授業では病理画像や模式図を充実させたスライドを作成し、視覚的に理解させやすいようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			教育に関わる全てのFD活動に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Calcitonin Receptor Signaling Inhibits Muscle Stem Cells from Escaping the Quiescent State and the Niche.	共著	平成27年10月	Cell Report, vol.13, page.302-314
(論文) Evidence of Notch-Hesr-Nrf2 Axis in Muscle Stem Cells, but Absence of Nrf2 Has No Effect on Their Quiescent and Undifferentiated State.	共著	平成27年9月	Plos One, vol.10, e0138517
(論文) A platelet-activating factor (PAF) receptor deficiency exacerbates diet-induced obesity but PAF/PAF receptor signaling does not contribute to the development of obesity-induced chronic inflammation.	共著	平成27年2月	Biochem. Pharmacol., vol.93, page.482-495
(論文) Doublecortin marks a new population of transiently amplifying muscle progenitor cells and is required for myofiber maturation during skeletal muscle regeneration.	共著	平成27年1月	Development, vol.142, page.51-61
(論文) Antiobese function of platelet-activating factor: increased adiposity in platelet-activating factor receptor-deficient mice with age.	共著	平成26年1月	FASEB J., vol.28, page.440-452.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 脂肪組織由来間葉系幹細胞に高発現するGpr3を介した脂肪分化調節機構の解明		平成27年12月	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会
(演題名) 肥満誘発マウスの慢性炎症における血小板活性化因子の機能解明		平成27年5月	第79回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品化学分野	職名 助教	氏名 山口 深雪
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年、25年、26年、27年	化学系薬学実習IIの授業予習用ウェブサイト作成、補足説明用配布プリントの活用	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年、26年、27年	化学系薬学実習II用テキスト、基礎・医用工学実習用テキストの作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成25年、26年、27年	薬剤師国家試験対策底上げ講義 (化学)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Catalytic Silicon Mediated Carbon-Carbon Bond-Forming Reactions of Unactivated Amides	共著	平成23年1月	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 2011, 133, 708-711
(論文) One-Pot Synthesis of Substituted Benzo[b]furans from Mono- and Dichlorophenols Using Palladium Catalysts Bearing Dihydroxyterphenylphosphine	共著	平成25年8月	<i>J. Org. Chem.</i> , 78, 9270-9281
(論文) Repetitive Two-Step Method for o,o,p- and o,p-Oligophenylene Synthesis through Pd-Catalyzed Cross-Coupling of Hydroxyterphenylboronic Acid	共著	平成25年12月	<i>Molecules</i> , 18, 15207-15219
(論文) One-pot Synthesis of 2,4-Disubstituted Indoles from N-Tosyl-2,3-dichloroaniline Using Palladium-Dihydroxyterphenylphosphine Catalyst	共著	平成26年5月	<i>Org. Lett.</i> , 16, 2386-2389
(論文) Scalable Synthesis of Dihydroxyterphenylphosphine Ligands	共著	平成27年3月	<i>Tetrahedron</i> , 71, 2743-2747
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)パラジウム-DHTP触媒を用いる多置換ベンゾフラン類およびインドール類の合成		平成27年7月	第61回日本薬学会東海支部総会・大会
(演題名) One-Pot Synthesis of Multisubstituted Benzo[b]furans and Indoles Using Ortho-Selective Cross-Coupling by Palladium-DHTP Catalyst		平成27年8月	IUPAC-2015 45th World Chemistry Congress
(演題名)パラジウム-DHTP触媒を用いる二置換ベンゾフランのワンポット合成法の改良		平成27年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2015
(演題名) C-Hアリアル化を鍵段階とするフルオランテン類の合成法の開発		平成27年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2015
(演題名) Pd-DHTP 触媒を用いた塩化アルレーフによる無直接インドールのC-3位選択的C-Hアリアル化		平成28年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年9月	第29回有機合成化学セミナー実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。